

和仏法律学校講義録

清水, 澄 / 松岡, 義正 / 遠藤, 忠次 / 掛下, 重次郎

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

3-18

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

74

(発行年 / Year)

1903-07-29

第三學年第十八號目次

民法 親族 (自四〇五) (完) 法學士 掛下重次 耶

義經及目次 八頁

破産 法 (自三三七) 法學士 松岡義正

民事訴訟法 (自三二〇) (至三五七) 法學士 遠藤忠次

行政 法 (自三〇四) 法學士 清水澄

雜報 ○偽造文書ノ行使○第十九回卒業證書授與式

090
1903
3-1-18

被後見人又ハ其法定代理人ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得ヘシ其他後見人カ親族會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ爲スコトヲ得サル行爲ヲ其獨斷ニテ爲シタル場合ハ孰レモ取消スコトヲ得ヘシ而シテ此場合ニ於テハ無能力者ノ行爲ノ取消ニ關スル規定第一二一條乃至第一二六條ヲ準用スヘキモノトス

第三 第八百八十九條第二項ノ準用 此條ニハ母ハ親族會ノ同意ヲ得テ爲シタル行爲ニ付テモ其責ヲ免ルルコトヲ得ス但母ニ過失ナカリシトキハ此限ニ在ラストアリテ親權ヲ行フ母ノ責任ヲ規定シタルモノニシテ之ヲ後見人ニ準用スルコトト爲シタルカ故ニ後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ爲シタル行爲ニ付テハ其同意ヲ得タルノ故ヲ以テ之カ責任ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス而シテ此場合ニ於テモ親權ヲ行フ母ト同シク後見人ニ過失ナカリシコトヲ證明スルトキハ其責任ヲ免ルルコトヲ得ヘキナリ

第四 第八百九十二條ノ準用 此條ハ無償ニテ子ニ財產ヲ與フル第三者カ親權ヲ行フ父又ハ母ヲシテ之ヲ管理セシメサル意思ヲ表示シタル場合ニ關スル規定ニシテ之ヲ後見人ニ準用スルコトト爲シタルカ故ニ第三者カ無償ニテ被

民法親族 後見 後見ノ事務

090
1903
3-1-18

被後見人又ハ其法定代理人ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得ルシ其他後見人カ親族
 會ノ同意ヲ得ルニ非ナレハ當スコトヲ得ル行爲ヲ其職務ニテ爲シタル場合
 一親レモ取消スコトヲ得ヘシ而シテ此場合ニ於テハ無能力者ノ行爲ノ取消
 關スル規定第一二一條乃至第一二六條ヲ準用スヘキモノトス
 第三 第八百八十九條第二項ノ準用 此條ニハ母ハ親族會ノ同意ヲ得テ爲シ
 タル行爲ニ付テモ其責ヲ免ルルコトヲ得ス但母ニ過失ナカリシトキハ此限ニ
 在ラズトアリテ親權ヲ行フ母ノ責任ヲ規定シタルモノニシテ之ヲ後見人ニ準
 用スルコトト爲シタルカ故ニ後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ爲シタル行爲ニ付
 テハ其同意ヲ得タルノ故ヲ以テ之ヲ責任ヲ免ルルコトヲ得ルニシテ而シテ
 ナ此場合ニ於テモ親權ヲ行フ母ト同シク後見人ハ過失ナキトシテ又第三
 ルトキハ其責任ヲ免ルルコトヲ得ヘキナリ
 第四 第八百九十二條ノ準用 此條ハ無償ニテ子ノ財産ヲ與ル第三者親
 權ヲ行フ父又ハ母ヲシテ之ヲ管理セシメタル意思ヲ表示シタル場合ニ關シテ
 規定ニシテ之ヲ後見人ニ準用スルコトト爲シタルカ故ニ第三者ノ無償ニテ被

民法親族 後見ノ章 第五

後見人ニ財産ヲ與ヘ面シテ其管理ヲ後見人ニ爲カシテ其意思ヲ表示シタル
 則キハ其財産ノ管理ハ後見人ニ屬セシメテ別ニ其第三者ノ指定シタル管理人
 又ハ第三者カ之ヲ指定セカレシトキハ被後見人其親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ
 テ裁判所カ選任シタル管理人ヲシテ之ヲ管理セシムルモノトス而シテ又第三
 者カ管理人ヲ指定セシトキト雖モ其管理人ノ權限カ消滅シ又ハ之ヲ改任スル
 必要アル場合ニ於テ第三者カ更ニ管理人ヲ指定セタルトキモ亦同シク裁判所
 カ選任シタル管理者ヲシテ管理セシムルモノトス而シテ亦同シク裁判所
 カ選任シタル管理者ヲシテ管理セシムルモノトス

第四節 後見ノ終了

本節ニ於テハ後見カ終了シタル場合ニ於ケル後見人ノ義務及ビ管理ヨリ生ジ
 タル債權ノ特別時効ヲ規定スルニテ六款ニ於テ其旨ヲ示シテ居ルニシテ
 後見終了ノ原因ハ被後見人ニ出ツルモノバアリ後見人ニ出ツルモノアリ其被後
 見人ニ出ツル場合ハ第一死亡シタルトキ第二成年ニ達シ若クハ禁治産ノ宣告
 ヲ取消シタルトキ第三他人ノ養子ト爲リタルカ爲メ養親カ親權ヲ行フニ由

第四戶主カ後見人ニ其場合ニ於テ被後見人ノ其家ヲ去リタルトキ是ナリ又養
 後見人ニ出ツル場合ハ第一死亡シタルトキ第二辭任シタルトキ第三免職其他
 資格ノ欠缺シタルトキ第四第九百二條第一項ノ場合ニ於テ父又ハ母カ家ヲ去
 リタルトキ第五第九百三條ノ場合ニ於テ戶主カ隱居ヲ爲シタルトキ是ナリ而
 シテ其原因ノ被後見人ニ出ツル場合ハ第一乃至第三州後見終了ノ絕對ナルモ
 シニシテ復タ後見人アルロトナシ然レトモ其他ノ場合ニ於テハ後見ノ終了ハ
 絕對ナルモノニ非ラレハ總テ後見人又ハ之ノヤモノトス

計算ノ義務(第九三七條) 後見人ノ任務カ終リタルトキハ後見人又ハ其相繼
 承人ハ二个月内ニ其管理ノ計算ヲ爲スニトシテ要ス但此期間ハ親族會ニ於テ之ヲ
 仲長スルロトシテ得當民法人ノ事編第二〇五條第二〇七條ニテ其期間ノ延長
 他人ノ財産ヲ管理スルトキハ何人ト雖モ其計算ヲ爲サズルベカラズ其計算
 之期タル所ニシテ既ニ說キタルカ如ク親權者ニ付テハ其規定ノ外第九九〇
 條故ニ後見人又ハ其相繼承人ニモ此義務ヲ負フシタルモノニシテ固ヨリ當然
 ノ規定ナリ又ハ親權者ノ事ニテハ第九百二十八條ノ規定ニテ其計算ノ期

後見人指定又ハ選定ノモノニ限ルハ第九百二十八條ノ規定ニ從ヒ毎年少クトモ一回被後見人ノ財産狀況ヲ親族會ニ報告スル義務アリトモ計算ノ義務アリトモ異ナリテ指定又ハ選定後見人ニ限ラズ如何ナル被後見人其職務ヲ其職務ヲ負フモノトシテ而シテ管理ノ計算ハ被後見人ニ歸スル時ニテ二箇月内又ハ其原則トスルレトモ被後見人ニ財産多クアルカ其正當ノ理由ニテ此期間内ニ計算ヲ爲スコト能ハサルカ如キトキハ親族會ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得又其反對ニ於テ容易ニ計算ヲ爲スコトヲ得ヘクシテ二箇月ヲ要キスルニテハ其親族會ハ之ヲ短縮スルコトヲ得ルモノト爲シタリトモハス

後見ノ職務ハ後見人ノ一身ニ關スルモノナル故ニ後見人カ死亡シタルカ如キ場合ニ於テ其職務ハ之ヲ相續人ニ承繼セザルヲ原則トスレトモ事務引繼ノ場合ニ於テ急迫ノ事情アルトキハ被後見人其相續人又ハ法定代理人カ自ラ其事務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至ルマテ必要ナル處分ヲ爲シ又ハ後見人任務ヲ繼續セザルヘカヲアルコト第九百四十一條ト本條ニ規定スル管理ノ計算ヲ爲スルコトハ後見人ノ相續人ニ承繼スルモノトス而シテ此等ノ事ハ被後見人ノ遺囑

ニ關スルモノヲ其財産權ニ係ルモノトモ定メ後見人亦其相續人ニ承繼得ルモノト爲シテ當然ナリ而シテ此義務又相續人ニ承繼スルモノトモスル可キハ後見人カ死亡シタル場合ニ於テ被後見人ハ常ニ損失ヲ被ルヘケレバ才見後見人ノ計算ニ關スル條件第九三八條ニ後見人ノ計算ハ被後見監督人ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スルモノトモ被後見人ノ遺囑ニ依リテ其職務ヲ繼續得ルモノトモ被後見人更迭シ得タル場合ニ於テハ後見人ノ計算ハ親族會ヲ認可得ルコトヲ要ス爾民法人事編第二〇六條ニ依リテ被後見人ノ遺囑ニ依リテ其職務ヲ繼續得ルモノトモ被後見人カ計算ヲ爲スヘキ場合ニ於テ之ヲ其自己ニ於テ爲スヘキモノトモスル可キハ其計算正確ナラザルヘク然ルトキハ他ノ保護規定アルトモ被後見人ノ爲メニ殆ト何等ノ用ヲ爲サザルニ至ルヘシ故ニ後見人ノ計算ハ必ず後見監督人ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘキコトト爲シテ而シテ此場合ニ於テ被後見人其相續人後任ノ法定代理人ノ立會ハオカシテ後見監督人ノ立會ヲ以テスルモノトモ爲シタルカ他ナシ此等ノ人ハ被後見人ノ財産ノ實況ニ通曉セザルヲ以テ其計算ノ果シテ正確ナルカ否キヲ知ルコト種々困難アリトモ被後見監督人ノ常ニ

被後見人ノ財産調査状況ヲ知悉スルケレハ雖テ其計算ノ正否ヲ分別シテモ得テケレムナリトシテ此等ノ人ハ其相續人ノ後見ノ責任ヲ負フベシトモ思フ其後見人ノ更迭アリタルニ於テ第九百十三條ノ規定ニ依リテ後見監督人モ改選セラルルニキル此場合ニ於テハ後見ノ計算ハ立會ヲ後見監督人ニ前任者ナル時將テ後任者ナル時ニ別ニ明文ヲ以テ之ヲ定メテ其後見監督人ニ於テハ前任後見監督人ノ立會ヲ以テスヘキモノトス何レナルニ前任後見監督人ニ非ラレバ財産ノ實況ヲ知悉セラルベシニシテ且後見監督人ノ後見人ノ管理ノ計算ヲ終ルマデハ其任務未タ完カラサルモノナレハナリ

本條ノ條件ハ絕對ノ條件ニシテ若シ之ヲ缺キタルトキ即テ後見監督人ノ立會ナクシテ爲シタル計算ハ計算トシテ效力ヲ有セス故ニ此場合ニ於テハ前任後見人又ハ其相續人ハ更ニ後見監督人ノ立會ヲ以テ計算ヲ爲ササルヲ得ズ且後見カ被後見人ノ爲メニ終了シ後任後見人ノアラサル場合ニ於テハ後見人カ後見監督人ノ立會ヲ以テ爲シタル計算ハ被後見人自身又ハ其相續人ニ對シテ爲スモノナルカ故ニ本人又ハ其相續人ニ於テ之ヲ審査スルヲ以テ其計算ニシ

テ正當ナラサルトキ所之カ救済ヲ求ムルヲ得ヘシ是ヲ以テ此場合ニハ別ニ後見ノ計算ハ親族會ヲ認可ヲ得ルヲ必要ナキモノトス之ニ反シテ後見人ノ更迭アリタル場合即テ被後見人ノ爲メ後見未タ終了セズ後任後見人カ前任後見人ニ交替シタル場合ニ於テ前任後見人カ爲メ計算ハ被後見人自身又ハ其相續人ニ對シテ爲スモノニ非スシテ後見事務引續ク爲メ後任後見人ニ對シテ爲スモノナルカ故ニ此場合ニ於テハ前後ノ後見人共謀スルトキハ私曲ヲ爲ス事トテ得ヘキ虞アルヲ以テ計算ノ審査ハ後任後見人ノミニ委セズシテ親族會ヲ認可ヲ得ルコトヲ要スルモノトシ被後見人ノ利益ヲ保護セリトモ云ヘリ計算終了前ニ成年ニ達シタル者モ後見人ニ對シテ爲シタル契約及至單獨行爲ノ效力(第九三九條)ニ未成年者カ成年ニ達シタル後後見ノ計算ヲ終了前ニ其者ト後見人又ハ其相續人トノ間ニ爲シタル契約ハ其者ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得其者カ後見人又ハ其相續人ニ對シテ爲シタル單獨行爲亦同ノ取消ノ自由ニ第十九條及至第百二十二條乃至第百二十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス蓋民法人事編第二〇八條ノ規定ニ依リテ其後見人ノ後見ノ終了ノ時ハ

未成年者カ僅ニ成年ニ達シタル際ニ在リテハ其智識未タ完カラス而シテ久シク後見人ノ監督ノ下ニ在リテ未成年者ホ之ヲ脱シタル後ニ在リテモ其威嚴制メラルル人情ノ免レサル所又久シク後見ニ付テラシ自其財產ヲ自由ニスルコト能ハサリシ者カ成年ニ達シテ遠ニ其財產ヲ利用シ又ハ浪費セシト欲スル者多キハ是レ亦人情ノ免レサル所ナリ故ニ未成年者カ成年ニ達シタル際ニ在リテハ金銀其他ノ財産ノ引渡ヲ受ケンテ欲スル念切ナク由リ後見人ニ對シテ自己ニ如何ナル不利益ナル契約ヲ爲スヤモ圖リ知ルルカラサルナリ例ヘハ未成年者タリシ者ノ不動産ヲ廉價ニテ後見人ニ讓渡シ又ハ後見人ニ對シテ少シ金額ヲ受取リテ其計算其他一切ノ責任ヲ免除スル契約ヲ爲ス如キ是ナリ而シテ此危險ハ後見任務ノ繼續中ニ於ケルト毫モ異ナルコト非ザルナリ故ニ未成年者カ成年ニ達シ能力ヲ取得シタル後ト雖モ後見ノ計算ニシテ未ダ終了セタルトキニ在リテハ被後見人タリシ成年者又ハ其相續人ト後見人トノ間ニ爲シタル契約及ヒ其者カ後見人又ハ其相續人ニ對シテ爲シタル單獨行爲(權利ノ拋棄追認等)ハ之ヲ取消スコトヲ得ルモノト爲シテ之ヲ廢止スルハ其組合ニハ附

以上ノ場合ニ於テ外國ノ立法例ニ於テハ取消スコトヲ得ヘキ法律行爲ノ性質ヲ限定シタルモノアレトモ實際其性質ヲ區別スルコト難キナリテ各權ノ行爲皆多少ノ危険ヲ存スルカ故ニ事ロ一切ノ行爲ヲ取消ヲ許スコトト爲スノ優レルニ如カサルモノトシ本法ニ於テハ一切ノ行爲ヲ取消ヲ許シタルナリ本條ノ取消ハ當事者雙方ヨリ請求スルコトヲ得ルモノニ非スシテ被後見人タリシ者ニ限ル是レ本條ニ於テ被後見人タリシ者ノ利益ヲ保護スル趣旨ハ無能力者ノ爲シタル行爲ノ取消ヲ其無能力者ノミニ許シ之ヲ其相手方ニ許ササルト同一ナリ故ニ本條ノ取消ハ總テノ場合ニ適用スヘキモノニ非ス(一)未成年者ノ後見ニ限ル故ニ禁治產者ノ後見ニハ適用セサルナリ(二)後見カ成年ニ達シタルニ因リテ終了スルコトヲ條件トス故ニ被後見人ノ死亡ニ因リテ後見ノ終了シタル場合又後見人ノ死亡辭任又ハ免職等ノ場合ニモ適用セサルモノトス(三)本條ニ規定スル被後見人ノ取消權ハ無能力者ノ取消權ニ非スト雖モ其性質之ニ類似スルカ故ニ後見人又ハ其相續人カ其追認ヲ求ムルノ權利取消シ效力追

民法論 後見 後見ノ終了

認ノ效力、取消及ヒ追認ノ方法、取消權ノ特別時効等ニ關シテハ無能力者ノ行為
 又ハ瑕疵アル意思表示ノ取消ニ關スル總則編第一九條及二一一條乃至第
 一二六條ノ規定ヲ準用スルコトニ爲シタリ而シテ、並ニ適用スト言ハスシテ準
 用スト言ヒタルハ他ナシ右ノ法條ハ主トシテ無能力者ノ行為ニ關シタルモノ
 ナレトモ本條ハ未成年者カ成年ニ達シ既ニ能力者ト爲リタル後ノ行為ノ取消
 ニ關シ其間ニ稍々異ナル所アルヲ以テナリ、
 金錢返還ノ義務及ヒ此義務ヲ怠リタル場合ノ制裁第九四〇條、後見人カ被後
 見人ニ返還スヘキ金額及ヒ被後見人カ後見人ニ返還スヘキ金額ニ一後見ノ計
 算終了ノ時ヨリ利息ヲ附スルコトヲ要ス、
 後見人カ自己ノ爲メニ被後見人ヲ金錢ヲ消費シタルトキハ其消費シタル時ヨ
 リ之ニ利息ヲ附スルコトヲ要ス尙テ損害アリタルトキハ其賠償ノ責任ス(爲
 民法人事編第二一〇條)、
 後見ノ管理ノ計算終了シタル時其被後見人及ヒ被後見人カ各々直チモ其返還ス
 ヘキ金額ヲ拂渡スヘキモノナラザルヲ以テ若シ之ヲ怠ルトキハ其後見人ヨリ被後

見人ニ返還スヘキ金額ト被後見人ヨリ後見人ニ立替金等ヲ返還スル時ト區
 別スルコトナク統レモ計算終了ノ時ヨリ當然之ニ利息ヲ附スルコトトセリ蓋
 民法人事編第二一〇條伊太利民法及ヒ佛蘭西民法(第四七四條等)ハ後見人ヨリ
 返還スルキモノト被後見人ヨリ返還スヘキモノトニ付テ區別ヲ爲シ後見人ヨ
 リ被後見人ニ返還スヘキ金額ニ對シテハ計算終了ノ時ヨリ當然利息ヲ生スル
 コトト爲シ其被後見人ヨリ後見人ニ返還スヘキ金額ニ對シテハ計算終了後後
 見人ノ催告ヲ受ケタル時ヨリ利息ヲ生スルコトト爲シタレトモ被後見人ト被
 見人トノ間後見關係ノ全ク絶ヘタル後ニ在リテモ此ノ如キ差異ヲ設ケルハ公
 平ヲ缺クヲ以テ本法ニハ右ノ區別ヲ採用セザリシナリ、
 後見人ハ被後見人ノ金錢ヲ保存シ又ハ被後見人ノ爲メニ之ヲ利殖スルキモノ
 ニシテ自己ノ爲メニ之ヲ消費スルコトハ許サレタル所ナリ然レモ之ニ拘ハラ
 ス被後見人カ被後見人ノ金錢ヲ消費シタルトキハ其計算終了後此場合ハ利息ニ
 付テ第一項ノ規定ニ依ルニ係ルト其以前ニ係ルトヲ問フコトナク不法行為
 ニ屬スルヲ以テ取テ計算ノ終了ヲ待ツコトナク其消費ノ時ヨリ之ニ利息ヲ附

シ尙ホ其外損害アリタルトキハ之ヲモ賠償スヘキ責任ニシムルハ固ヨリ當然ナリ故ニ例ヘハ被後見人カ後見人ノ保存スル金額ヲ以テ或會社ニ對シ株金ノ拂込ヲ爲スヘキ場合ニ於テ後見人カ其金額ヲ消費セシヨリ會社ニ拂込ムヘキ金額カタ爲メニ株式ヲ就買セラレテ損害ヲ被リタルトキハ後見人ハ右法定利息ノ外尙ホ其損害ヲ賠償セラルヘカラス是レ不法行爲ノ原則ヨリ生スル當然ノ結果ナリト雖モ本條第一項ニ於テ計算終了ノ時ヨリ利息ヲ附スヘキ旨ヲ規定シタルカ故ニ後見人カ消費シタル場合ニ於テモ計算終了ノ時ヨリ利息又附スレバ他ニ最早賠償ノ責ナキカ如キ疑ヲ生スルヲ以テ此疑ヲ豫防スルカ爲メニ第二項ノ規定ヲ設ケタルナリトモ蓋シテハ本條第一項ノ規定ニ對シテ計算終了ノ時ヨリ利息ヲ附スルノ規定ハ金錢ヲ返還スヘキ場合ニノ適用セララルモノニシテ其他ノ財産ヲ返還スヘキ場合ニハ適用セザルナリ而シテ金錢以外ノ財産ヲ消費シテ後見人カ返還ヲ爲ナス若クハ之ヲ遅延シタルトキハ損害賠償ニ關スル原則ノ適用ヲ受タルノミヨリ其賠償額ハ計算終了ノ時ヨリ當然ニ附スルモノナリトモ蓋シテハ後見事務引繼ノ義務(第九四一條)ハ第六百五十四條及七第六百五十五條ノ規定

ハ後見ニ之ヲ準用ス(舊民法九事編第二〇五條乃至第三〇四條)ハ如數ノ對照法律ニ後見終了ノ場合ニ委任終了ノ場合ニ關スル第六百五十四條及七第六百五十五條ノ規定ハ法律上ハ代理人カ後見人相當然適用セザルモノナリトモ蓋シテハ其性質上同ノ規定ニ依リテ委任ノ權カ以テ委任ニ關スル委任ニ準用スルモノト爲シタリ故ニ(一)委任終了ノ場合ニ於テ急迫ノ事情アルトキハ受任者其相續人又ハ法定代理人ハ委任者其相續人又ハ法定代理人カ委任職務ヲ處理スルニ對シテ得ルニ至ル所ノ必要カハ處分ヲ爲スルニ對シテ要スルカ如ク後見人其相續人又ハ法定代理人ハ被後見人其相續人又ハ法定代理人カ自之其事務ヲ處理スルニ對シテ得ルニ至ル所ノ必要カハ處分ヲ爲スルニ對シテ要スルカ如ク此場合ニ於テ被後見人其相續人法定代理人ノ權限ハ極力擴張スルモノナリトモ蓋シテハ後見人トシテ其任務ヲ行フニ非ズルカ故ニ後見ノ規定ニ適用スルハ又ラテモ原則トスルナリ(二)委任終了ノ場合ニ於テ其總領ノ事由ハ其委任者カ出テタル間受任者ニ出テタルトモ固ヨリ之ノ相手方ニ通知スルカ如ク又ハ相手方之ヲ知ラザルトモ非ラレバ之ヲ以テ其相手方ニ對抗スルコトヲ得ズルカ如ク又

後見終了ノ場合ニ於テモ其終了ノ事由ハ後見人ニ出ラザルト被後見人ニ出ラザルトト問ハス之ヲ他ノ一方ニ通知シ又ハ他ノ一方カ之ヲ知ラザルニ非テハ之ヲ以テ他ノ一方ニ對抗スルモノト得ズ例ヘハ後見終了ノ事由ハ被後見人ノ方ニ生シタリトセンカ此場合ニ於テ後見人カ之ヲ知ルカ又ハ本人相續人又ハ其法定代理人ヨリ後見人ニ其通知ヲ爲スニ非テハ後見人カ其資格アリトシテ爲シタル行爲ニ付テ其越權ヲ咎ムルモノト得ザルナリ後見終了ノ事由ハ後見人ノ方ニ生シタル場合モ亦同シテ被後見人相續人又ハ法定代理人カ之ヲ知レバ又ハ後見人若クハ其相續人モ其通知ヲ爲スニ非テハ後見ノ終了ヲ理由トシテ後見人ノ盡クハ義務ヲ盡サザリシニ因リテ生スルキ責任ヲ辭スルモノト得ザルナリ

第九百三十七條ニ付テ説キタルカ如ク後見ノ任務ハ後見人一身ニ止マレタリ其相續人ヨリ移轉セザルニ原則トスレドモ被後見人ノ利益保護ノ爲メ必要上此例外ヲ設ケタルナリ

第九百九十四條ニ定メタル時効ハ後見後見ニ關スル債權ノ時効第九四二條一第百九十四條ニ定メタル時効ハ後見

人後見監督人又ハ親族會員ト被後見人トノ間ニ於テ後見ニ關シテ生シタル債權ニ之ヲ準用ス

前項ノ時効ハ第九百三十九條ノ規定ニ依リテ法律行爲ヲ取消シタル場合ニ於テハ其取消ノ時ヨリ之ヲ起算ス舊民法人事編第二一條ニ關シテ其時効ハ後見人後見監督人又ハ親族會員ト被後見人トノ間ニ於テ後見ニ關シテ生シタル債權ハ親權ヲ行ヒタル父又ハ母ト其子トノ間ニ財產管理ニ付キ生シタル債權ト其性質同一ナルヲ以テ其時効ニ付テモ之ト同一ノ規定ニ從ハシムルコトト爲シ第八百九十四條ニ規定シタル時効ヲ茲ニ準用スルコトト爲シタリ即チ被後見人カ能力者ト爲リタル時若クハ後任ノ法定代理人カ就職シタル時ヨリ時効ニ罹ルナリ而シテ本條ニハ廣ク後見ニ關シテ生シタル債權トアルカ故ニ被後見人ニ對シテ計算ヲ請求スル權ハ勿論管理ノ計算ノ結果後見人ヨリ被後見人ニ返還スルキ金額其他後見人カ其職務ヲ怠リタルニ因リテ被後見人ニ對シテ生シタル損害賠償又ハ被後見人ヨリ後見人ニ支拂フルキ生活費教育費管理ノ費用等被後見人ヨリ後見人ニ對スル債權タルト被後見人ヨリ被後見人ニ對ス

民法編 後見 後見ノ終了

ルモノトヲ同ハス後見ニ關シテ生シタル債權ハ皆此中ニ包含スルモノトス又後見監督人又ハ親族會カ被後見人トノ間ニ於ケル債權モ亦同シキナラザルニ對シテ後見終了ノ後管理ノ計算ヲ終ラサル以前ニ於テ被後見人ト後見人ト爲シタル契約又ハ被後見人カ後見人ニ對シテ爲シタル單獨行爲ヲ第九百三十九條ヲ規定ニ依リ取消シタルニ因リテ債權ヲ生シタルトキハ其債權ノ時効ハ第二項ノ規定ニ從フコト能ハサルヲ以テ特ニ第二項ヲ設ケ其取消ノ時ヨリ之ヲ起算スルコトトシタリ

保佐ニ關シテ生シタル債權ノ時効第九四三條ノ前條第一項ノ規定ハ保佐人又ハ親族會員ト準禁治產者トノ間ニ之ヲ準用ス間ニ根據管理ノ行爲ニ對シテ保佐人又ハ親族會員ト準禁治產者トノ間ノ保佐ニ於ケル關係ハ保佐モ後見人又ハ親族會員ト被後見人トノ間ノ後見ニ於ケル關係ニ同シキカ故ニ其關係ニ依リテ生シタル債權ノ時効ノ規定ヲ茲ニ準用スルコトト爲シタリ

第七章 親族會

親族會トハ之ニ依リテ保護セラルル者ノ親族其他之ト緣故アル者ヲ以テ組織スル機關ニシテ其者又ハ其家ニ重大ナル關係アル事項ヲ議決スルモノナリ前シテ從來ニ於テハ被後見人ノ不動產ヲ讓渡スコトニ付キ親族ノ連署ヲ要スルコトヲ明治十六年内務省番外通此達ハ一般人民ヲシテ遵守セザルニキ效力ヲ有セスヲ以テ定メテヨリ以來後見人ノ不動產ヲ讓渡以下列ノ親族ノ連署ヲ要スルコトノ慣習ヲ生シ若シ之ナキモハ其讓渡ハ取消スコトヲ得ヘキモノトセリ又父又ハ母カ選定シタルニ非スシテ被後見人ノ爲メニ後見人ヲ選任スヘキ場合ニハ親族相集リテ之ヲ選任スヘキ慣習モアリタレトモ是レ皆一ノ慣習タルニ過キスシテ從來ハ法律上親族會ト認メラレタルモノ絶ヘテ之ナカリシモノニシテ民法ノ此規定ハ我邦ニ於テ法律ヲ以テ親族會ヲ認メタルノ嚆矢トスルナリ

本章ノ規定ハ法律若クハ命令ノ規定ニ依リ開テハ一切ノ場合ニ適用セララルルモノトス故ニ本法ニハ之ヲ一章ト爲シタレトモ舊民法人事編第一七一條乃至第一七七條其他外國ノ立法例ニハ之ヲ後見ノ機關トシテ規定スルモノ多シ

ト雖モ獨リ後見ノ場合ニ限ラズ其他ノ場合ニ於テモ同一ノ規定ニ從フヘキモ
 ノナルカ故ニ本法ニハ右ノ如ク一章ト爲シタルナリ
 親族會ノ召集第九四四條 本法其他ノ法令ノ規定ニ依リ親族會ヲ開クヘキ場
 合ニ於テハ會議ヲ要スル事件ノ本人戸主親族後見人後見監督人保佐人檢事又
 ハ利害關係人ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ召集ス(舊民法人專編第一七二條第一七
 三條第一七六條第一七七條非訟事件手續法第九六條乃至第九八條)
 親族會ノ召集ニ付テハ外國ニ於テモ裁判所之ヲ召集スルモノ多キカ故ニ本法
 ニ於テモ亦其例ニ倣ヒ親族會ハ無能力者ノ爲メニスルモノト其他ノ者ノ爲メ
 ニニスルモノトヲ問ハス之ヲ召集スルニ當リテハ必ス裁判所之ヲ召集スヘキモ
 ノトセリ唯無能力者ノ爲メニ設ケタル親族會ハ最初一回ヲ限リ裁判所之ヲ招
 集シ其以後ニ於テハ會議ヲ要スル毎ニ會員其他ノ者ヨリ之ヲ召集スルモノト
 セリ無能力者ニ非サル者ノ爲メニ親族會ヲ開クヘキ場合ハ成年ノ子第七百七
 十二條ニ規定セル成年者ニ限ルカ婚姻ヲ爲サントスルニ當リ繼父母又ハ嫡母
 カ同意ヲ爲サザルトキ第七七三條滿二十五年ニ達セザル子カ協議上ノ離婚ヲ

爲ストキ(第八〇九條成年ノ子カ養子ヲ爲シ又ハ養子ト爲ル場合ニ於テ繼父母
 又ハ嫡母カ同意ヲ爲サザルトキ)第八四三條第八四六條成年ノ子カ協議上ノ離
 縁ヲ爲スニ當リ右ノ親カ同意ヲ爲サザルトキ(第八六三條)ノ如キ是ナリ
 無能力者ノ爲メニ設ケタル親族會ト其他ノ者ノ爲メニ設ケタル親族會トノ間ニ存
 スル差異ヲ解説セシムニ無能力者ノ爲メニハ展開會スヘキ必要アルヲ以テ最初
 一回裁判所之ヲ召集シ其以後ニ於テハ最初裁判所カ定メタル會員ハ其資格ヲ
 失フマテハ長ク之ヲ繼續スレトモ無能力者以外ノ者ノ爲メニ設ケタル親族會ハ
 展之ヲ開クヘキ必要ナキヲ常トスレハ會議ヲ要スヘキ事件ノ生シタル度毎ニ
 其會員ハ裁判所ニ於テ選定セラルルモノナルカ故ニ此會員ハ每會變更スルコ
 トアルヘク而シテ其召集ハ既ニ説キタルカ如ク必ス裁判所ニ於テ爲サザルヘ
 カラサレトモ無能力者ノ爲メニ設ケタル親族會ハ最初ノ一回ヲ除キ次回ヨリ
 ハ裁判所ノ手ヲ煩ハスニシテトナラザルナリ
 召集ヲ請求スルコトヲ得ル者ハ會議ヲ要スル事件ハ本人例ニハ無能力者ノ爲
 メニ開クヘキ場合ニ於テハ其無能力者前ニ集ケタル例ニ於テ婚姻又ハ養子縁

組ヲ稱スントモ若成無ク子ニ爲テ開合ニ其場合ニ稱テ其者亦本本人ノ
 戶主親族後見人後見監督人保倫人保倫人準養治産者爲メニ開クハ其場合ニ限定
 公益ノ代表者タル檢察事及ヒ其利害關係人等是ナリ而シテ法律ハ廣ク利害關係
 人ニモ親族會ノ召集ヲ請求スルコトヲ許シ然レモ被後見人ノ親族及ヒ公
 益人保護者タル者ヲ限ラズ何人ト雖モ親族會ニ召集シ付キ利害關係ヲ有ス
 ル者ヲ證明スル限キモ召集ヲ請求スルコトヲ得ベシ例ヘテ被後見人ハ不
 動産ヲ買受クント欲スル者ニ被後見人ハ其買買ヲ承諾シテ所ニ拘ハラヌ親族會
 召集ヲ爲サズルコト雖モ其買主ハ自ラ之ヲ召集ヲ請求スルコトヲ得判例ナリ
 親族會員ノ選定及ヒ其員數第九四五條ニ親族會員ハ三人以上ノ親族
 人又ハ其家ニ縁故アル者ヲ中ニハ裁判所ノ選定スルコトヲ要スルモノトシ且
 後見人ヲ指定スルコトヲ得ル者ハ遺言ヲ以テ親族會員ヲ選定スルコトヲ得
 民法人事編第一七一條第一項第七四條ニ第九六二條ノ條ニ該クハ
 親族會員ノ員數ニ付テハ外國ノ立法例ニ於テハ或ハ之ヲ選定スルモノトシ或
 ハ之ヲ一定スルモノトシ或ハ佛蘭西民法第九〇七條ニ會協治安裁判所判事ノ外

六人トシ佛蘭西民法第九〇六條ニ會長ノ外ニ二人以上六人以下トモ之ヲ選
 ヲ其員數ヲ定テ其一人員ヲ得難キトナシ又ハ其人員ノ員數若クハ
 員數ノ以テ組織スル場合ニ其員數ノ充實本法所於テハ單ニ其最少限
 ノ員數ノ之ヲ三人以上ト爲シ其最多限ニ付テハ制限ヲ設ケナリシナリ故ニ
 七人若クハ十人ノ會員ヲ組織セシムル希望ニ及トズル裁判所之中心要
 認メテ其場合ニ於テハ以テ之ノ如キ員數ヲ成立スルモノト爲シ且其會員
 中ノ親族者ノ常トシテ多ク最近ノ親族ヲ選定シ且之ヲ限ル
 コトト爲ストモ若シ親族少キ者ハ三人以上ノ親族ヲ得難キトアリ故ニ其他家
 人又ハ其家ニ縁故アル者ト爲セテ法律ニ依リテ會員充實會親族ノ十分分ナ
 ルトモ非ナレハ會員ヲ要スル本人又ハ其家ニ縁故アル者ヲ選定スルコトヲ
 得スト規定スルモノヲ以テ會員充實會親族ノ員數十分分ナルトモ雖モ最初
 コリ縁故アル者ヲ選定スルコトノ妨アラサルナリ而シテ其會員ハ裁判所之ヲ
 選定スルモノトシ非屬法律第九六條乃至第九八條ノ條ニ其夫ノ
 本人ニ縁故アル者トシ其友人其直系若シテ屬人其父母ノ友人等親族者

其家ニ繼イタル者トシ本入ニ其關係ヲ以テ雖モ本家分家同族舊藩主ト
 藩臣トノ間柄商家ニ於テ親戚關係ヲ受ケル者モ其家トノ如キ其先代ノ友
 人等モナリハ本家ニ親戚關係ヲ有スルモノトシ其會員ハ親族會議ニ
 親族會員ヲ選定スル以上ノ如ク裁判所之ヲ爲スル本則ト爲スト雖モ後見人ヲ附
 定スルコトヲ得ル者即チ第九百一一條ニ規定スル者未成年者ニ對シテ最後ニ親
 權ヲ行フ者若シテ親權ヲ行フ父ノ生前ニ於テ母カ豫メ財產ヲ管理ヲ辭シタル
 トキハ父ハ遺言ヲ以テ親族會員ヲ選定スルコトヲ得ルモノトモリ若シ此選定
 權ヲ有スル者カ會員ト全部ヲ選定セタルトモリ裁判所ニ於テ該殘員ヲ選定ス
 ルモノトス而シテ此遺言者カ親族會員ヲ選定スルニハ普通ノ場合ノ如ク被選
 者ニ付キ制限ナキヲ以テ親族ニ非タル者其他本人又ハ家ニ何等ノ關係ナキ者
 ヲモ選定スルコトヲ得ルモノトモリ其關係ニ於テハ親族會議ニ於テハ該
 普通ノ場合ニ於テ召集セラレタル親族會議ハ其會議ヲ議決ヲ終了シタルトモリ
 之ニ因リテ當然解散シ其會員ハ之カ資格ヲ失フモノトモリ其後更ニ親族會議ヲ
 召集スル必要ヲ生シタルトキハ更ニ其會員ヲ選定スルモノトモリ然レテモ無能

力者ノ爲メニハ屬親族會議ヲ召集スル必要アルカ故ニ此親族會議ニ限ラズハ其無
 能力ノ止ムマテ會員裁判所ノ選定シタル者ト遺言ヲ以テ選定セラレタル者ト
 ヲ同ハスルノ資格ハ繼續スルモノトモリ(第九四九條) 第五、親族會議ニ於テ
 親族會議ヲ召集スルニハ場所ハ法律ヲ以テ別ニ之ヲ定メテカ故ニ裁判所ノ見込
 ヲ以テ或ハ之ヲ裁判所内ニ於テシ或ハ他人ノ場所ヲ定メ或ハ會員ハ協議ニ任
 ルコトヲ得ルニシテ本法ニ於テハ裁判所カ親族會議ニ干渉スルハ單ニ之ヲ招
 集スルニ過キサカ無能力者ノ爲メニ設ケタル親族會議ハ最初一回ノ裁判所之
 ヲ召集スルモノニシテ佛獨其他ノ立法例ノ如ク判事カ其會議ニ關係ヲ爲サズ
 カ故ニ實際ニ於テ裁判所内ニ於テ會議ヲ開クニ上ハ權メテ稀ナリカハ親族
 親族會員タル義務ハ免除及ヒ其不能力第九四六條親戚關係人地ニ居住スル者其
 他正當ノ事由アル者ハ親族會員タルコトヲ辭スルコトヲ得因茲親戚關係人亦同
 第九百八條ノ規定ニ親族會員ニ之ヲ專用スル民法未編第八〇條乃至第九
 八二條親戚關係會議員タルモノトモリ召集權ハ親族會議員タルモノトモリ

本條ニ於テ親族會員タルコトヲ辭シ得ル原因及ヒ親族會員タルコトヲ得タル原因ヲ規定シタル親族會員タルコトニ據見人及ヒ後見監督人及ヒ後見監督人タルコトヲ得タルコトヲ強制負擔スルニ而シテ後見人及ヒ後見監督人ニ付テハ蓋シ脱キタル者如ク第九百七條ニ於テ後見人タルコトヲ得タル者後見監督人タルコト亦同シ(第九百八條ニ於テ後見人タルコトヲ得タル者後見監督人タルコト亦同シ)ノ規定シタルトモ後見人ト親族會員ト其性質ヲ異ニシタル故ニ後見人ニ關スル右ノ規定ヲ直チニ適用スルニ得ズ法律ニ據テ後見人ト親族會員ト區別セタル理由ヲ左ニ叙述シテ之ヲ示ス

(一) 法律ニ據テ後見ノ任務ヲ辭スルコトヲ得ル原因トシテ規定シタルモノハ五箇アリトモ親族會員ハ後見人ノ如ク繁忙ナルモノニ非ス其責任モ後見人ノ如ク重大ナルモノカ故ニ其原因極度ヲ縮少シ唯遠隔ノ地ニ居住スル者ト其他正當ノ事由アリル者(後見ノ任務ヲ辭スル原因トシテ第五ノ原因トニ親族會員タルコトヲ辭スルコトヲ許スル法律ニ據テ遠隔ノ地ニ居住スル者ニ親族會員タルコトヲ辭スルヲ免除シタル者)若シ此ノ如キ者ニ強ヒテ會議ニ列シテ欲スル者

臨時日下費用トヲ要シ其者ヲ爲シタル重大ナル負擔タルコトアルヲ以テ之故ニ後見人カ任務ヲ辭スルコトヲ得ル原因トシテ規定セル(二)軍人トシテ親族會員タルコトニ據見人ノ住所ノ市又ハ郡以外ニ於テ公務ニ從事スルコトヲ其他第九百七條第三號及ヒ第四號ノ事由ハ法律ハ之ヲ正當ノ原因ト認メザリシヲ以テ此等ノ事由アリテ雖モ當然親族會員タルコトヲ辭スルコトヲ得ズ然レモ此等ノ事由アリタルトモ若シ裁判所ニ於テ之ヲ正當ノ事由ト認メタルトモ之ニ因リテ其會員タルヲ辭スルコトヲ得ヘシ而シテ如何ナル事由カ正當ナルモノニ據見人所ヲ査定ニ任セリ(非訟事件手續法第一〇〇條第一〇一條)ハ(二)親族會員タルコトヲ得タルコトニ付テハ後見人タルコトヲ得タル規定第九〇八條ヲ適用スルコトトシタルカ故ニ(一)未成年者(二)禁治産者及ヒ準禁治産者(三)別番公權者及ヒ停止公權者(四)裁判所ニ於テ免職セラレタル法定代理人又ハ保佐人(五)破産者(六)會議ヲ要スル事件ノ本人ニ對シテ訴訟ヲ爲シ又ハ爲シタル者及ヒ其配偶者並ニ直系血族(七)行方ノ知レサル者(八)裁判所ニ於テ親族會員タルコトトシテ事跡不正ノ行爲又ハ著シキ不行跡アリテ之ヲ認メタル者等ハ

親族會員タルコトヲ得タルナリ而シテ此外尙ホ後見人後見監督人及ヒ保佐人
 親族會員タルコトヲ得タルモノトシテ是ハ他ナシ此等ノ者ハ或ハ親族會ノ監
 督ヲ受クヘク或ハ親族會ト相待チテ監督ノ機關タルヘキ者ナラバ故ナリ但此
 等ノ者ハ第九百四十八條ニ規定スルカ如ク親族會ニ於テ自己ノ意見ヲ陳述ス
 ルコトヲ得ヘキナリ
 親族會ノ決議第九四七條ニ親族會ノ議事ハ會員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス
 會員ハ自己ノ利害ニ關スル議事ニ付キ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス(舊民法人
 事編第一七五條)
 親族會ノ議事ハ會員ノ一致ヲ以テ決セントスルモ其一致ヲ得ルハ困難ナルハ
 又四分ノ三若クハ三分ノ二トスルカ如キハ細密ニ失スルヲ以テ本法ニ於テ
 ハ過半數ヲ以テ決スルコトトシタリ故ニ例ハ會員三名ナルトキハ二名ノ一
 致アルコトヲ要シ若シ會員五名ナルトキハ三名以上ノ一致アルコトヲ要ス爾
 シテ本條ニハ會員ハ過半數ヲ以テ決ストアルカ故ニ會議ニ出席シタル會員
 員數ヲ間フコトヲ要セザルモズモハ會議員ノ過半數出席スルニ非ザルハ決議

ヲ爲スルコトヲ得タルナリ是ヲ以テ出席會員過半數ニ充タザルトキハ如何ニ急
 テ要スル場合ト雖モ如何トモスルコト能ハサルヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テハ
 第九百五十二條ニ依リ會員ハ其決議ニ代ルニキ裁判ヲ爲スコトヲ裁判所ニ請
 求スルヨリ外テラザルナリ
 後見人後見監督人及ヒ保佐人ニ非サル者ハ親族會員タルコトヲ得レドモ其議
 事ニシテ自己ノ利害ニ關係ヲ有スルトキハ自己ノ利害關係ヲ有スル會員ハ會議ヲ要
 若シ此ノ如キ制限ヲ爲サザルトキハ自己ノ利害關係ヲ有スル會員ハ會議ヲ要
 スル本人ノ利益ヲ圖ラスシテ専ラ自己ノ利益ヲミマ圖ルヘキハ人情ノ常ナル
 ヲ以テ此ノ如キ者ハ其議事ヲ表決ノ數ニ加ハルコトヲ許サザルモトセリ例
 ハハ無能力者ノ不動産ヲ買受ケントスル親族會員ハ第八百八十六條ノ親族會
 決議ニ加ハルコトヲ得タルカ如キ是ナラバ親族會ニ於テ其決議
 親族會ニ於テ意見ヲ述バルコトヲ得ル者(第九四八條)本人戸主家ニ在ル父母
 配偶者本家並ニ分家ノ戸主後見人後見監督人及ヒ保佐人ハ親族會ニ於テ其意
 見ヲ述フコトヲ得

親族會ノ召集ノ前項ニ掲ケタル者ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス(舊民法人事編第一七
 一七五條第二項) 依テ、或主たる人對親族會ニ對シテ召集會ニ對シテ其意
 本條ニ於テ親族會員ニ非スル親族會ニ列シテ見テ得ルコトヲ得ル者ヲ
 現存者トシテ本人ノ主家ニ在ル父母配偶者本家並ニ分家ノ戶主後見人後見監
 督人及至保佐人等ハ皆親族會ノ議事ニ付キ重大ナル利害關係ヲ有スルヲ常
 スルカ故ニ親族會ニ列シテ見テ得ルコトヲ得ルコトヲ得ルコトヲ然レトモ唯其意
 見ヲ述ブルニ止マリ表決ニ加ハルコトヲ得ルコトヲ得ルコトヲ然レトモ唯其意
 見ヲ此等ノ議事以上ノ如ク意見ヲ述ブル權ヲ有スルカ故ニ其意見ヲ述ブル機
 會ヲ得ルコトヲ得ルコトヲ得ルコトヲ得ルコトヲ得ルコトヲ得ルコトヲ得ルコト
 是レヲ要ス(舊民法人事編第一七五條) 此等ノ者ハ親族會召集ノ通知ナクシテ親族會
 開キタルトモ此等ノ者分家ノ戶主ヲ除クハ第九百五十一條ニ依リ其決議ニ
 對シテ不服ヲ親對所ニ訴フルコトヲ得ルコトヲ得ルコトヲ得ルコトヲ得ルコト
 無能力者ノ爲メニ設ケタル親族會第九四九條ハ無能力者ノ爲メニ設ケタル親
 族會ニ對シテ無能力ノ止メテ之ヲ繼續スル此親族會ハ最初ノ召集ノ場合ニ於テ

本人眞法定代理人後見監督人保佐人又ハ會員之ヲ召集ス(舊民法人事編第一七
 二條) 會員ハ親族會員ノ爲メニ設ケタル非親族會員ノ場合ニ於テモ召集スルコ
 親族會員無能力者ヲ爲メニ設ケタル非親族會員ノ場合ニ於テモ召集スルコ
 トナルヘシ然レモ其場合ハ極メテ稀ナルハ故ニ會議ヲ要スル事項ヲ議了シタ
 ルトキハ直ニ解散散會キモ議ニ於テ第九百四十四條ニ於テ叙述シタル
 カ如ク其會員ハ當然其資格ヲ失フ故ニ其後ニ於テ更ニ會議ヲ要スルコト生
 タルトキハ更ニ會員ヲ選定シテ之ヲ召集スルコトニ然レトモ無能力者採成
 年者禁治產者單禁治產者深癡ヲ選出シ親族會ヲ開クヘキ必要アルカ故ニ其招
 集ノ度毎ニ裁判所ニ於テ其會員ヲ選定セシメ其召集ヲ爲サシムルハ親族會
 員ナルヲ以テ此場合ニ於テハ親族會ハ無能力ヲ繼續スル間繼續スルモノ
 トシ最前一旦裁判所ニ於テ之ヲ召集シ其後無能力者ノ成年ニ達シ或ハ其
 能力ヲ回復スルニ至ルマデ會員ハ其資格ヲ繼續シ會議ノ都度改選セザルコト
 トセリ而シテ普通ノ場合ニ於テハ召集ノ都度裁判所親族會ヲ召集スルヲ常ト
 シテトモ無能力者ノ爲メニ設ケタル親族會ハ最初ノ回限リ裁判所之ヲ召集ス

於テハ裁判官親族會議ノ議長ト爲リ之ヲ監督スルニ拘ハラス其決議ニ對シテ不服ヲ訴スルコトヲ許セリ況ニ我邦ノ如ク裁判官カ親族會議ニ干渉セザルニ其決議ニ對シテ不服ヲ訴フ所コトヲ得ザルモノトスルトモハ其危險甚ク大ナルベキヲ以テ本人戶主親族後見人後見監督人保佐人檢事又ハ利害關係人ヨリ其不服ヲ裁判所ニ訴フルコトヲ得ルモノトシタリ而シテ其不服ヲ唱フル方法ハ訴訟ヲ以テモサレハカラザルモノニシテ其提起ノ期間ニ付テハ制限ヲ設ケタリ若シ親族會議ノ決議ニ對シテ期間ノ制限何時モテモ例ハ決議アリテ三ヶ年若クハ五年ノ後ニ至リ訴ヲ提起スルコトヲ得ルモノトスルトモハ既ニ落著シタル事項ヲ再ヒ問題トシ又ハ既ニ執行シタル事項ヲ再ヒ復セザルヲ得ザルニ至ルベキヲ以テ決議後一箇月内ニ其不服ヲ訴フベキコトヲ規定シタリ

本法ニハ親族會議ニ出席セザル會員ニ會議ノ結果ヲ通知スベキ規定ナク而シテ訴ヲ提起スル期間ハ決議ヲ知ルヲ以テ起算スルヲ以テ闕席シタル會員カ其決議ヲ知ラザルニ拘ハラズ訴ヲ提起ノ期間ハ其決議ノ時ヨリ起算スベキモノニシテ會員カ其決議アリタルコトヲ知ル前ニ其期間ノ經過スルカ如キ不都合ノ

生スルコトアルベシ殊ニ二三ノ會員ヲ申合セ他ノ一二ノ會員ニ招集ノ通知ヲ爲サスシテ會議ヲ開キ而シテ不當ノ決議ヲ爲シタル場合ノ如キハ訴訟提起ノ期間ハ招集ノ通知ヲ受ケザル會員カ決議ノアリタルコトヲ知ラザル間ニ經過スルコト多クシテ之ヲ救済スル途ナキハ缺點ト謂ハザルベキナリ

不服ヲ申立ツベキ裁判所ヲ管轄ハ非訟事件手續法第九十六條乃至第九十八條ニ之ヲ規定セリ又該法第九十九條ニ於テハ親族會議カ決議ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於ケル救済法第九五二條 親族會議カ決議ヲ爲スコト能ハサルトモ會員ハ其決議ニ代ルベキ裁判ヲ爲スコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得當民法人手續第一七六條 親族會議カ決議ヲ爲スコト能ハサルトモ會員ハ其決議ニ代ルベキ裁判ヲ爲スコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

親族會議カ旅行疾病其他ノ事由ニテ開會スルヲ得ザルコトアリ或ハ會議ヲ開クモ過半数ヲ得ザルコトアリテ之カ爲メニ必要ノ決議ヲ爲スコト能ハサルトモ會員ヨリ其決議ニ代ルベキ裁判ヲ爲スコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ルモノトセリ是レ會議ヲ要スル本人保護ノ爲メニ至當ノ規定ナリ而シテ此請求ヲ爲スコトヲ得ル者ハ會員ニ限リ其他ノ親族後見人等ハ此請求權ヲ有セズ

本ナラ然レトモ裁判所ニ親族會ヲ決議出代所ニ對シテ抗告ヲ爲ス可キ得ルモノニ對シテ此抗告ハ獨リ親族會員ニ限ラズ第九百四十四條ニ掲ケテ得ル者即チ本人戸主親族後見人後見監督人保佐人檢事又チ利害關係人ヨリモ爲スコトヲ得ルモノトス非訟事件手續條第一〇二條ニ依リ親族會員ノ責任第九五三條ニ第六百四十四條ニ規定シ親族會員ニ之ヲ專用スル本條ハ親族會員ノ責任ヲ定メ各ルモノニシテ其責任ハ受任者ノ責任ニ同シキモノトモリ即チ受任者ハ委任人本質ニ從テ善良力ヲ管理者ノ注意ヲ以テ委任事務ヲ處理スル義務ヲ負フ第六四四條モノニシテ本法ニ於テハ之ヲ後見人ニ專用シ第九三六條又後見監督人ニモ之ヲ專用シ第九一六條タレハ同一ノ趣意ニ基キテ之ヲ親族會員ニモ專用シタル方ヨリ是ヲ以テ親族會員ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス例ハ親族會ニ於テ後見人後見監督人保佐人等ヲ選任スルトキ不注意ニ因リ不適任者ヲ選任シタルカ如キ又無能力者以テ不動產ヲ賣却セントシ其可否ヲ決スルニ當リ相當ノ相宜ヲ注意ヲ以テ其賣却ノ時機及ヒ代價等ノ調査ヲ爲サスシテ後見人ノ發議ニ從テ容易ク之ヲ決議ヲ爲シタル如ク

場合ニ於テ之ヲ爲シ損害ヲ生ズルモノキハ親族會員ハ之ヲ賠償スル義務ヲ負フナリ但親族會員ノ中其決議ニ同意ヲ爲ス者ノ所キハ其者ハ責任ナク唯其決議ニ同意ヲ爲ス者ノ責任を負フヘキヲ論ズ然レテ其責任ノ範圍ハ其責任ノ範圍ニ依リテ定ムルモノトス

第八章 扶養ノ義務

本章ニ於テハ或親族間ニ互ニ扶養ヲ爲スル義務アルモノトシ其義務ノ順位其程度方法等ヲ規定セリ而シテ戸主ハ家族ニ對シテ扶養ノ義務アルモノトシ戸主權ノ規定中第七四七條ニ規定シテ又夫婦ハ互ニ扶養ノ義務アルモノトシ婚姻ノ效力中第七九〇條ニ規定シテ又本章以外ニ於テモ扶養ノ義務ヲ負フ者アリトシ雖モ其義務ノ順位其程度方法等ニ付テハ亦本章ニ規定シ依テ之ヲ定ムルモノトシ扶養ノ義務ハ自己ノ責身ニ依リテ盡シ又教育ヲ受ケルモノトシ能ハズル者ニ對シテ其生活ノ資ヲ供シ又ハ引取リテ之ヲ養ヒ又ハ之ニ教育ヲ受ケルモノトシ義務アル國民法人事編第三條及至第五九條ニ於テハ養育ノ義務ナル文辭ニ用ヒテ之ヲ示シ其意味ハ本來金錢ニ關スル限ラズ其生活ノ資ヲ供スル及至教育及支拂

權利者ヲ引取リテ世帯ニシテ家事包含セザルヲ以テ本法ニ於テ扶養ナル義務ヲ用ヒ扶養義務者ハ必シ世帯金銭別異アリトシテ要スル者ニ限リテ扶養ナル義務アリトシテ其義務ノ範圍又ハ世帯ノ内ニテ扶養ナル義務アリトシテ親族相互ノ間ニ法律上ノ義務ヲ認メシメテ扶養ナル義務ヲ認メシメテ規定ナリ茲ニ自ラ生活スルコト能ハズシテ扶助ヲ要スル者アリトシテ若シ親族ニシテ之ヲ扶助スルコト能ハズシテ扶助ヲ要スル者アリトシテ非ス國家ト雖モ自活至ルヘケレドモ此ノ如キハ到底其財力ノ能ク堪スル所ニ非ス國家ト雖モ自活ヲ爲スコト能ハズシテ扶助ヲ要スル者アリトシテ扶養ナル義務アリトシテ先ツ之ヲ得ナル場合ニ存スルコトニシテ他ニ之ヲ扶養スヘキ者アルニ於テハ先ツ之ヲシテ其扶養ヲ爲サシムルハ當然ナリ故ニ親族ハ自然ノ愛情アルニ因リ相互ニ扶養スヘキモノトセリ而シテ此義務ヲ法律上ノ義務ト爲サシムル親族ノ徳義ニ任ズルコト不能義者ハ父母妻子ノ飢餓ニ迫ルヲ見テ之ヲ顧ミサルトモ如何トモスル備ハサルヲ以テ之ヲ民法ニ規定シ法律上ノ義務ト爲シタルナリ然レドモ扶養ノ義務ハ如何ニ至當ナリトスルモ其範圍ニ至リテハ親族ノ遠近

ヲ斟酌シテ之ヲ定メタルヘカラサルカ故ニ法律ハ其必要ト認メタル範圍内ニ於テ此義務ノ範圍ヲ定メタル

扶養義務者第九五四條 直系血族及ヒ兄弟姉妹ハ互ニ扶養ヲ爲スノ義務ヲ負フ其義務ノ範圍ハ正當ノ扶養ノ義務ヲ負フ者ニ限リテ扶養ナル義務アリトシテ其範圍ニ至リテハ親族ノ遠近ヲ斟酌シテ之ヲ定メタルヘカラサルカ故ニ法律ハ其必要ト認メタル範圍内ニ於テ此義務ノ範圍ヲ定メタル

夫第九五四條 直系血族及ヒ兄弟姉妹ハ互ニ扶養ヲ爲スノ義務ヲ負フ其義務ノ範圍ハ正當ノ扶養ノ義務ヲ負フ者ニ限リテ扶養ナル義務アリトシテ其範圍ニ至リテハ親族ノ遠近ヲ斟酌シテ之ヲ定メタルヘカラサルカ故ニ法律ハ其必要ト認メタル範圍内ニ於テ此義務ノ範圍ヲ定メタル

事第九五六條 第三七條 直系血族及ヒ兄弟姉妹ハ互ニ扶養ヲ爲スノ義務ヲ負フ其義務ノ範圍ハ正當ノ扶養ノ義務ヲ負フ者ニ限リテ扶養ナル義務アリトシテ其範圍ニ至リテハ親族ノ遠近ヲ斟酌シテ之ヲ定メタルヘカラサルカ故ニ法律ハ其必要ト認メタル範圍内ニ於テ此義務ノ範圍ヲ定メタル

親族相互ニ扶養ナル義務アリトシテ其範圍ニ至リテハ親族ノ遠近ヲ斟酌シテ之ヲ定メタルヘカラサルカ故ニ法律ハ其必要ト認メタル範圍内ニ於テ此義務ノ範圍ヲ定メタル

非ス故ニ法律上扶養ノ義務アリトシテ其範圍ニ至リテハ親族ノ遠近ヲ斟酌シテ之ヲ定メタルヘカラサルカ故ニ法律ハ其必要ト認メタル範圍内ニ於テ此義務ノ範圍ヲ定メタル

アレハ親族之ニ寄食シ富者ハ其負擔ニ堪ヘタルニ至ルニ至ルニ至テ以テ民法ニ於テ其範圍ヲ狭クシ直系血族及ヒ兄弟姉妹ハ互ニ扶養ヲ爲スノ義務ヲ負フ其義務ノ範圍ハ正當ノ扶養ノ義務ヲ負フ者ニ限リテ扶養ナル義務アリトシテ其範圍ニ至リテハ親族ノ遠近ヲ斟酌シテ之ヲ定メタルヘカラサルカ故ニ法律ハ其必要ト認メタル範圍内ニ於テ此義務ノ範圍ヲ定メタル

又直系血族及ヒ兄弟姉妹ハ其範圍ニ至リテハ親族ノ遠近ヲ斟酌シテ之ヲ定メタルヘカラサルカ故ニ法律ハ其必要ト認メタル範圍内ニ於テ此義務ノ範圍ヲ定メタル

繼親因別他家或及別親者其親屬關係不在其父母祖父母間又他親之繼親若
 其子繼親因別他家不入其親屬關係其家親屬關係亦不在此限其
 互ニ扶養ノ義務ヲ負フルハ其親屬關係ニ依リテ其親屬關係ノ範圍ニ限リテ此義務
 夫婦別ニ一方ト他トニ其方ノ尊屬親屬關係ニ其家親屬關係ニ依リテ此義務
 夫ト爲リタリ男ニ其家ニ在ル父母祖父母等間ニ於テ相互ニ扶養ノ義務ヲ
 負フ然レドモ夫婦ノ一方ハ縱令他ト一方ニ直系尊屬ノ親屬關係ヲ異ニスル
 者モ其若シテ間此義務ナキモ然レドモ夫婦ノ一方ハ直系尊屬ニシテ家親屬
 者モ他ト一方トハ慣習上殆ト自己ノ直系尊屬ト同一視シ又其尊屬ヨリモ自己
 ノ直系尊屬ト同一視スルカ故ニ以上ノ如ク規定シタリ又間此親屬關係ノ範圍
 扶養ノ義務者ノ順位(九五五條) 扶養ノ義務ヲ負フ者數人アル場合ニ於テハ其
 義務ヲ履行スルヘキ者ノ順序左ノ如クニ定ムルモ其親屬關係ノ範圍ニ依リテ
 第一 配偶者
 第二 直系尊屬

第三 直系尊屬
 第四 前條第二項ニ掲ケタル者
 第五 前條第二項ニ掲ケタル者
 第六 兄弟姉妹
 直系尊屬又ハ直系尊屬ノ間ニ於テハ其親屬關係ノ最モ近キ者ヲ先ニス前條第二項
 ニ掲ケタル直系尊屬間亦同シ舊民法人事編第二八條
 同一ノ人ニ對シテ數人ノ扶養義務者アル場合ニ於テハ少シトモ同種ノ親屬關係
 偶者及ヒ兄弟姉妹及ヒ直系尊屬等アル場合ニ於テハ又同一種ノ義務者ノ數人アル
 コトアリ例ヘハ卑屬數人アリ又ハ兄弟姉妹數人アリ此ノ如キ場合ニ於テハ其
 中何人カ最モ先ニ扶養ノ義務ヲ盡スヘキヤヲ定ムルハ必要ナリ而シテ元來此
 扶養ノ義務ナルモノハ德義ト自然ノ人情トニ基キテ定ムルカ故ニ其順位ヲ定
 ムルニ付テモ亦德義ト自然ノ人情トニ基キテ定ムルカ故ニ其順位ヲ定ムルニ
 第二直系尊屬第三直系尊屬第四戶主第五配偶者又直系尊屬及ヒ直系尊屬ノ配
 偶者第六兄弟姉妹ト爲シタリ外國ニ於テハ直系尊屬ヲ先ニ直系尊屬ヲ先ニ

義務ヲ負ハシムルモノナレトモ我邦ニ於テハ學堂ノ普及社會進歩ノ基本タルヲ以テ現今ノ慣習ニ從ヒ直系卑屬直系尊屬ノ先ニ爲スル所以ナリ又戸主ハ家族ト其親族關係如何ニ薄シト雖モ第四ノ順位ニ於テ義務ヲ盡ササルヘカラス是レ我邦家族制度ヨリ生ズル結果ナリトモ其間ニ於テ直系卑屬數種アリ又直系尊屬數種アリ例ヘハ子ト孫ト及父ト祖父ト及曾祖父トアリ此場合ニ於テハ子ハ孫ヨリ先ニ義務ヲ盡ササルヘカラス又父祖父母ノ間ニ於テハ父ハ祖父ニ先テ此義務ヲ盡ササルヘカラス又配偶者直系尊屬ニシテ家ニ在ル者モ亦同シキナリ此順位モ亦自然ノ人情ニ基テシテ外カラサルナリ

法律カ本條ニ於テ定メタル順位モ在ル者モ自己ノ資力ヲ盡シテモ後ノ順位ニ在ル者ヲシテ義務ヲ盡サシメスシテ自己獨リ此義務ヲ盡ササルヘカラサルヤ若シ順位ノ先ニ在ル者モ其扶養義務ヲ盡スニ十分ナル資力アルトキハ此者ノ資力於テ其義務ヲ盡ササルヘカラサルハ勿論ナレトモ若シ其義務者ニシテ全ク無資力ナルニハ非サレトモ一人ニテ其義務ヲ盡ス資力ナキトキハ其足ラ

ナル所ハ其第二順位ニ在ル者モ補足スヘキモノトス又第一順位ニ在ル者モシテ全ク無資力ナルトキハ最初ノ第二順位ニ在ル者一人ニ於テ全部ノ義務ヲ盡ササルヘカラス

扶養義務ノ分擔第九五六條ニ同順位ニ扶養義務者數人アルトキハ各其資力ニ應ジテ其義務ヲ分擔ス但家ニ在ル者ト家ニ在ラサル者トノ間ニ於テハ家ニ在ル者先ツ扶養ヲ爲スコトヲ要ス

直系卑屬及直系尊屬ノ如ク同順位ニ扶養義務者中親等ヲ異ニスル者アルトキハ其親等最近キ者ヲ先ニ扶養スルコトノ前條ニ規定スレトモ親等ヲ異ニセサル同一順位ノ扶養義務者數人アルトキハ其中何人カ此義務ヲ盡スヘキヤ將テ共同シテ之ヲ盡スヘキヤヲ定メサルヘカラス法律ハ此ノ如キ場合ニ於テハ各資力ニ應ジテ其義務ヲ分擔スルモノトモ例ヘハ子數人アルトキハ兄弟姉妹人之ヲ分擔セサルヘカラズ又父母實父母養父母繼父母數人アルトキハ兄弟姉妹數人アルトキモ亦同シキナリ而シテ此規定ニ依リテ各義務者カ分擔スル高

前月三十圓ヲ要スル場合ニ於テ必スシモ子カ平等ノ割合ヲ以テ各十圓ヲ負擔
 スヘキモノニ非ス各人ノ實力同一ナルニ於テハ平等ニ之ヲ負擔スルハ當然ナ
 リ然レトモ若シ各人ノ實力同一ナラザルトキハ各ノ其實力ニ應シテ負擔セザル
 ヘカラス故ニ一箇月甲長子ハ百圓ノ收入ヲ得乙次男ハ五十圓丙三男ハ三十圓
 ヲ得ルトキハ右扶養ニ要スル三十圓ヲ之ニ比例分擔セザルヘカラス也
 同一順位ノ扶養義務者中扶養權利者ト家ヲ同シウスル者ニ然ラザル者トナ
 タルトキ例ヘハ父ヲ扶養スル場合ニ於テ其家ニ在ル子ト養子縁組又ハ婚姻等
 ニ因リテ他家ニ在ル者トシ問ニ於テハ先後ノ區別ヲ爲サザルヘカラス又子カ
 扶養ヲ受クルニ當リ其義務者トシテ其家ニ養父ト實家ニ實父アル場合ニ於テ
 モ同シク扶養ノ義務ヲ盡スニ付キ先後ノ區別ヲ爲サザルヘカラス即チ家ニ在
 ル者先ツ扶養ヲ爲スコトヲ要ス是レ亦家族制度ニ由生スル結果ト謂フコトヲ
 得ヘシ也
 扶養權利者ノ順位第九五七條ニ扶養ヲ受ル權利ヲ有スル者數人アル場合ニ
 於テ扶養義務者ノ實力カ其全員ヲ扶養スルニ足ラザルトキハ扶養義務者其左

ノ順序ニ從ヒ扶養ヲ爲スコトヲ要スルモノイハテ特ニ制限セザルニ於テハ
 第一直系尊屬養父ハ其間ニ制限セザルニ於テハ其間ニ制限セザルニ於テハ其間
 第二直系卑屬ハ其間ニ制限セザルニ於テハ其間ニ制限セザルニ於テハ其間
 第三配偶者
 第四第九百五十四條第二項ニ掲ケタル者當該ニ親ニ養父養母受クモコトヲ
 第五兄弟姉妹ハ其間ニ制限セザルニ於テハ其間ニ制限セザルニ於テハ其間
 第六前五號ニ掲ケタル者ニ非サル家族
 第九百五十五條第二項ニ規定スル前項ニ於テハ其間ニ制限セザルニ於テハ其間
 扶養義務者一人ニシテ扶養ノ權利者數人ナル場合ニ於テ義務者一人ニシテ總
 ナノ權利者ニ對シテ扶養ヲ爲スニ實力ヲ有スルモノトキハ別ニ論スル所トス然
 レモ其全員ヲ扶養スル實力ヲ有セザルトキハ如何ニスヘキヤ此場合ニ於テハ
 其權利者中ニ於テ順位ヲ設ケ其順位ノ先ナル者ノ實力扶養ヲ受ル所トス
 三配偶者第四配偶者ノ直系尊屬及直系卑屬ニ配偶者第五兄弟姉妹第六前五

就其扶養ノ義務家族是ナリ而於此順位ニ亦德義ノ自然人情トシテ彼等定額ニ
 ルナリ歐米ノ人情ニテ官儀ノ直系尊屬ニ配偶者及直系尊屬ヲ先ニ扶養スル
 事雖其邦ニ於テ直系尊屬ニ最モ尊重スヘキカ故モ之ヲ第一順位ニ置キテ
 列シ其全員ニ對シテ扶養ノ義務ヲ課スルハ亦人情ノ當然トシテ其扶養ノ義務
 扶養權利者タル直系尊屬又直系尊屬中親等ノ異ナル者アルトキ例ヘキ父母
 祖父母トアルトキ又孫トキ孫トキ其最モ近キ者ヲ先ニス即チ父母
 祖父母トアルトキ先孫トキ孫トキ先祖父母トアルトキ是レ自然ノ人情ニ基
 クモノナリ然レテ扶養ノ義務ニ課スルハ亦人情ノ當然トシテ其扶養ノ義務
 同順位ノ權利者間ニ在リテハ其需要ニ應シテ扶養ノ資ヲ分フコト、(第九五八
 條)同順位ノ扶養權利者數人アルトキハ各其需要ニ應シテ扶養ヲ受クルコト
 ヲ得、(第九五九條)同順位ノ扶養權利者數人アルトキハ各其需要ニ應シテ扶養ヲ受クルコト
 ヲ得、(第九六〇條)但シ規定ノ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

同順位ノ扶養權利者數人アルトキハ其間ニ區別ヲ設クルコトヲ得ス例ヘキ家
 ニ子數人アルトキハ其子ハ扶養ヲ受クルコトニ付キ區別ナシ然レトモ此數人

ハ扶養義務者カ其義務トシテ出ス金員ヲ平等ニ分テ列受スルコトキ如何法律ハ
 此場合ニハ扶養ノ資ヲ各權利者ノ需要ニ應シテ分テ付スコトトモ其故例ヘキ扶
 養ヲ受テ育チテ三人アルトキ各其需要ノ同シキトモ其平等ニ分テ列受スルコトモ各
 扶養權利者ノ需要ハ其實力身體ノ強弱年齢男女等ニ依リ同シカラサルコトア
 リ此ノ如キ場合ニ於テハ自ラ差等ナキヲ得ザルモノトモ例ヘキ甲乙丙ノ三子
 アリテ甲男子ハ大學ニ入り一箇月十八圓ヲ要スレトモ他乙丙ハ八圓ノ收入ヲ得
 ル途アリ乙女子ハ一箇月十二圓ヲ要スレトモ他丙ハ八圓ノ收入ヲ得ル途アリ
 雅ニシテ僅ニ六圓ヲ要スルノモ此場合ニ於テハ扶養義務者ニ對シテ甲ハ一箇月
 十圓ヲ請求スルニ止マルモ乙ハ十二圓丙ハ六圓ヲ請求スルコトヲ得ヘシ然レ
 トモ甲乙丙共ニ同一ノ學校ニ入り同額ノ學費ヲ要シ然レトモ他ヨリ收入ヲ得ル
 途ナキトキ換言スレトモ各其需要ノ同シキトキハ就レモ同額ヲ受クルモノト
 ス其必要ニ應シテ各其需要ノ同シキトキハ就レモ同額ヲ受クルモノト
 此場合ニ於テ亦家ニ在ル權利者ト然ラサル者トシテ區別アリ例ヘキ甲
 男ノ家ニ在ル乙男ハ養子ト爲ラテ他家ニ在リ父母ノ中父ノ家ニ在ル母ハ

其實家ニ在ル場合ニ於テ親族ニ被扶養ノ受ケルトスル場合ニ於テ扶養義務者トシテ各權利者ノ需要ニ應ズルコトヲ得ル者トシテ別當說明ヲ要スル所トナリ然レドモ其義務者ニシテ各權利者ノ需要ニ應ズルノ資力ナキトキハ恰モ扶養義務者ニ關スルカ如ク(第九五六條)家ニ在ル者先テ扶養ヲ受タル權利ヲ有スルモノトス是レ家族制度ヨリ生ズル自然ノ結果ナリ亦從來ノ慣習也然ルナラバ扶養義務ハ生ズル場合(第九五九條)ニ扶養ノ義務ハ扶養ヲ受タヘキ者カ自己ノ資産又ハ勞務ニ依リテ生活ヲ爲スコト能ハサルモノニ存在ス自己ノ資産ニ依リテ教育ヲ受クルコト能ハサルトキ亦同シトシテ本人ハ其ノ親ノ兄弟姉妹間ニ在リテハ扶養ノ義務ハ扶養ヲ受タル必要カ之ヲ受ケル者ノ遺失ニ因ラズシテ生ジタルモノキニ存在ス但扶養義務者カ戸主ナルトキハ此限ニ在ラズ(舊民法人事編第二七條)第二九條(遺失)ノ規定ニ依リテ同ノ限ニ在リテ何人モ各自立シテ生活スルヲ原則トスルカ故ニ扶養ノ義務ハ自活スルモノト得ザル者ニ對シテ與フモノコトニ限ラサルベカラズ故ニ本條ヲ以テ此義務ヲ明瞭ニシ扶養權利者カ自ラ生活スルコト能ハサル場合ニ限リ此義務アルモノトセ

リ而シテ茲ニ此規定ヲ設ケタルトキハ第九百五十四條ニハ單ニ直系血族及兄弟姉妹ハ互ニ扶養ノ義務ヲ負フ下アルカ故ニ自ラ生活スルコトヲ得ル者ト雖モ扶養ヲ受クル權利ヲ有スルモノニ非サルカノ疑ヲ生ズルニ至ルベキヲ以テ此規定ヲ設ケタリ蓋シ父又ハ子カ莫大ノ資産ヲ有スル場合ニ於テ父又ハ子カ敢テ自活スルコト能ハサルトキニモ尙ホ之カ衣食ノ資ヲ助ケルハ德義上ノ問題ニシテ法律上ノ義務ト爲スヘキモノニ非ス德義上ノ問題ハ敢テ自治ヲ爲スコト能ハサルカ如キ必要ノ場合ノミニ生ズルモノニ非ラレトモ法律上ノ問題ハ必要ノ場合ニノミ規定スルモノナレハ前ノ場合ノ如ク扶養ヲ爲スノ必要ナキカ如キ場合ニ於テハ其義務ヲ認メサルナリ是ヲ以テ幾分カ財產ヲ有スル者カ其收益ノミヲ以テ生活スルコト能ハサルトキハ其元本ヲ盡シタル後ニ非ラレハ他ヨリ扶養ヲ受タルコトヲ得ヌ又身體健全ニシテ苟モ勞務ニ服スル以上ノ之ニ因リテ生活ノ資ヲ得ルニ難カラサルトキハ唯安居シテ他ノ給養ヲ受ケント欲スルトモ許スヘキモノニ非ス若シ其者少年少若クハ老年ニシテ勞務ニ堪ヘ難キトキハ論ヲ換テス總令壯年ニシテ勞務ニ服スルニ堪フ者ト雖モ

其者ノ身亦ニ依リ勞務ニ服シ難キトキハ扶養ヲ受ク得ルモノト共又扶養ノ義務ハ單ニ生活ヲ扶養スル義務ニ止ラズ必要ナル場合ニ於テハ教育ニ付テモ扶養ノ義務アリ蓋シ教育ハ文明國ニ在リテハ必須ニシテ缺クヘカズニ教育ナキ生活ハ殆ト生活ト爲スニ足ラサルモノナルカ故ニ自己ノ資産ニ依リテ教育ヲ受クルコト能ハサル者ハ扶養義務者ノ費用ヲ以テ教育ヲ受クルコト能ルモノトセサルヘカラス而シテ其教育ノ程度ハ各人同シカラズ其身分年齢身體ノ強弱及ヒ扶養義務者ノ身分資力等ニ依リテ異ナルヘカズ敢テ國家カ國民ニ對シテ負ハシメタル教育義務ノ程度ト同シキモノニ非タルナリ(小學校令第三二條)

以上叙述スルカ如ク扶養ノ權利義務ハ其權利者與自活スルコト能ハサル場合ニノミ存スルヲ原則トスレドモ之ニ對スル例外ナキニ非ズ(第七百九十八條ノ規定ニ從フトキハ夫又ハ妻タル女戶主ハ其妻又ハ夫ノ資力ノ如何ニ拘ハラス一切ノ生活費ヲ負擔ス但其義務者ハ其權利者ノ財産ヲ使用及ヒ收益ヲ爲ス權利ヲ有ス)(二)親權者ハ其子ノ資力如何ニ拘ハラス之ヲ教育セザルカラス(第

八九〇條)但親權者ハ之カ爲メニ子ノ財産ノ收益ヲ爲ス故ニ第一第二ノ場合扶養ニ權利者ノ財産ヨリ生スル收益ニシテ生活費教育費ヲ償フニ足ラズ其場合ニ於テノミ其ノ義務タルヘシト雖モ若シ生活費教育費カ權利者ノ財産ヨリ生スル收益ト同シキカ又ハ之ヨリ少キトキハ眞ノ義務トシテ不利益ヲ受者ルモノニ非ズ

成立法例ニ於テハ過失ニ因リテ自活スルコト能ハサルニ至リタル者ハ單ニ生命ヲ保ツニ必要ナル資料ノミヲ給スヘキモノト爲セリ然レトモ本法ニ於テハ第二項ノ場合ヲ除ク外ハ右ノ如キ條件ヲ設ケズ扶養權利者ハ自己ノ資産又ハ勞務ニ依リテ衣食任及ヒ教育ノ資ヲ辨スルコト能ハサル者ニハ其一切ノ費用ヲ給スヘキモノト爲シ其生活ヲ爲スコト能ハサル原因ノ如何ハ敢テ之ヲ問ハサルナリ然レトモ例外トシテ兄弟姉妹ノ間ニ在リテハ其自活スルコト能ハサルニ至リタル者ノ過失ニ因リテ茲ニ至リタルトキハ敢テ扶養ヲ請求スルコトヲ得サルモノトセリ故ニ父カ放蕩ノ爲メニ自己ノ資産ヲ浪費シ自活スルコト能ハサルニ至リタルトキト雖モ其子ハ之ニ對シテ扶養ヲ爲スナルヘカズ

ス然レトモ若シ兄又ハ姉カ然ルトキハ弟又ハ妹ハ之ヲ扶養スルノ義務ナシ兄弟姉妹ヲ他ノ者ト區別シタルハ蓋シ兄弟姉妹ハ親子其他直系血族間ニ於ケルカ如ク互ニ相扶養スヘキ必要アルコトハ專コ例外ニ屬スルモノニシテ其間相互ノ扶養ヲ責ムルコト直系血族ノ如クスルコト能ハサルハ是レ自然ノ情愛ノ厚薄アルニ依ルナリ故ニ佛國西民法及ヒ獨逸民法ノ如キハ兄弟姉妹ノ間ニハ扶養ノ義務存セサルモノト爲シタリト雖モ多數ノ立法例ニ於テハ扶養ノ義務存スルモノト爲シ本條第二項ニ於ケルカ如キ制限ヲ設ケタリ

然レトモ戸主ハ其兄弟姉妹カ扶養ヲ受クルノ必要其過失ニ因リテ生シタルトキト雖モ扶養ノ義務ヲ負フモノトス是レ家族制度ヨリ生スル當然ノ結果ト謂フコトヲ得ヘシ蓋シ我邦ニ於テハ戸主其家ノ全財産ヲ有シ家族ハ一切ノ財産ヲ有セサルヲ通例トスルカ故ニ家族ハ如何ナル理由ニ因リテ自ら生活スルコト能ハサルニ至ルトモ戸主カ之ヲ顧ミサルコトヲ得ルモノトスルトキハ家族ハ如何トモスルコト能ハサルニ至ルヘキヲ以テナリ而シテ戸主カ家族ヲ扶養スヘキ此義務ハ獨ラ兄弟姉妹ニ對スル場合ノミニ限ラズ之ヨリ親族關係ヲ遠

キ者ト雖モ其家族タル以上之ニ對シテ兄弟姉妹ニ於ケルカ如キ同一ノ義務ヲ負フモノトス

扶養ノ程度第九六〇條 扶養ノ程度ハ扶養權利者ノ需要ト扶養義務者ノ身登及ヒ資力トニ依リテ之ヲ定ム(舊民法人事編第二九條) 需要及ヒ資力 資力 扶養ノ程度ハ兼メ法律ヲ以テ之ヲ一定スルコト能ハス其程度ハ一方ニ於テハ扶養權利者ノ需要ト又他ノ一方ニ於テハ扶養義務者ノ身分及ヒ資力トニ依リ異ナラサルヲ得テレバ大リ例ヘハ扶養權利者ニ付テ言ヘハ或ハ全ク資産ヲ有セシ又勞務ニ就テラ得テタルコトアリ或ハ多少ノ資産ヲ有スルコトアリ又ハ勞務ニ就キ多少生活ノ資ヲ得ルモ自己ノ資産又ハ勞務ニ依リテハ自己生活ノ費用ノ全部ニ充ツルニ足ラサルコトアリ其第一ノ場合ニ於テハ生活費ノ全部ニ付キ扶養ヲ受クル必要アルヘシト雖モ之ト異ナラテ第二ノ場合ニ於テハ不足部分ヲミテ扶養ヲ受クルニ過キ奔ルナリ又其全部又ハ一部ヲ扶養ヲ受クル場合ニ於テ扶養權利者ノ身分ハ其需要ニ影響ヲ及ホスヤ論ヲ埃クニ身分ノ高キ華族ノ如キハ下等社會ノ者ニ比スルトキハ多額ノ生活費ヲ要スルナリ而シテ

又扶養ノ義務者ニ付テ言ハルニ或ハ資産ノ薄弱ナル者アリ富裕ナル者アリ或ハ身分ノ高キ者アリ或ハ然ラサル者アリ例ハ華族又ハ三井岩崎ノ如キ者ハ薄給ヲ受タル者又ハ車夫馬丁カ扶養ヲ爲ス場合ト同シキコト能ハス薄給者車夫馬丁カ扶養ヲ爲ス場合ニ於テハ僅ニ其權利者カ生活ヲ爲スニ足ルカ資ヲ給スレハ足ルモ華族又ハ富裕者カ扶養ヲ爲ス場合ニ於テハ其權利者ノ生命ヲ保持スルニ止マラズシテ尙ホ相當ノ資ヲ給セサルヘカラス而シテ此等ノ程度ニ權利者ノ資力如何ニ依リ決定ムヘキハ勿論ナレドモ必ズシモ之ノミヲ以テ定ムルヲ得ス義務者ノ資力及ヒ身分ノ如何ニ依リテモ斟酌セサルヘカラサルカ故ニ以上ノ如ク規定シタルナリ

又扶養ノ程度ハ右ノ如ク扶養權利者ノ需要及ヒ扶養義務者ノ資力及ヒ身分ニ依リテ一旦之ヲ定メタリトモ其後ニ至リ若シ權利者ノ需要及ヒ義務者ノ資力及ヒ身分ニ變動ヲ生シタルトモ之ヲ増減スルニ得ヘキナリ例ハ最初其程度ヲ定ムル際ハ義務者ノ資力不十分ニシテ相當ノ資ヲ給スルコト能ハザリシモ後ニ至リ富裕ト爲リタルトキハ十分ノ扶養ヲ爲ササルヘカラス又最初其

權利者全ク無資力ナリシモ其後多少ノ財産ヲ有シ又ハ勞務ニ就キタルトキハ最初定メタル扶養ノ費額ヲ減スルコトヲ得ヘキナリ

扶養ノ方法第九六一條 扶養義務者ハ其選擇ニ從ヒ扶養權利者ヲ引取ラズ之ヲ養ヒ又ハ之ヲ引取ラスシテ生活ノ資料ヲ給付スルコトヲ要ス但正當ノ事由アルトキハ裁判所ハ扶養權利者ノ請求ニ因リ扶養ノ方法ヲ定ムルコトヲ得

舊民法ニハ別ニ扶養ノ方法ヲ定メザレドモ扶養義務ヲ養料ヲ給スヘキ義務ト爲シタルカ故ニ當事者間ノ協議ニテ其義務者カ權利者ヲ引取ラテ扶養ヲ爲ストキハ別ニ論スルコトナシト雖モ若シ此ノ如キ協議調ハテアルトキハ其義務者ハ單ニ扶養ノ資料ヲ給スルヲ以テ足ル又外國ノ立法例ニ於テモ多クハ扶養ノ方法トシテ金錢ノ支拂ヲ爲スヘキモノト爲スト雖モ我邦ノ事情ニ照ストキハ扶養權利者ニ扶養ノ資料ヲ與フル方法ノミニテハ適當ナラザルカ故ニ或ハ扶養權利者ヲ引取ラテ之ヲ養ヒ或ハ之ヲ引取ラスシテ單ニ生活ノ資料ヲ給スルコトトシ其選擇ハ一ニ之ヲ其權利者ニ任シタリ然レドモ單ニ此等二方法ノミナラトキハ不便ナルコトアルヘキヲ以テ正當ノ事由アルトキハ裁判所ハ扶養

權利者ノ請求ニ因リ扶養ノ他ノ方法ヲ定ムルコトヲ得ルモノトキハ例ハ扶養權利者ヲ扶養義務者ノ家ニ引取ルトキハ家内ニ不和ヲ生ス然レトモ其權利者ノ生活ノ資料ヲ受クテ他人ノ家ニ居住スルコトノ不可ナク事情ヲ考ル如キ場合ニ於テハ扶養權利者ハ別ニ一戸ヲ構ヘ扶養義務者ニ其費用ヲ受ケルコトトスルヲ得ヘキナリ而シテ其方法ハ一ニ裁判所ニ定ムル限ニ依ラザルヘカラス此點ニ於テハ實情ニ照シテ裁量ヲ爲ス可キ也又此點ニ於テハ扶養ノ程度又ハ方法ヲ定ムル判決ハ效力第九六二條ニ扶養ノ程度又ハ方法ヲ判決ニ因リテ定マリ得ル場合ニ於テ其判決ノ根據ト爲ル事柄ニ變更ヲ生シタルトキハ當事者ハ其判決ノ變更又ハ取消ヲ請求スルコトヲ得民事訴訟法第二四〇條第二四四條ニ根據スルニ依リ變更又ハ取消ノ請求ヲ得凡ソ判決ハ一旦確定シタルトキハ後ニ至リ其效力ニ變更ヲ生セザルヲ通例トスト雖モ扶養義務ニ付テハ此原則ニ依ルコト能ハザルナリ既ニ第九百六十條ニ於テ敘述シタルカ如ク契約ニ因リテ扶養ノ程度及ヒ方法ヲ定マリタル場合ニ於テハ其後ニ至リ其根據タル事情ノ變更ニ依リ變更ヲ求メ又ハ其消滅ヲ求

シタルトキハ其義務ニ變更ヲ生シ又ハ之ヲ消滅セシムルハ論ヲ據テタル所ナシカ判決ニ因リテ扶養ノ程度及ヒ方法ヲ定マリタル場合ニ於テモ其判決ノ根據ト爲リタル事情ニ變更ヲ生シタルトキハ當事者ハ其判決ノ變更又ハ取消ヲ請求スルコトヲ得セシメサルヘカラス扶養ノ程度ハ權利者ノ需要ト義務者ノ身分及ヒ資力トニ依リテ定ムルモノナレハ權利者ノ需要又ハ義務者ノ身分及ヒ資力ノ變更シタルトキハ其程度ハ最初定メタルモノト同シカラサルヘキコトハ契約ニ因リテ之ヲ定メタル場合ト判決ニ因リテ其定マリタル場合トニ依リテ異ニスヘキ理由アルヲ見サルナリ又扶養ノ方法ヲ付テモ亦同シキナリ例ヘハ最初判決ニ因リテ扶養ノ程度ヲ定メタルトキニ在リテハ扶養權利者ハ全ク無資力ナリシモ其後ニ至リ多少財産ヲ有スルニ至リ又ハ勞務ニ就キ多少ノ收入ヲ得ルニ至リ又最初多少ノ財産ヲ有シ又ハ勞務ニ就キタル者ハ其後ニ至リ全ク無資力ト爲リ又ハ勞務ニ就クコト能ハサルニ至ルコトナリ又扶養義務者ニ付テ云ヘハ最初富裕ナリシモ後貧困ニ陥ルコトナリ又最初ハ十分ノ生活ノ資料ヲ給スルコト能ハザリシモ後富裕ト爲リ十分ノ生活資料ヲ給スルヲ得

ルニ至ルコトアリ又扶養ノ方法ニ付テモ最初權利者ヲ義務者ノ家ニ引取リ養ヒシモ幼年ナリシ權利者カ成年ニ達シ他所ニ於テ教育ヲ受ケル必要ヲ生ジタルカ如キ場合又ハ最初權利者ヲ引取ラズシテ單ニ生活ノ資料ヲ送付給ヒシモ後ニ至リ引取リテ看護ヲ要スルキ疾病ニ罹ラザルカ如キ場合ニ於テハ其方法ヲ變更セザルヘカラサルノ必要アリ而シテ是レ特ニ明文ヲ設ケテ規定セザルトキハ扶養ノ程度及方法ニ關スル判決モ普通ノ原則ニ依リ確定後ニ於テハ之カ變更又ハ消滅ヲ請求スルコトヲ得ザルヲ以テナリトモ亦同ノ旨ニ扶養ノ權利ノ性質(第九六三條) 扶養ヲ受ケル權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ズ扶養ヲ受ケルノ權利ハ一ノ財產權債權ナルカ故ニ債權總則ノ規定ハ總テ之ニ適用セラレヘキヲ原則トスト雖モ扶養ヲ受ケルコトハ實ニ其權利者ノ生活教育ヲ目的トシ必要缺タヘカラサルモノニシテ若シ之カ處分ヲ許スコトトスルトキハ其目的ヲ達セザルヘシ而シテ法律カ此扶養ノ權利及ヒ義務ヲ設ケタルハ公益ニ基キタルナリ若シ扶養權利者カ其權利ヲ拋棄シテ扶養ヲ受ケザルニ至ルトキハ遂ニ餓死スルニ至ルヘク然ラザルトモ固又ハ地方自治體ニ於テ之

民法編 養親ノ義務

民法親族

ヲ養ハサルヲ得サルニ至ルヘクシテ此ノ如キハ此規定ヲ設ケタル精神ニ反スルナリ故ニ扶養ヲ受ケル權利ハ之ヲ讓渡スコトヲ得サルハ勿論之ヲ擔保ニ供シ又ハ差押ナルコトヲ得サルナリ(民事訴訟法第六一八條第一項第一號)

民法親族 終

和佛法律學校

民法親族目次

第一章 總則

民法親族目次

第一章 總則

第二章 戶主及ヒ家族

第三章 婚姻

- 第一章 總則 一四八
- 第二章 戶主及ヒ家族 一四六
- 第三章 婚姻 一四九
- 第一節 婚姻ノ成立 七七
- 第一款 婚姻ノ要件 七七
- 第二款 婚姻ノ無效及ヒ取消 一〇〇
- 第二節 婚姻ノ效力 一一九
- 第三節 夫婦財產制 一二七

第八章 遺養、葬儀

四三六

第一章 遺養會

四二〇

第二章 遺養人

四〇六

第三章 遺養費

三六三

第四章 遺養監督人

三五二

第五章 遺養人

三二六

第六章 遺養人

三二六

第七章 遺養人

三二二

第八章 遺養人

三一六

第九章 遺養人

二八二

第十章 遺養人

二三八

第十一章 遺養人

二三三

民法親族自次

遺養

二三三

此等ノ關係ニ基キ債權ニ唯破産債權トシテ之ヲ主張スルコトヲ得ルモノ
 ニ過キテ其ナリ(商法第二〇三條第二ニ破産宣告後其終結前ニ於テ破産
 債權者ノ共同ノ利益ノ爲メニ要シタル裁判上費用ハ之ニ屬ス故ニ破産宣告
 ノ公告費用商法施行法第二三九條第一四〇條破産法案第三四四條第一四五
 條破産財團ノ保全管理及ヒ換價債權ノ取立ヲ包含スニ關スル裁判上ノ費用
 破産債權ノ確定ニ關スル裁判上費用及ヒ管財人ハ破産財團ノ爲メニ爲シタ
 ル訴訟ニ付キ負擔スル裁判上費用ハ何レモ財團債權タル裁判上ノ費用ニ
 屬スト雖モ裁判所ニ於テ却下セラレタル破産宣告ノ申立ニ關スル裁判上費
 用債權調査會ヲ終ラタル後ニ於テ届出タル債權ノ調査費用商法第一〇二
 五條破産法案第二二九條破産債權者相互間ノ訴訟ニ付キ生シタル裁判外費
 用商法第一〇二七條第一〇二九條及ヒ裁判所ニ於テ却下セラレタル抗告ニ
 關スル費用商事非訟事件印紙法第二條等ハ財團債權タル裁判上費用ニ屬セ
 ス蓋シ此等ノ關係ニ基ク費用ハ破産債權者ノ共同利益ノ爲メニシタルモノ
 ニ非サレムナリ第三ニ破産手續ノ終結ニ關スル裁判上費用ハ之ニ屬ス故ニ

配當及ヒ協賛契約ニ關スル裁判上費用ハ何レモ財團債權タル裁判上費用ニ
 屬ス協賛契約成立セス又ハ協賛契約ノ棄却消滅取消又ハ解除等ニ因リ破産
 手續ヲ再施スルニ至リタル場合ニ於テモ亦然リ商法第一〇四條蓋シ協賛契
 約手續ハ其性質上破産債權者ノ共同利益ノ爲メニスル裁判上ノ手續ナレハ
 ナリ隨テ協賛契約ハ必ズシモ破産債權者ノ共同利益ニ基キテ成立スルモノ
 ニ非ス殊ニ協賛契約ノ提供カ排斥セラレタルトキハ蓋シ破産債權者ノ共同
 利益存セザルモノナリトノ理由ヲ以テ反對ニ論決スルハ正當ノ見解ニ非
 ト思フ(商法第一〇三二條第一號商事非訟事件印紙法第五條第六七條破産法
 案第三五條第一號第三七〇條)(乙)財團債權タル管理費用トハ破産財團ノ管理、
 換價及ヒ配當ニ關スル裁判外ノ費用ヲ總稱スルモノニシテ第一ニ管財人
 對シテ支拂フヘキ報酬(商法第一〇〇九條及ヒ立替金破産法案第一六二條例
 一)郵便費用、賃金、保険料等ノ如キ破産宣告後ニ於テ破産財團ヨリ支拂フヘ
 キ費用ヲ管財人カ立替ヘタルニ因リテ生シタル債權トシテ財團債權タル
 管理費用ニ屬ス故ニ管財人カ此等ノ費用ヲ立替ヘタルニ非シテ換當スレ

ハ管理ノ爲メニ自己ノ金錢ヲ使用シタルニ非シテ却テ管理費用其他破産
 手續上費用ニ屬セザル此等ノ費用ニ付キ換價ノ目的トスル第三者ノ債權ヲ
 完済シテ地位シ又之ヲ讓受ケタルトキハ管財人ハ斯ル債權ニ付キ管財費用
 タル財團債權トシテ主張スルコトヲ得ス(郵便費用、賃金、保険料等ハ管財人カ
 立替ヘタル間ハ破産債權者團體カ管財人破産者國家其他ノ公法人ニ對シテ
 支拂フヘキモノト謂フコト能ハサルヲ以テ財團債權タル破産手續上ノ費用
 ニ屬セザルモノナリ破産債權者團體ノ存在ヲ否認スル學說ヲ採ラハ反對ニ
 論決スヘシ)第二ニ諸税公課其他公ノ手数料ニシテ破産手續中納付スヘキモ
 ノハ財團債權タル管理費用ニ屬ス蓋シ管財人ハ諸税公課及ヒ公ノ手数料等
 ヲ納付スルコトナクシテ破産財團ニ屬スル財産ヲ利用シ且之ヲ處分スルコ
 トヲ得サレハナリ隨テ諸税公課及ヒ公ノ手数料ハ管理費用ニ屬セスシテ却
 テ管財人ノ行為即チ管財人カ其占有スル財團ヲ即時ニ換價セザル事情ニ基
 クモノナルヲ以テ商法第三十二條第一項第三號ニ規定セル義務ニ屬スト
 白ヘル見解ハ正當ト謂フヲ得タルベシ而シテ第三十二條第一項第二號ニ

於テ特ニ公ノ手数料及ヒ諸税ト規定シ之ヲ同條第一號ニ規定セル管理費用中ヨリ除外シタル理由ハ蓋シ公ノ手数料及ヒ諸税ヲ他ノ管理費用ヨリ劣等ノ順位ニ在ラシムルノ目的ニ出テタルニ過キスシテ管理費用タルノ性質有セザルカ爲メニ非ケルヘシ(商法第一〇三條第二號、破産法案第三五條第二號)(丙)裁判費用管理費用以外ノ破産手續費用殊ニ破産者及ビ其家族ニ給付スヘキ扶助料(商法第一〇七條)破産者及ビ其家族が破産債權者團體ニ對シテ請求スルコトヲ得ヘキ點ヲ以テ財團債權ニ屬スルニ非ズ然レテ當然ナク破産主任官ハ何時ニテモ扶助料ヲ給付スヘキ旨ヲ命令ヲ取消スコトヲ得ルニ疑フ容レラス然レトモ此一事ニ依リ扶助料ノ給付カ破産者及ビ其家族ニ非ナルモ之ヲ論決スルヲ得ス蓋シ破産者及ビ其家族ニ斯ル命令ヲ取消ナキ間ハ破産債權者團體ニ對シテ訴テ方法ニ依リテモ扶助料ヲ給付ヲ請求スルコトヲ得ヘキヲ以テナリ破産者及ビ其家族ノ葬式費用ハ破産手續ノ目的及ヒ其實施ニ何等ノ關係ナキヲ以テ破産手續費用ニ屬ス隨テ扶助料トシテ財團債權ニ屬セス然レトモ扶助料ノ名義者下ニ於テ葬式ニ必要ナル費用

ヲ給付スルコトヲ得ヘキヲ當然ナリトス但破産宣告前ニ成立セル破産者ノ家族ノ葬式費用ハ民法第三百六條、第三百七條及ヒ商法第四百十五條ノ規定ニ依リ優先權アル債權トシテ之ヲ支拂コトヲ得ヘシ獨逸破産法ニ於テハ破産者ノ葬式費用ハ破産者カ破産宣告前ニ死亡シタルト破産宣告後ニ死亡シタルトノ區別ヲ相續財產ニ對スル破産手續ニ在リテハ破産手續上ノ費用ニ屬セタル財團債權ト爲ル(獨逸破産法第二二四條第二號)破産宣告後ニ於ケル破産者ノ死亡ハ其宣告前ニ開始セル破産ヲ當然相續財產ニ對スル破産ニ變更スルモノナリ又破産者ノ家族ノ葬式費用ハ家族ノ死亡カ破産宣告前ナル場合ニ於テハ破産者カ實體法ノ規定ニ從ヒ責任アルトキニ限り破産債權ト爲リ破産宣告後ナル場合ニ於テハ破産財團ノ負擔ト爲ラス唯破産者カ扶助料トシテ受取リタル金錢ヲ以テ葬式費用ヲ支拂ニ充テルコトヲ妨ケラレザルノモ限リ(獨逸破産法第一四七條)又破産者ノ遺留財產ハ破産財團ノ負擔ト爲ラズ(獨逸破産法第一四七條)

(2) 商法第三十三條第一項第三號ニ所謂管財人カ財團ヲ爲メニ負擔シタル義務ヨリ生スル債權トハ破産債權者團體ト其機關タル管財人裁判所破産

者國家其他ノ公法人ニ非タル第三者トノ間ニ於テ成立シ者ハ法律關係ニ基キ發生シタル第三者ノ債權ニ外ナラス破産債權者團體ノ存在ヲ否認スル學說ニ依ラハ消極的ニ破産手續上ノ費用ニ屬セタル財團債權ト謂ハサルヲ得ス故ニ破産法案第三十五條第三號及ヒ第六號ニ規定セル債權ニ該當スルモノト謂フコトヲ得ヘシ(甲)管財人ノ職權内ノ行為ニ因リテ第三者ノ爲メニ發生シタル債權ハ其結果カ破産債權者ノ利益ニ歸スルト否トニ拘ハラズ財團債權ニ屬ス蓋シ管財人ハ其職權内ノ行為ニ關シテハ破産債權者團體ヲ代表スル者ナレハナリ而シテ管財人ノ職權内ニ屬スル行為ノ限界ハ破産ノ目的ニ依リテ定マル故ニ破産財團ノ管理及ヒ換價トシテ管財人ノ爲シタル行為ハ其結果カ破産債權者ノ利益ニ歸スルト否ト實際上述當ノ處置ニ非ザルト否ト又管財人ノ不注意ニ出ラタルト否トヲ問ハズ何レモ管財人ノ職權内ノ行為ニ屬ス但破産債權者及ヒ破産者カ管財人ニ對シテ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルヤ言フ埃タス是ヲ以テ第一ニ管財人カ破産財團ノ管理ノ爲メニ爲シタル貸借雇備及ヒ破産財團ノ換價ノ爲メニ爲シタル賣買其他破産財團

ノ爲メニ管財人ノ爲シタル手形行為等ノ如キ法律行為ニ基キテ第三者ノ爲メニ發生シタル債權ハ財團債權ニ屬スト雖モ破産財團ニ屬スル債權ニ付キ管財人カ爲シタル免除ノ如キ行為ハ管財人ノ職權内ノ行為ニ屬セザルヲ以テ破産債權者團體ニ對シ何等ノ效力ヲ及ホスコトナシ(破産法案第三十五條第三號)第二ニ管財人ノ職權内ノ不法行為ニ基キテ第三者ノ爲メニ發生シタル損害賠償請求權ハ破産財團ニ屬スト雖モ管財人ノ職權外ノ不法行為ニ基キテ第三者ノ爲メニ發生シタル損害賠償請求權ハ之ニ反シテ破産財團ニ屬セス元來管財人ハ破産債權者團體ノ執行機關ナルヲ以テ管財人ノ職權内ノ不法行為ニ基キ發生シタル損害ニ關シテハ破産債權者團體ハ其賠償責任ヲ辭スルコトヲ得ザルヲ當然ナリトス唯職權内ノ不法行為ハ管財人ノ職務違背ナルヲ以テ被害者タル第三者ニ損害ヲ賠償シタル破産債權者團體カ管財人ニ對シ求償權ヲ有スルヲ妨クザルモノトナキニ第三ニ管財人カ破産財團ノ爲メニ爲シタル訴訟行為ニ基キテ第三者ノ爲メニ發生シタル訴訟費用賠償ノ請求權ハ管財人カ提起シタル訴訟ニ關スルモノナルト破産手續ノ開始ヲ依

リテ中斷シタル訴訟ヲ受繼シタルモノナルトヲ問ハズ又破産宣告前ニ於テ
 ル訴訟行為ニ因リテ既ニ發生シタルモノナルト否トヲ問ハズ財團債權ニ屬
 ス蓋シ管財人ハ破産宣告前ニ繫屬セル訴訟ノ承繼ニ因リテ其以前ニ施行セ
 ラレタル訴訟行為ニ同意シタルモノナルハナリ詳細ハ破産宣告ノ效力ノ説
 明ニ譲ル(破産法案第三五條第三號但同條ニ所謂法律行為ハ廣義ニシテ訴訟
 行為ヲ包含スルモノナルコトハ破産法案第一編第四章ノ條則ニ徴シテ明白
 ナリ)商法第千十八條及ヒ第千十九條ニ所謂破産主任官ノ認可ノ有無ハ管財
 人ノ行為ノ效力ノ有無ニ何等ノ關係ヲ及ホスコトナシ故ニ斯ル規定ニ依リ
 テ認可ヲ受ケザラシ管財人ノ行為ニ基キ第三者ノ爲メニ發生シタル債權ハ
 財團債權タルコトヲ妨ケズ又管財人カ受任者ヲシテ其職權内ノ行為ヲ爲メ
 シタル場合ニ於テ第三者ノ爲メニ發生シタル債權ハ管財人其者カ爲シテ
 ル行為ニ因リテ發生シタル債權ト同シク財團債權ト爲ルキ言フ埃タヌ(獨逸
 民法第二七八條)(乙)破産財團ヲ爲メニ爲シタル事務管理又ハ破産財團カ受ケ
 タル不當利得ニ因リテ第三者ノ爲メニ發生シタル債權ハ財團債權ニ屬ス蓋

ハ破産財團ハ法律上ノ原因ナクシテ之ヲ増加スルコトヲ得ルモノニ非ザラシ
 ハナリ是ヲ以テ第一ニ破産宣告アリタル以後第三者カ破産債權者團體ニ爲
 スニ事務管理ヲ爲シタルニ因リテ發生シタル債權ハ財團債權ニ屬スト雖モ
 未タ破産宣告ナキ以前ニ於テ第三者カ破産者ノ爲メニ事務管理ヲ爲シタル
 ニ因リテ發生シタル債權ハ破産債權ニシテ財團債權ト爲ラス(破産法案第三
 五條第四號民法第七〇二條第二ニ破産財團カ不當ニ利得ヲ受ケタルトキハ
 之ニ因リテ不當利得ニ基キ財團債權發生スト雖モ破産者カ其破産宣告ヲ受
 ケタル以前ニ於テ受ケタル不當利得ニ因リテ破産財團ニ増加アリタルトキ
 ハ之ニ因リテ不當利得ニ基キ破産債權發生スルニ止マリ不當利得ニ基キ財
 團債權發生スルコトナシ(破産法第三五條第五號蓋シ破産宣告前ニ在リテハ
 破産債權者團體ナク又破産財團ナシ隨テ破産債權者團體カ不當ニ利得ヲ受
 ケルコトナキヲ以テナリ相續財產ノ管理及ヒ其財產ノ分離ニ關スル費用ハ
 相續財產ニ對シ破産宣告アリタル場合ニ於テ財團債權ト爲ル蓋シ管財人ハ
 相續財產ノ管理及ヒ其財產ノ分離アリタルカ爲メニ破産財團ノ管理下ニシテ

爲スルキ行爲ニ要スル費用ヲ節約スルコトヲ得タル結果トシテ間接ニ破産財團ニ於テ不當利得アルヲ以テナリ又相續財産ノ管理人又ハ遺言執行者ノ行爲ニ因リテ生シタル債權ハ相續財産ニ對シ破産宣告アリタル場合ニ於テ財團債權ト爲ル蓋シ斯ル債權ハ畢竟相續財産ノ管理ノ爲メニ相續財産ノ管理人又ハ遺言執行者カ第三者ニ對シテ爲シタル行爲ニ基キタルモノナルヲ以テ第三者カ該債權ニ付キ破産債權者トシテ其權利ヲ行フヘキモノト爲ルトキハ破産財團ニ於テ不當利得ヲ受クルコトト爲レバナリ破産法案第三七條民法第一〇二一條第一〇二八條第一〇四〇條第一〇四三條第一〇五三條第一一一四條第一一一〇條獨逸破産法案第二二四條解散シタル法人ノ清算ニ關スル費用ハ解散シタル法人ニ對シ破産宣告アリタル場合ニ於テ破産債權ト爲ル清算人ノ行爲ニ因リテ生シタル債權亦然リ其理由ハ相續財産ノ管理並ニ財産ノ分離ニ關スル費用及ヒ相續財産管理人又ハ遺言執行者ノ行爲ニ因リテ生シタル債權カ財團債權ト爲ル理由ニ同シ破産法案第三六條民法第一八一條商法第九一條第一〇五條第二三四條第二三六條產業組合法第七五條

保險業法第八二條(丙)破産財團ノ爲メニ管財人カ破産宣告者當時當事者雙方ヨリ履行ヲ完了セザル雙務契約ヲ解除セザルニ因リ破産宣告後其履行ヲ受クヘキ場合ニ於テ相手方カ反對給付ニ付キ有スル債權及ヒ破産財團ノ爲メニ管財人カ解約ノ申入ヲ爲シタル場合ニ於テ相手方カ解除ニ至ルマテノ反對給付ニ付キ有スル債權ハ財團債權ト爲ル元來破産宣告ハ未タ履行ノ完了セザル雙務契約ノ履行ヲ妨ケ之ニ代ヘ不履行ニ基ク損害賠償請求權ヲ發生セシムルヲ原則トス然レトモ法律ハ破産ノ目的ヲ達スルニ適當ナル手段トシテ例外的ニ破産者カ其宣告前ニ於テ爲シタル法律行爲ニ基ク履行ヲ請求シ破産宣告後管財人ノ行爲若クハ法律ノ規定ニ依リテ存續セシメ之ヲ財團債權ト爲シタリ前示二種ノ權利即チ是ナリ是ヲ以テ第一ニ破産財團ノ爲メニ管財人カ破産宣告前ニ破産者ノ締結シタル雙務契約ニシテ破産宣告ノ當時未タ當事者雙方ノ履行ヲ完了セザルモノヲ解除セシメ却テ其履行ヲ求めタルトキハ相手方ハ其債務ヲ履行シ又反對給付ニ付キ財團債權者トシテ其權利ヲ行フモノナリ破産宣告後ニ管財人カ履行シタル給付ヲ取返又ハ追索

一因リテ相手方ノ爲メニ發生シタル損害賠償請求權及セ破産宣告前ニ破産者カ履行シタル給付ノ環環又ハ追奪ニ因リテ相手方ノ爲メニ發生シタル損害賠償ノ請求權ニ關シテ亦然リ蓋シ管財人カ相手方ニ對シテ爲スヘキ反對給付ハ破産者カ相手方ニ對シテ負ヒタル債務ヲ完全ニ履行スルニ必要ナル給付ナルヲ以テナリ之ニ反シテ破産財團ノ爲メニ管財人カ破産宣告前ニ破産者ノ締結シタル債務契約ニシテ破産宣告ノ當時未タ當事者雙方ノ履行完了セザルモノヲ解除シタルトキハ相手方ハ不履行ニ基キ發生シタル損害賠償ノ請求權ヲ破産債權トシテ主張スルコトヲ得シ第二ニ破産財團ノ爲メニ管財人カ破産宣告前ニ破産者ノ締結シタル債務契約ニシテ破産宣告後尙ホ存續スルコトヲ得ヘキモノニ關シテ解約申入ヲ爲シタル場合ニ於テ相手方カ破産宣告後解除ニ至ルマテ破産債權者團體ノ爲メニ給付ヲ爲シタルニ因リテ發生シタル債權殊ニ貸借人カ破産宣告ヲ受ケ貸借人又ハ管財人カ直ニニ解約ノ申入ヲ爲シテ貸借契約ヲ解除セタル場合ニ於テ貸借人ハ破産宣告後貸借契約ノ解除ニ至ルマテノ資金ニ付キ財團債權者トシテ其權利ヲ

行フ之ニ反シテ前掲ノ債務契約ニ關シ相手方ノ爲メニ破産者ニ對シ其破産宣告前ニ給付ヲ爲シタルニ因リテ成立シタル請求權ハ破産債權ニシテ財團債權ト爲ラサルヲ言フ埃キス(破産法案第三五條第六五九條商法第九九三條民法第六二二條第六三二條第六四二條)第三八條第三項前段ハ「債權者(一)破産法案第三十五條第七號ニ依リテ破産宣告ニ依リテ委任終了又ハ代理權消滅ノ後急迫ノ必要ノ爲メニ爲シタルヤ行爲ニ因リテ生シタル債權民法第六五〇條)ハ財團債權ニ屬ス何トナレハ斯ル場合ニ於テハ委任又ハ代理人關係ハ管財人カ委任事務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至ルマテ尙ホ存續セルモノト看做スヘク且其存續ハ畢竟破産財團ノ利益ニ歸スルモノカ別ヲ以テ其存續ノ結果トシテ發生シタル受任者又ハ代理人ノ債權ハ之ヲ破産財團ト爲ス正當トスレハナリ(民法第六五三條第一項第六五四條)然レトモ受任者カ委任者ノ破産宣告ニ依リテ委任ノ終了ニシテ事由ニ通知ヲ受ケス又ハ之ヲ知ラスシテ委任事務ヲ處理シタル場合ニ於テハ之ニ因リテ受任者ノ爲メニ生シタル債權ハ民法第六五〇條財團債權ニ屬ス何トナレハ斯ル場合

ニ於ケル委任關係ノ存續ハ畢竟善意ナル受任者ノ利益ニ歸スルモノナレバ
 ナリ(破産法案第六六條民法第六五五條)獨逸破産法第三三條第二七條獨逸民
 法第六七二條第二項第六七四條第六七〇條現行破産法ニ於テ斯ル趣旨ノ明
 文ヲ缺クハ立法上ノ缺點タルヲ免レヌ是レ破産法案ニ於テ之ヲ補ヒタル所
 以ナリ

(c) 主張 財團債權ハ前述ノ如ク破産債權ニ非ナルヲ以テ財團債權者ハ其權
 利ノ主張ニ關シ破産債權ノ主張ニ於ケルカ如クニ債權ノ届出及ヒ確定ノ手續
 ニ關スル規定ニ從フコトナク(商法第一〇三二條第一項)協議契約ノ效力ヲ受ク
 ルコトナク誤テ届出ヲ爲シタルカ爲メニ優先的辨濟ヲ受タル權利ヲ喪失スル
 コトナク又債權者集會ニ於ケル決議權ヲ有スルコトナク破産手續ニ依ラスシ
 テ辨濟ヲ受ク(商法第一〇三二條第二項破産法案第三八條第三九條)而シテ財團
 債權者ハ其權利ヲ管財人ニ對シ裁判外又ハ裁判上ニ於テ主張スルコトヲ要ス
 (1) 財團債權ハ前述ノ如ク破産債權者團體ニ對スル權利ナリ而シテ管財人ハ破
 産債權者團體ノ機關ナリ故ニ財團債權者ハ其權利ヲ管財人ニ對シテ主張スヘ

キヲ當然ナリトス但管財人カ財團債權ヲ有スルトキハ財團債權者トシテ其權
 利ヲ行フコトヲ得ルヤ言フ埃タス(2) 裁判外ノ主張ニ依リテ管財人カ財團債權
 ノ存在及ヒ其數額ヲ是認シタルトキハ財團債權者ハ裁判上ノ主張即チ訴ノ提
 起ヲ爲スヲ要セザルコト敢テ疑フ容ヒヌト雖モ管財人カ財團債權ノ存在及ヒ
 其數額ヲ否認シタルトキハ財團債權者ハ管財人ニ對シ裁判上ノ主張ヲ爲スコ
 トヲ要ス裁判上ノ主張ハ管財人ニ對シ訴ヲ提起シテ之ヲ爲シ若シ破産宣告前
 ニ在リテ財團債權ニ屬スヘキ權利ニ付キ既ニ訴訟ノ繫屬アリタルトキハ該訴
 訟ヲ受繼シテ之ヲ爲ス(商法第九八五條第三項民事訴訟法第一七九條破産法案
 第六九條)但財團債權者ハ豫メ裁判上ノ主張ノ是認セラレルコト大キク慮リ其
 權利ニシテ破産宣告前ニ成立セルモノヲ財團債權トシテ主張スルト同時ニ破
 産債權トシテ主張スルコトヲ妨ケラレルコトカシ又財團債權者ハ破産宣告前
 ニ成立シタル雙務契約ニ基キテ發生シタル權利ヲ先ツ破産債權トシテ主張ス
 其異議ニ關スル訴訟中管財人カ財團ノ爲メニ履行ヲ請求シタルトキハ爾後財
 團債權トシテ之ヲ主張スルコトヲ得蓋シテ違フ訴訟申立ノ擴張ニシテ訴ノ變更

二非ナレハナリ民事訴訟法第十九六條第二號商法第一〇二九條第一〇二七條
 破産法案第二三八條而シテ財團債權ニ關スル訴訟カ破産手續終結ノ當時迄
 完結セザルトモ該管財人ハ該債權者爲メ保爭金額ヲ供託配當ニ依リ破
 産手續ヲ終結セザル場合ニ於テ爾後管財人オ新ニ訴訟ヲ進行シ協議契約ニ依
 リテ破産手續ヲ終結セザル場合ニ於テハ破産者前對又ハ破産者ニ對シテ訴訟
 訴ヲ受難ハルモナリ何ナリ前案ノ場合ニ於テハ財團債權者爲メ供託
 シタル保爭金額ハ管財人ハ勝訴ニ依リテ破産財團トシテ之ヲ取扱フベク又後
 者ノ場合ニ於テハ財團債權者爲メニ供託シタル保爭金額ハ財團債權者ノ敗訴
 ニ依リテ破産者ニ屬スベキ財產トナレハナリ(3)管財人カ財團債權者前對
 是認シタルトキ又ハ財團債權者前對トテ是認シタル確定判決アリタルトキハ
 管財人ハ破産主任官ノ指圖ニ從ヒ通常ノ方法即チ破産手續ニ依リテ破産
 財團ノ現額ヨリ破産債權ニ先テ財團債權者ヲ拂濟ス(商法第一〇三二條第二項
 破産法案第三八條第三九條)是レ財團債權者破産債權者非ナリ當然ノ結果ナリ
 但破産法案ニ於テハ破産主任官前對制度ヲ認メタルヲ以テ管財人ハ財團債權

シ上訴爲シ判事除斥イ理由又注釋シテ然モ裁許セザル原因又主張無
 判確定シテ判事最原本案訴訟事件查上告理由トシテ除斥原因又主張無
 判事ト得ス(第四四三條第三八條)審判官ニ依リテ裁許セザル場合ニ於テ
 (三)判事カ忌避申シ且忌避ノ申請理由アリト認メタルトキハ裁許セザル
 判事ト得ス(第四四三條第三八條)審判官ニ依リテ裁許セザル場合ニ於テ
 下シタル裁判ニ對シテ上訴シ然モ其效カ先テ裁許セザル前上告又理直トシテ
 之ヲ主張スルモ得ス(第四四三條第三八條)審判官ニ依リテ裁許セザル場合ニ於テ
 (四)裁許所カ其管轄又ハ管轄違フ不法ニ認メタルトキハ裁許所カ事柄又判事
 地ノ管轄ニ關スル規定ニ背キテ不當ニ管轄權アリトシ又ハ管轄違フ判事トシ
 裁許所カ判事トキハ其違背又上告ノ理由ト爲ルモノトシテ中ノ事實ハ裁許所カ
 (五)訴訟手續ニ於テ原告又ハ被告カ法律上規定ニ從テ代理セザル或ハ當事
 者ノ法律上代理人又ハ訴訟代理人トシテ出頭シタル者ニ其代理權ノ欠缺アリ
 シトキハ之ヲ理由トシテ上告ヲ爲シ得ルモノトシテ西國債權者訴訟法ニ依リテ

(六) 訴訟手續誤行ニ付テハ規定ニ違背タル四頭辯論ニ基キ裁判ヲ爲シタルトキ其トシテ既ト人又ハ裁判官既ト人トモ出頭セザルニ其對照シテ其對照シテ(七) 裁判ニ理由ヲ付セザルトキ其裁判ノ根據タル理由ヲ明悉ク之ヲ揭シテ附シタル理由ノ具備シタルモノト謂フヘカ事ニ然レトモ判決中ノ事實ノ摘示ヲ必要ナク其場合ハ必ズレモ上告ノ理由アリテ謂フコトヲ得ス例ヘキ或事實ノ提出アリトシテ理由ヲ付シ裁判ヲ爲シタル場合ニ於テ判決中其摘示ヲ缺ク或調査ノ記載ニ依リテ其事實ヲ提出ヲ知り得ヘキトキハ裁判ニ何等ノ影響ヲ及ホスベキモノニ非テ上告ノ理由ヲ生ズ唯其事實ヲ摘示ナキ爲メ裁判ニ影響ヲ及ホスベキ場合ニ於テ之ノ上告ノ理由ト爲スルコトヲ得又其中前ニ控訴裁判所ノ判決カ右七節ノ法律違背中ニ一ツ具フルトキハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ルル勿論第一審判決ニ右ノ違背アリタル場合ニ控訴裁判所カ之ヲ看過シテ自ラ其違法ナル第ニ審ノ判決若クハ手續ヲ採用シ之ヲ基礎トシテ判決ヲ爲セタルトキ其判決モ亦隨テ違法ト爲リ上告ノ理由ト爲ル

以上説明シタル四ノ事項ハ即チ法律要件トシテ若シ其一ヲ缺ク則チ法律上ノ不適法トシテ棄却スヘキモノナリ其ノ他三ノ事項モ以テ其裁判ヘキ上告ノ取下及ヒ附帯上告ニ付テハ凡テ控訴ノ規定ヲ準用スヘキモノトシテ第四二條第四五四條ノ規定ニ依リテ其判決モ亦隨テ違法ト爲リ上告ノ理由ト爲ル

第二節 上告ノ效力

上告モ亦控訴ト同シテ停止及ヒ移審ノ二效力ヲ生ズ停止ノ效力ハ控訴ニ於ケルト全然同一ナリ移審ノ效力モ大體同様ニシテ適法ナル上告ノ提起ニ第二審判決ヲ經タル訴訟事件ヲ上告審機關主リ調査スルニ至ラザル上告審ノ調査ノ範圍ハ當事者カ口頭辯論ニ於テ書面ニ基キテ爲シ然ラズ立ニ依リテ限定スルレ其範圍内ニ於テ辯論及ヒ裁判ヲ爲スベキモノニシテ附帯上告アルニ非ズレハ原判決ヲ上告人ノ利益ニ變更スルコトヲ得ズ其亦自認明カナリ(第四編五條第六トモ)上告審ニ於ケル調査ハ唯控訴審ノ判決ヲ法律違背區域ニ限シ

之點ニ止マリ事實認定ノ當否ニ及ボズトテ得ル故ニ控訴審ノ判決ヲ速裁
 ニ確定シタル事實ハ之ヲ動スルコトヲ得スレバ此事實ヲ證據トシテ控訴審
 ノ判決ノ法律適用ノ當否ニ付テ判決ヲ爲スヘキモノト供體ノ新ナル事實即チ
 攻撃防禦ノ方法及ヒ證據方法ハ之ヲ上告審ニ於テ提出スルコトヲ許ス又新
 ナル請求ハ勿論之ヲ起スコトヲ得ス但上告裁判所ニ上告申立ノ理由ニ拘束セ
 ラルモノニ非ス上告申立人又ハ附帶上告申立人亦控訴審ノ判決ヲ以テ法律
 ニ違背シタリトシテ攻擊スル以上其理由ハ此所決當ナルニ上告裁判所カ
 他ノ見解ニ於テ控訴判決ヲ法律ニ違背シタルモノト認ムルトキハ結局上告ヲ
 理由アリトシテ原判決ヲ破毀セラルヘカラス
 此ノ如ク上告審ニ於テハ控訴裁判所カ裁判上確定シタル事實ヲ基礎トシ其判
 決カ果シテ法則ニ違背シタルモノナルコトヲ審查スルモノナレトモ數種特
 人ハ同コト上告ノ許スヘキモノナルコトヲ爭フコトヲ得ルヲ以テ其許スヘカラ
 ばルモノタルコトヲ明カニスル事實例ニ上告ヲ提起スル上告期間開始前若
 ハ其經過後ニアルコトヲ明カニスル爲メ第二審ノ判決カ何時迄違テラレタル

ナノ事實ヲ主張スルコトヲ得ヘシ又上告人ニ於テ第四百三十八條末段ニ規定
 スル如ク第二審ノ判決カ訴訟手續ヲ規程シテ規定ニ違背シタルコトヲ上告ノ理
 由トスルトキ若クハ法律ニ違背シテ事實ヲ確定シ又ハ遺脱シ又ハ提出シタリ
 ト看做シタルコトヲ上告ノ理由トスルコトキ其法律違背ヲ明カニスル爲メ
 必要ナル事實ハ總テ之ヲ主張スルコトヲ得ルヲ以テ此等ノ事實ニ付テハ當事
 者ハ證據方法ヲ申出ツルコトヲ得ヘシ上告裁判所ニ於テ證據調ノ必要アリト
 スルトキハ通常ノ規定ニ從ヒ證據調ヲ爲シ而シテ後其事實ヲ斟酌シテ相當ノ
 裁判ヲ爲スヘキモノナリ(第四四六條但口頭辯論ノ方式ヲ遵守スル第三百三十四條
 ニ規定スル如ク調書ヲ以テノ證據ニキルナルヲ以テ其方式ニ違背シタル
 ナ否ヤノ事實ハ一ニ調書ノ記載ニ依リテ判定セラルヘカラス然レトモ調書
 偽造變造タルノ證據アルトキハ其效力ヲ有セザルニ論テ又其他或事實ヲ
 提出シタル否ヤニ付テハ判決中ノ事實ノ記載ニ依リテ之ヲ證明スルコトヲ得
 レトモ若シ調書ニ反對ノ記載アルトキハ調書ノ記載ヲ以テ眞實ト看做スルコト
 モノナリ(第四百三十八條)

上告裁判所ハ上告カ法律上許スヘカラサルモノナルトキハ判決ヲ以テ之ヲ不適法トシテ棄却スベク又其適法ナルトキハ雖モ理由ナシトスルモ之ヲ棄却シヘキモノナリ(第四五二條)上告モラレタレバ判決カ縱令其理由ニ於テ違法アルモ他ノ理由ニ依リテ結局正當ナルトキ例ヘハ第二審判決カ誤リテ適法ナル證據ヲ不法ナリトシテ之ヲ斥ケ原告ノ請求ヲ却下シタルモ他無被告カ其證據ヲ證明スル法律行為ヲ爲スニ當リ意思ノ欠缺アリトシ理由ヲ付シテアテテ結局請求却下ノ判決ヲ正當ト爲シ得ル場合ノ如キ又ハ控訴裁判所カ管轄ニ關スル規定ヲ不當ニ解釋シテ管轄權ヲ喪失シタルモノ上告裁判所カ他ノ理由ニ因リ管轄權アリト認メタル場合ノ如キ控訴判決ハ結局正當ニ歸スルモノ由リ亦上告ノ理由ナシトシテ棄却セサルカラス(第四五三條)之ニ反シテ上告ノ理由アリトスルトキ即チ不服ヲ申立テラレタル控訴審ノ判決カ第四百三十六條ニ據ケテ法律違背アルトキ其他適用法律ニキテ法則ヲ適用キス若シ適用スルカサテ法律ヲ適用シ且其結果凶裁判ヲ影響及ボスモノナルトキハ上告裁判所ハ不服申立ノ範圍内ニ於テ原判決ヲ破毀スルモノ而シテ破毀ノ原因及訴訟手續ニ關

(スル)規定ノ違背ニ在ルトキハ其違背シタル全部若シ該審分テ訴訟手續違背亦破毀スルモノトシテ(第四四七條)破毀ノ原因(第四五二條)上告裁判所カ第二審判決ヲ破毀スルトキハ原則上其事件ニ付キ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ之ヲ原控訴裁判所ニ差戻シ又ハ之ト同等ナル他ノ裁判所ニ移送スヘキモノトス是レ即チ上告裁判所ハ本案ノ諸爭事實ヲ自ら審査判斷スルモノトテ得シテ其判斷ハ専ラ控訴裁判所ノ權限ニ屬スルヲ以テ事件ニ付キ判決ヲ爲スカ爲メ更ニ右事實ノ判斷ヲ爲スモノトテ必要トスル場合ニ於テハ上告裁判所自ら判決ヲ爲スニト能ハザレハナリ上告裁判所ヨリ事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ破毀セラレタル訴訟ノ範圍内ニ於テ新ニ口頭辯論ヲ開キ之ニ基キテ裁判ヲ爲スコトヲ要ス(第四四八條)此場合ニ於テハ其事件ハ再ヒ控訴審ノ程度ニ回復シタルモノナルヲ以テ當事者ハ第四百十四條第四百十六條等ノ制限ニ從フノ外以前ノ控訴審ノ口頭辯論ニ提出スルモノトテ得ヘカリシモノトシテ提出セザラシ新ナル攻撃防禦ノ方法證據方法ヲ提出スルモノトテ辯論ヲ事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所前ニ確定裁判スル

事實ヲ拘束スルモノ更ニ自由ナル心證ヲ以テ事實ヲ判斷シ相當ノ裁判ヲ爲ス
 (ノ)第四四九條又更ニ無訴權又ハ管轄違其他ノ不違法ナル理由ヲ發見シ判
 トキハ此點ニ於テ裁判ヲ爲スコト更得ルモノナリ又被控訴人ノ前ニ附帶控訴
 ヲ爲サザリシトモ更ニ於テモ更ニ附帶控訴ヲ爲シ得ルモノトハ前ニ述ベタルカ
 如シ然レドモ事件ノ差戻又ハ移送又受ケタル裁判所ニ上告裁判所カ第二審判
 決ヲ法律ニ違背シタルモノトシ之ヲ破毀スルヲ基本ト爲シタル法律上ノ判斷
 ニ偏重セザルニ必ズ其判斷ヲ以テ新ナル辯論及ヒ裁判ノ基本ト爲スル義務ナリ
 如何ナル場合ニ於テモ別箇ノ見解ニ依リテ判決ヲ爲スコト能ハス(第四五〇條)
 若シ之ニ違背シタルトキハ更ニ上告ノ理由ヲ生ズルニ至ル(第四五〇條)
 上告裁判所ニ上告ヲ理由アリトシ第二審判決ヲ破毀スル場合ニ於テ別ニ自若
 事實上ノ判斷ヲ爲スモノトモ要セズ單ニ法律上ノ判斷ニ依リテ裁判ヲ爲シ得ル
 キトモ事件ノ差戻若シハ移送ヲ爲スコトナラズ其事件ヲ付キ自若裁判ヲ爲ス
 (第四五一條)
 (一) 確定シタル事實ニ法律ヲ適用スルニ當リ法律ニ違背セタル爲メ再判決

破毀シ且其事件ヲ裁判ヲ爲スニ熟スルモノキ被控訴裁判所カ適法ニ事實ノ判斷
 ヲ爲シ又ハ其事實ノ判斷ニ對シ不服ノ申立ナクシテ單ニ法律ノ適用ニ錯誤ヲ
 ル爲メ其判決ヲ破毀スル場合ニ於テ他ニ何等ノ事實上ノ判斷ヲ要セス即チ裁
 判ヲ爲スニ必要ナル事實ハ皆既ニ判斷セラレ直チニ法律ヲ適用シテ裁判ヲ爲
 スコトヲ得ルモノトキ例ハ被控訴裁判所カ當事者間ニ或貸借關係アルコトヲ明
 カニ認定シタルモ時效ニ關スル法律ノ規定ヲ誤リテ適用シ若クハ適用セズ隨
 チ原告ノ請求ヲ却下ス(カリシニ之ヲ却下セス又ハ被告ニ敗訴ヲ言渡ス(カ
 リシニ原告ノ請求ヲ却下シタル場合ノ如キ第二審判決ノ事實ノ確定ニ依リテ
 貸借關係ノ成立及ヒ時效適用ノ有無明白ナルトキハ上告裁判所ニ於テ直チニ
 判決ヲ爲スヘキモノナリ又例ハ被控訴裁判所カ訴訟條件ノ欠缺ヲ來スヘキ事
 實ヲ認定シナカラ訴ヲ不合法トシテ却下セシメ本案ノ判決ヲ爲シ以テ訴訟
 法上ノ規定ニ違背シタル場合ノ如キ上告裁判所ニ於テ其確定事實ニ據リ訴訟
 條件ノ欠缺アリト判斷シタルトキハ直チニ訴却下ノ判決ヲ爲スコトヲ得ルモノ
 トモト謂ハナルヘカラス此他控訴裁判所ニ於テ第一審判決ヲ廢棄シ事件ヲ第

一 審裁判所ニ差戻スヘカリシ場合ニ於テ其差戻ノ判決ヲ爲サズ以テ法律ニ違
 當シタル場合ノ如キハ上告裁判所ニ於テ此點ニ付キ第二審判決ヲ破毀スルコ
 トキハ之ヲ控訴裁判所ニ差戻シ又ハ他ノ同等ナル裁判所ニ移送スルノ必要ナク
 直テニ其事件ヲ第一審裁判所ニ差戻シ官ノ判決ヲ爲スコトヲ得ヘシ例ヘル第
 一審裁判所ニ於テ被告ノ抗辯ヲ理由アリトシテ原告ノ訴ヲ却下シ控訴
 裁判所モ亦同一ノ見解ニ依リ控訴ヲ棄却シタルニ上告裁判所カ控訴裁判所ノ
 確定シタル事實ニ依リ法律上抗辯ヲ理由アリトシテ被告ノ訴ヲ却下シ控訴
 不當ナラトシテ破毀スル場合ノ如キ是ナラ何トナシハ斯ル場合ニ於テハ控訴裁
 判所ヲシテ他ニ事實上ノ判斷ヲ爲サシムルノ必要ナク總令上告裁判所カ其事
 件ヲ差戻シ若クハ移送スルモ其差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ單ニ上告裁
 判所ノ法律上ノ見解ニ從ヒ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スルノ判決ヲ爲スル外ナ
 ケレハナク又ハ裁判所ノ管轄違ナル爲メニ判決ヲ破毀スルコトキハ上告
 (二) 無訴權ノ爲メ又ハ裁判所ノ管轄違ナル爲メニ判決ヲ破毀スルコトキハ上告
 裁判所カ訴訟事件ノ關係ニ依リ其事件ヲ無訴權即チ司法裁判所ノ受理スルカ

ラナルモノタルヲ認テ又ハ管轄違ノ裁判所ニ提起セラレタルコトヲ認メ之ト
 反對ノ見解ニ出ラタル第二審判決ヲ破毀スルコトキハ其事件ヲ差戻シ又ハ移送
 スルノ必要ナク上告裁判所自ラ第二審判決ト同一ニ出ラタル第一審判決ヲ廢
 棄シテ訴ヲ却下スルノ判決ヲ爲スヘキハ前項説明ニ依ルモ當然ナリ但管轄違
 ノ場合ニ於テ事件ヲ管轄裁判所ニ移送スルノ申立アルトキハ第四百四十四條
 第九條ノ規定ニ從ヒ其旨ノ判決ヲ爲スヘキハ勿論ナリ管轄違ノ爲メニ判決
 破毀スルコトキハ上告裁判所ノ職權上調査スヘキモノナリ

第三節 上告審ノ手續

上告ノ要件ヲ具備スルヤ否ヤノ點ハ上告裁判所ノ職權上調査スヘキモノナリ
 トモ上告ハ總令判然不適法ナルトキト雖モ控訴ニ於ケルカ如ク裁判長一人ニ
 テ書面上ノ調査ヲ爲シ命令ヲ以テ却下スルコトヲ得ス上告裁判所ハ上告ノ提
 起アルヤ必ス先ツ期日ヲ定メテ上告人ノミヲ呼出シ其陳述ヲ聽キテ上告ノ對
 スヘキモノナルヤ否ヤ又法定ノ方式及上期間ヲ遵守シテ提起シタルモノナ
 ルヤ否ヤ第二審判決ノ法律違背ヲ理由トシテ上告人ノ申立アルヤ否ヤニ付テ審査ヲ遂

其要件ヲ缺クトキハ被上告人ノ辯論ヲ聽クコトヲ要セス直チニ判決ヲ以テ上告ヲ棄却スヘキモノナリ若シ上告人カ右ノ期日ニ出頭セザルトキハ何等ノ判決ヲ爲スコトナク當然上告ヲ取下ケタルモノト看做サルルノ結果ヲ生ス但上告人カ其期日ヨリ起算シ七日ノ期間内ニ出頭スル能ハザラシコトヲ十分ナル理由ヲ以テ辯解シタルトキハ更ニ期日ヲ定メテ前同一ノ手續ヲ爲スヘキモノナリ若シ上告人カ新期日ニ出頭セザルトキハ復々同前ノ結果ヲ生ス(第四三九條)

上告裁判所カ右ノ手續ニ依リ上告ノ適法ナルヤ否ヤヲ調査シ之ヲ適法ナリトスルトキハ更ニ口頭辯論ノ期日ヲ指定シ被上告人ニ上告狀ヲ送達セシメ口頭辯論ヲ經テ前説明スルカ如ク場合ニ隨ヒテ相當ノ判決ヲ爲スヘキモノナリ而シテ口頭辯論期日ノ指定答辯書差出ノ期間及催告ニ關スル第九十四條、第二百三條、第九十九條ノ規定ハ何レモ之ヲ適用スヘキ答辯書ノ作成及ヒ其送達ニ付テモ亦一般ノ規定ニ從フヘキモノニシテ(第四四〇條、第四四一條、第四四三條)此他關席判決ニ對スル不服ヲ申立ニ關スル第三百九十八條、第四百五條第

二項控訴ノ取下ニ關スル第三百九十九條、第四百五條第一項、當事者雙方口頭控訴ヲ提起シタル場合ニ於ケル訴訟手續ニ關スル第四百九條、控訴ト故障トノ同時ニ爲シタルトキノ訴訟手續及口頭辯論ノ延期ニ關スル第四百十條、口頭辯論ノ際ニ於ケル當事者ノ演述ニ關スル第四百十二條、妨訴ノ抗辯ニ付テ辯論ニ關スル第四百十四條、控訴ヲ起シタル者ノ不利益ト爲ル裁判ヲ爲スヘカラザル旨ノ第四百二十五條、記録ノ送付並ニ返還ニ關スル第四百三十一條ノ規定ハ何レモ皆上告審ニ之ヲ準用スヘキモノトス(第四五四條、第四五五條、第四五六條)茲ニ注意スヘキハ當事者ノ拋棄スルコトヲ得ザル妨訴ノ抗辯即チ裁判所ノ職務上調査スヘキモノ例ヘハ無訴權ノ抗辯ヲ如キハ上告審ニ至リテモ仍ホ新ニ之ヲ提出スルコトヲ得ルモノナリ若シ控訴裁判所ニ於テ斯ル抗辯ノ原因ニ付キ職權上調査ヲ爲サス隨テ之ニ基テテ訴ヲ却下セザリシトキハ其判決ニ即チ法律ニ違背シタルモノトシテ破毀ノ原因アルモノト謂ハサルヲ得ス然レトモ當事者ノ拋棄スルコトヲ得ヘキ妨訴ノ抗辯ハ過失ヲシテ前審ニ提出スルコトヲ得ザラシコトヲ疏明スルモ仍ホ之ヲ上告審ニ提出スルモノト得テ何處カ

レハ是レ新ナル事實ヲ提出スルモノニシテ且前審裁判所ニ於テ此種權上調査
 スルコトヲ得シテ而シテ當事者ノ提出セザリシ事實ニ付キ判斷ヲ與ヘザリ
 シハ固ヨリ當然ニシテ法律ノ違背ト謂フコトヲ得ザレハナリ
 以上特別ノ規定アル外上告審ノ手續ニ付テハ地方裁判所ノ第一審ノ訴訟手續
 ノ規定ヲ準用スヘキモノナリ(第四四四條)隨テ關席判決ノ手續ニ關スル第一審
 ノ規定モ亦上告審ニ準用スヘキカ故ニ上告人カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セザル
 トキハ第一審ニ於テ原告カ出頭セザル場合ニ第二百四十七條ニ依リ訴却下
 關席判決ヲ爲スニ準シ被告上告人ノ申立ニ因リ上告棄却ノ關席判決ヲ爲スヘキ
 ハ疑ナリ然レトモ被告上告人ノ關席シタル場合ニ於テハ必スシモ第二百四十八
 條ノ規定ニ依リ自白ノ推定ヲ生スルニ限ラス何トナレハ上告審ニ於テハ專ラ
 上告人ノ不服申立ノ範圍内ニ於テ第二審判決ノ法律違背アルヤ否ヤノ點ヲ調
 査スルモノナレハ往往控訴裁判所ノ確定シタル事實ノミヲ基本トシテ單ニ法
 律上ノ判斷ヲ下スヲ以テ足ルコトアリ隨テ關席者タル被告上告人ニ於テ自白レ
 フト看做スヘキ上告人ノ事實上ノ供述ナルモノナキコトアリ其事實上ノ供述

判要スル場合ハ第二審判決ヲ訴訟手續ニ付テハ規定ニ違背シタル點及法律
 律ニ違背シタル事實ヲ確定シ若クハ遺脱シ若クハ提出シタル點ヲ看做シタルモノト
 上告ノ理由トスル場合ニ限ル此場合ニ於テ上告人カ第二審判決ノ不法ヲ明
 カシメ或爲テ必要ナル事實上ノ供述ヲ爲シ而シテ其事實カ上告裁判所ノ職
 權ヲ以テ調査スベカラザルモノニ屬スル時ハ始テ關席者タル被告上告人カ
 之ヲ自白シタルモノト看做シ且上告ノ理由アリタルモノトモハ關席判決ヲ爲ス
 ベキモノナリ但上告人ノ職カ關席スルモノモ上告ノ要件ニ欠缺スルモノモハ關席
 判決ヲ爲スベシトナク常ニ上告ヲ不適法トシテ棄却スル判決ヲ爲スヘキモノトス
 第三節 抗告
 抗告ノ種類及要件
 抗告ハ法律ニ特定シタル決定命令ニ對シ法定ノ方式ニ從ヒ直近上級裁判所
 爲スル不服申立ノ方法ナリ(第四五五條)第四五六條第一項ニ依リ申立後其決定
 決定及ヒ命令ニ對シテハ絕對ニ獨立ニ控訴上告ヲ爲ス可ト不得及唯終局判決

前ニ爲シタル決定命令ニ限リ第三百九十七條第四百三十三條ノ規定ニ依リ其
終局判決ニ對シテ控訴者タルハ上告ヲ爲スルコト得ル之ト同時ニ不服ヲ申立テ以テ上
級審ノ判斷ヲ受クルコトヲ得ルハ故ニ其他ノ決定及ビ命令ニ對シテ不服ヲ申
立テ許スルヲ相當トスルモ付テハ別ニ其方法ヲ定メサルヘカラス例ヘハ第
八十三條ニ依リ裁判所書記法律上代理人訴訟代理人執達吏等ニ訴訟費用ノ負
擔ヲ命スル裁判第二百九十四條第三百二條第三百二十二條第三百二十八條ニ
依リ證人鑑定人ニ費用ノ賠償及ビ罰金ヲ言渡ス裁判ノ如キハ其言渡ヲ受クル
者ハ訴訟當事者以外ハ第三者ニシテ終局判決ヲ受クヘキモノニ非サルカ故ニ
控訴者タルハ上告ニ依リ終局判決ト同時ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス又當事者
ノ受クル裁判ト雖モ第九十二條ニ依リ訴訟差戻ノ裁判長ハ命令第八十五條
ニ依リテ爲ス訴訟費用額確定強制執行ノ手續ニ於テ爲ス裁判ノ如キハ何
レモ亦終局判決前ノ裁判ニ非スシテ隨テ終局判決ト同時ニ不服ヲ申立ツルコ
ト能ハズ是レ此等ノ裁判ニ對シテハ抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ許セル
所以ナリ此ノ如ク抗告一而ニ於テ性質上控訴者タルハ上告ニ依リ終局判決

共ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判ニ對シテ請求ヲ求ムルハ方法タル以テ
之ニ拘束他方一面ニ於テハ其性質終局判決前ニ裁判ヲ屬スル或裁判ニ對シテ
獨立ノ不服申立メ方法トシテ辭章トシテ例ヘテ判事忌避之申請更ニ違背リ
シテ却下スル裁判ニ如キハ其性質ニ於テハ終局判決前ニ裁判ニシテ終局判決
ト同時ニ控訴者タルハ上告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ルモノハ其性質上
法律ニ特ニ之ニ對シテ抗告ヲ爲スルコトヲ許シ却テ終局判決ニ對シテ控訴者タル
上告ニ依リテ終局判決ト同時ニ不服ヲ申立ルコトヲ許サズ是レ即チ控訴上
告ノ手續ヲ簡スルノ趣旨ニ外ナラス(第三八條第三九七條第四三三條參照)
抗告ヲ許ス裁判即チ法律ニ特定シタル決定命令トハ訴訟手續ニ關スル申請ヲ
口頭辯論ヲ經テシテ却下スル裁判及ヒ民事訴訟法ノ各條ニ於テ特ニ抗告ヲ
許ス旨ヲ規定シタルモ或處ニ其他ノ法律ニ於テ同様ノ規定アルモノハ是レ亦受
命判事若クハ受託判事ニ對シテ裁判所書記又ハ裁判所書記ノ爲シタル處分ニ付テ不服アル
トキハ先テ受託判事ニ對シテ裁判所書記又ハ處分ノ變更ヲ求メ而シテ後受託裁
判所ノ裁判力抗告ヲ許スモノナルトキハ始メテ之ニ對シテ抗告ヲ爲シ得ル

又裁判所書記官受託裁判所ノ機關トシテ或處分ヲ爲スモノトシテ過キテハ先
 ツ其裁判又ハ處分ニ不服スルモノハ受託裁判所ニ對シテ其變更ヲ求ムルヲ相
 當ノ順序トスレムナリ此受託判事又ハ受託判事ノ裁判若クハ裁判所書記官處
 分ノ變更ヲ受託裁判所ニ求ムルモノハ一種ノ救濟方法所屬抗告ニ非ス唯此方法ニ
 依テ不服ヲ申立テハ其裁判又ハ處分ノ性質上抗告ヲ許スルモノナラズ
 之要スルノ種(第四六五條)ニ依テハ第三八條第三項第三項第三項第三項第三項
 抗告ニ二種アリ一ハ普通抗告トシテ即時抗告トシテ又抗告裁判所ノ裁
 判ニ對シテ抗告ヲ再抗告トシテ先ツ普通抗告ノ要件トシテハ後ニ抗告ヲ容
 第二ハ訴訟手續ニ關スル申請又ハ口頭辯論ヲ經スルヲ却下シタル決定命令其他
 法律ノ明文ヲ以テ特ニ抗告ヲ許シタル決定命令ニ對シテ爲スコトヲ要ス此等
 訴訟手續ニ關スル申請ヲ口頭辯論ヲ經スルヲ却下シタル裁判所ニ法律力不
 服ノ申立ヲ許スルニ必要ナシトシテ特ニ不服ヲ申立テ許スル旨ノ明文又掲テ
 之モノアリ例ヘハ第七十一條第三項第二百四十一條第三項前段ノ裁判ノ如

キ即チ是ナリ又民事訴訟法ニ於テ特ニ普通抗告ヲ許ス旨ノ規定アル裁判ハ第
 四十六條ノ特別代理人任職ノ申請却下ノ裁判第二百二條ノ訴訟費用救助ニ關ス
 ル裁判第八十九條前段ノ訴訟手續中止ノ裁判第二百九十四條第三百二條第
 三百二十八條ノ證人鑑定人ニ對シテ費用賠償及ヒ罰金ヲ言渡ス裁判等はナリ非
 訟事件手續法ニ於テハ別ニ抗告ノ規定ヲ設ケ其特別ノ規定ノ外民事訴訟法ノ
 抗告ニ關スル規定ヲ準用スル旨ヲ定メタル規定ニ依テハ抗告ノ申立ニ
 第二 法定ノ方式ニ從ヒテ提起スルコトヲ要ス(第一項)抗告ノ申立ニ
 抗告ハ通常不服アル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ノ屬スル裁判所ニ抗告
 狀ヲ差出シテ爲スヘキモノナリ(第四五七條第一項)抗告狀ニ記載スルキ要件ニ
 付テハ別段ノ規定ナキモ控訴狀ニ於ケルト同シク其不服アル裁判ノ表示ト抗
 告ヲ爲ス旨ノ陳述トヲ具備スルヲ要スルハ疑ナカラス而シテ其裁判ニ對シ
 如何ナル程度ニ於テ不服ニシテ如何ナル變更ヲ求ムルヤノ申立點ニ抗告ノ理
 由ノ如キハ必スシモ之ヲ掲ケザルモ抗告狀ノ效力ニ影響ヲ及ボスハ否ナリ以テ
 非ス唯抗告ニ付テハ裁判所通例口頭辯論ヲ經スルヲ爲シテ抗告狀ノ以テ

實際抗告ノ目的ヲ達スル上ニ於テハ之ヲ抗告狀ニ又ハ別段ノ書面ニ掲ケテ差
 出スノ必要ヲ生スルノミ其他抗告裁判所ニ於テ口頭辯論ヲ開ク場合ニ於テハ
 始メテ右ノ申立及ヒ理由ヲ陳述シ又ハ以前ノ申立及ヒ理由ヲ變更スルコトヲ
 妨ケテ抗告狀ヲ直チニ抗告裁判所ニ差出サシメテ不服ヲ所裁判所ニ爲シタル裁
 判所又ハ裁判長ニ屬スル裁判所ニ差出サシメルハ便宜ニ其裁判所又ハ裁判長
 ガ抗告ヲ理由アリト認メタルトキハ自ラ前裁判所不服ナル點ヲ更正スルコト
 ヲ得セシメンカ爲メナリ即チ裁判所又ハ裁判長共抗告ニ基キ更ニ辯證ヲ爲シ
 再度ノ考案又新ニ提出セラレタル事實及ヒ證據方法ニ依リ前裁判所ノ不當ナル
 コトヲ發見シ抗告ヲ理由アリトスルトキハ前裁判所變更シ以テ不服ノ申立ヲ
 消滅セシムルコトヲ得若シ又右裁判所又ハ裁判長ガ抗告ヲ全然理由不備トシ
 若クハ不服ノ點ヲ一部理由アリトシ其部分ニ關シ前裁判所更正シ備ノ上審
 ヲ理由ナシトスルトキハ意見ヲ付シテ三日ノ期間内ニ抗告別抗告裁判所ニ送
 付シ且事件ノ狀況ニ隨ヒ相當ノ聽取ルルル訴訟記録ヲモ送付スルモ前
 第四五九條又民事訴訟法第三編 上訴 抗告 裁許ノ種類及ヒ要件

右ノ例外トシテ急迫ナル場合ニ於テハ原裁判所ヲ經テ直チニ抗告裁判所
 ニ抗告ヲ爲スコトヲ得(第四六一條)又不服ナル裁判所生シタル訴訟ハ區裁判所
 ニ屬スルコトキ若クハ一旦區裁判所ニ屬スルコトキハ抗告狀ヲ差
 出スコトヲ必要トセス口頭ヲ以テ抗告ノ旨趣ヲ陳述シ之ヲ圖書ニ記載セシメ
 以テ抗告ヲ爲スコトヲ得訴訟ノ第三者タル鑑定人若クハ證人ヨリ抗告ヲ爲ス
 場合ニ於テモ亦同シ(第四五七條)第二項法文ニハ證書提出ノ義務アリトノ宣言
 ヲ受ケタル第三者ヨリ抗告ヲ爲ス場合ヲ包含セシメタルトモ第三者ハ他人間
 ノ訴訟手續上證書ヲ提出ヲ命セラルルコトナキハ第三百四十二條第三百四十
 三條ノ規定ニ依リテ明カナルヲ以テ此點ハ畢竟無用ノ空文ニ歸ス(民事訴訟法
 普通抗告ニ付テハ右二ノ要件ノ外別ニ期間ノ定ナキヲ以テ不服ナル裁判ニ對
 シ變更ヲ求ムルニ付キ現ニ法律上ノ利益ヲ存スル間ハ何時ニ至ルモ抗告ヲ爲
 シ得ルモノト謂ハサルヘカラス(民事訴訟法第四十一條)又(民事訴訟法第七十四條)ノ規定
 次ニ即時抗告ノ要件トシテ(民事訴訟法第七十四條)ノ規定
 第一 特ニ法律カ即時抗告ヲ許シタル裁判ニ對シテ爲スコトヲ要ス(民事訴訟法第七十四條)

第二 前通ノ普通抗告ト同様法定ノ方式ニ從ヒテ爲スコトヲ要ス
 第三 法定ノ不變期間内ニ爲スコトヲ要ス
 即時抗告ヲ許ス裁判ハ第三十八條第四十一條ノ裁判所ノ職員ニ對スル忌避申請却下ノ決定第五十二條ノ主參加訴訟アル場合ニ於ケル本訴訟中止ノ決定第五十七條ノ從參加ノ許否ノ決定第八十三條ノ裁判所書記法律上代理人訴訟代理人執達吏ニ訴訟費用ノ負擔ヲ命スル決定第八十五條ノ訴訟費用額確定決定第八十九條ノ訴訟手續ノ中止ヲ拒ム裁判第九十二條ノ訴狀差戻ノ命令第二百四十一條ノ判決更正ノ決定第二百五十三條ノ關席判決ノ申立ヲ却下スル決定第二百五十七條ノ故障却下ノ命令第三百一條ノ證書拒絕ノ當否ニ付テハ決定第三百五條ノ證人忌避申請却下ノ決定第三百九十三條ノ執行命令申請却下ノ決定第四百二條ノ控訴却下ノ命令第四百七十六條ノ再審ノ訴却下ノ命令第五百五十八條ノ強制執行ノ手續ニ於テ口頭辯論ヲ經シテ爲スコトヲ得ル裁判第六百八十條ノ脱藩許否ノ決定第七百五十四條第七百五十六條ノ假處分假處分ヲ取消ス決定第七百六十九條第三項ノ除權判決申立ニ付テハ裁判時點

ナリ此他簡法ニ於テ破産宣告ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ許シ又非訟事件手續法ニ於テハ別ニ或裁判ニ對スル即時抗告ノ規定ヲ設ク尙モ民事訴訟法ノ規定ヲ準用セリ果其間斷ニ付マハ別ニ規定スルハハ前記キヤニ其セヨトシ
 即時抗告ヲ爲スヘキ不變期間ハ七日ニシテ通常裁判ノ適法送達ヨリ始マル又第二百五十三條第六百八十條第七百六十九條第三項ノ場合ニ於テハ裁判ノ言渡ヨリ始マル故ニ即時抗告ヲ爲サントスル者ハ前述ノ方式及ヒ手續ニ從ヒ此期間内ニ爲スヘキハ勿論ナレトモ抗告人ハ急迫ナル場合カトシテ不服アル裁判ヲ爲シタル原裁判所又ハ裁判長ヲ經ス直チニ抗告裁判所ニ抗告ヲ爲シタルニ抗告裁判所カ事件ヲ急迫ナラスト認メ原裁判所又ハ裁判長ニ之ヲ送付スル場合ニ於テ經令七日ノ期間經過シタルトキト雖モ抗告裁判所ニ抗告又爲タル時期カ該期間中ナル以上ノ適法ノ抗告ト看做サレモスナリ又即時抗告ヲ許ス裁判カ第四百六十八條及ヒ第四百六十九條ニ掲ケタル再審ノ訴ノ要件ヲ具フル時キハ即時抗告ノ期間ハ延長セズヒテ第四百七十四條ニ定ムル再審ノ不變期間内ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノトシ蓋シ再審ノ訴ハ確定ノ終

局判決ニ對シテ爲スル抗告モ亦ナシトシテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ル裁判ニ付キ再審ノ訴ノ原因ト爲ルハ其事實存スル地其裁判ノ性質上面ヨリ再審ノ訴ヲ起スコトヲ得スシテ單ニ抗告ノ理由トシテ其原因ヲ主張スルコトヲ得ルニ過キテ而シテ新原因ノ存スル場合ニ於テ僅ニ七日ノ期間内ニ於テ不服ヲ申立テ爲スコトヲ得ルモノトシテ其期間短キニ失スルノ憾ナシトモテ其性質ニ於テ第四六六條(第四四四條)ノ規定ヨリ起ルル場合ニ於テ其開始前即時抗告ノ不變期間ノ經過カ裁判ノ送達ヨリ始マルベキ場合ニ於テ其開始前ニ仍ホ有效ニ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルカ不變期間經過開始前ニ爲シタル不服申立ノ效力如何ニ關スル規定ハ常ニ同ニ出テス或ハ第四百條第四百三十七條ノ如ク判決送達ノ控訴上告ヲ無効トシ或ハ二百五十五條ノ如ク判決送達前ノ故障ヲ有效トシ共ニ明文ヲ掲ケ而シテ抗告ニ關シテハ此點ニ付キ何等明示スル所ナキヲ結果此問題ニ付テハ疑ヲ容ルルノ餘地ナキニ非サレトモ凡ソ不服申立ノ期間ヲ定ムル目的ニ對シテ或期限ノ到達ヲ以テ裁判ヲ確定セシムルニ在リテ其期限前ニ在リテ既ニ裁判ノ言渡ヲ依リ發表セラレ而シテ

別段ノ規定ナキ以上之ニ對シ直チニ不服ヲ申立テ爲スコトヲ許スルニ趣旨ト解スルヲ正當ト信ス情事特別ノ理由ニ基キテ判決送達前ノ控訴上告ヲ無効トスルノ規定ヲ設ケ故ラニ其送達前ノ故障ヲ有效トスル旨ヲ明言スルモ爲メニ不變期間ノ經過開始前ニ爲シタル抗告ヲ理論上有効ト斷定スルニ妨ヲ生スベカラレトナサレテ其間ニ在リテ既ニ裁判ヲ言渡シ依リ發表セラレ而シテ受命判事若クハ受託判事ノ裁判文ニ裁判所書記ノ爲シタル處分ニシテ其性質抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノトシテ對シ變更ヲ求メシトスルハ前ニ說明シタル如ク通常先ツ受訴裁判所ニ其申請ヲ爲シ受訴裁判所ノ裁判ヲ受ケ而シテ其裁判ニシテ抗告ヲ許スモノナルトキハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノナルトモ若シ受命判事若クハ受託判事ノ裁判文ニ裁判所書記ノ處分カ其性質上受訴裁判所ノ裁判タルニ於テ即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツベキモノナルトキハ前述抗告ノ方式ニ依リ七日ノ不變期間内ニ受訴裁判所ニ變更ノ裁判ヲ求ムルコトヲ要ス而シテ受訴裁判所ニ申請ノ理由ヲ附シ認テタルトキハ變更ノ裁判ヲ爲スベク其裁判ニシテ性質上抗告ヲ許スモノナルトキハ更ニ之ニ因リテ不

利益ヲ受ケタル者ヨリ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘク之ニ反シテ受訴裁判所カ右條更ノ申請ヲ不當ナリトスルトキハ其申請ハ申請者ノ爲メニ抗告ノ效力ヲ生スルモノナリ故ニ此場合ニ於テハ受訴裁判所ハ別ニ裁判ヲ爲ナスシテ其申請ヲ抗告裁判所ニ送付スルキモハカ(第四六六條末項)申立ルモノトシテ之ニ依リテ之ニ再抗告即チ抗告裁判所ノ裁判ニ對スル抗告ハ亦其裁判ニ因リ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルトキニ非アレハ之ヲ許ザス(第四五六條第二項然レトモ他ニ何等ノ之ヲ制限スル規定ナキヲ以テ多數ノ學說ニ依レハ抗告裁判所ノ裁判ニシテ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタル以上ハ上級審ノアラン限り再抗告ヲ爲スコトヲ得ヘク隨テ再抗告裁判所ノ裁判ニ對シテモ亦苟モ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シテ而シテ尚ホ上級審アルトキハ抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス故ニ區裁判所ノ裁判ニ對シテ地方裁判所ニ抗告ヲ爲シ抗告裁判所タル地方裁判所ノ裁判ニシテ新ニ獨立ノ抗告理由ヲ生セハ控訴院ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘク尚ホ又控訴院ハ再抗告ノ裁判ニシテ新ニ獨立ノ抗告理由ヲ生セハ之ニ對シテ大審院ニ抗告ヲ爲シ得ルモノト謂ハサルヲ得然ラハ新ナル獨立ノ抗告理由

トハ何ソヤ言辭稍ヤ漠然タルモ要スルニ抗告裁判所ノ裁判カ前審ノ裁判ト異ナルカ又ハ訴訟手續ニ關スル規定ニ違背シテ爲サレタルトキハ新ニ獨立ノ抗告理由ヲ生シタルモノト謂フヘキナリ蓋シ抗告裁判所ニ於テ適法ノ手續ニ依リテ裁判ヲ爲シ而シテ之ト同一旨趣ニ出ラタル前審ノ裁判アルトキハ即チ同一事件ニ付キ既ニ二回同一ノ裁判ヲ經タルモノナレバ最早不服ノ申立ヲ許スノ必要ナシトシテ再抗告ヲ許ササル立法ノ旨趣ナリ故ニ抗告裁判所カ抗告ヲ理由ナシトシテ棄却シタルトキハ二審級ノ裁判共ニ同一ニ出ラタルモノニシテ判經合此二ノ裁判カ其理由ニ於テ相異ナルトキト雖モ抗告裁判所ノ裁判ハ所謂新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生セサルモノナリ抗告裁判所カ新ニ提出シタル事實及ヒ證據方法ニ因リ抗告ヲ棄却シタルトキモ亦同シ若シ兩審ノ裁判カ其一部分ニ於テ同一ナルトキハ其部分ニ付テハ再抗告ヲ爲スコトヲ得ス其變更セラレタル部分ニ對シテハ不利益ヲ受ケタル者ヨリ再抗告ヲ爲スコトヲ得又二審ノ同一旨趣ノ裁判カ引續キ下サレタルニ非スシテ之ト異ナレル裁判カ其中間ニ在リタルトキト雖モ亦再抗告ヲ許ササルモノト謂ハサルヲ得ス例ハハ區

裁判所ノ裁判ニ對シ抗告ヲ爲シタル場合ニ抗告裁判所タル地方裁判所ニ於テハ原裁判ヲ廢棄シテ更ニ別段ノ裁判ヲ爲シタル爲メ之ニ對スル再抗告ヲ更テ控訴院ニ於テ地方裁判所ノ裁判ヲ廢棄シ區裁判所ノ裁判ヲ認可シ第一ノ抗告ヲ棄却シタルトキハ其裁判所新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルモノトシ非テハ之ニ對シ再抗告ヲ爲スコトヲ得ス右ニ反シ左ノ場合ニ於テハ抗告裁判所者裁判所新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生スルモノトシ其性質則テ抗告人ト反對ノ利害關係(一)抗告裁判所カ抗告ヲ理由アリトシテ原裁判ヲ變更シ或ハ下キ其場合ニ抗告裁判所ノ裁判ニ因リテ不利益ヲ受ケ或ハ原告即チ抗告人ト反對ノ利害關係ヲ有スル者ハ再抗告ヲ爲スコトヲ得ル也但チ抗告裁判所カ原裁判ト異ナリタル裁判ヲ爲シタル結果其裁判ノ性質上抗告ノ許スヘカラサルニ至リテ再抗告ヲ爲スコトヲ得サルハ勿論ナリ例ヘハ刑事忌避ノ申請ヲ却下シタル裁判ニ對シ抗告アリテ抗告裁判所カ原裁判ヲ廢棄シ忌避ノ申請ヲ正當ナリト宣言シタル場合ノ如シ即チ其裁判ハ何レモ審級無於テ爲サレタル間ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得サルナリ(第三八條) 附書其性質ノ裁判ニ對シテ不服

(二) 抗告裁判所カ抗告ヲ不合法トシテ棄却セタルトキニ此場合ハ抗告裁判所ニ於テ抗告ノ實體ニ付當否ノ判斷ヲ爲シ而テ之ヲ拒テ直チニ抗告ヲ棄却セタルモノナレハ原裁判ト同一ノ裁判ヲ爲シタルモノトシ非ニ故ニ此裁判ニ因リ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルモノト謂フベク隨テ抗告人ハ更ニ其裁判ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ(三) 抗告裁判所カ訴訟手續ノ規定ニ違背シテ裁判ヲ爲シタルトキニ抗告裁判所ノ裁判カ縱令原裁判ト同一ニ出ラタリトスルモ其裁判ノ基礎タル訴訟手續ニ於テ法律違背アルトキ例ヘハ除斥ノ原因アル民事裁判ニ參與セザルトキ又ハ抗告裁判所カ管轄權ヲ有セザルトキ又ハ新ニ提出セザル事實證據ヲ無視シテ裁判ヲ爲シタルトキノ如キハ新ナル獨立ノ抗告理由アリトシ再抗告ヲ許スヘキモノナリ(四) 本節ノ終ニ據ミ一言ノ附加ヲ要スルハ先ツ抗告ノ取下ニ關スルコトニ對シ抗告ノ取下ニ付テハ何等ノ規定ナキモ其取下ノ許サザルノ理由ナキ例以テ自然他ノ上訴ノ取下ニ關スル規定ヲ準用スル也(五) 信ス唯抗告ハ相澤方ニ對スル

爲スヘキモノニ非サルヲ以テ如何ナル時期ニ於テ取下ヲ爲スニ相手方ハ承諾ヲ得ルノ必要ヲ生セス抗告人ト反對ノ利害關係ヲ有スル者カ第四百六十二條ノ規定ニ依リ抗告裁判所ヨリ通知ヲ受ケテ陳述ヲ爲シ又ハ呼出ヲ受ケテ口頭辨論ヲ爲ス場合ニ於テモ亦同シ次ニ附帶抗告ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤニ付テモ亦何等ノ規定ナキモ所謂眞ノ相手方ナル者ナキノ結果附帶抗告ヲ許スコトアルヘカラサルハ亦明白ナリ即チ抗告人ト反對ノ利害關係アル者ニシテ同シク原裁判ニ不服アルトキハ獨立ノ抗告ニ依リテ不服ヲ申立ツルノ外ナシ

第二節 抗告ノ效力

抗告モ亦停止及ヒ移審ノ二ノ效力ヲ生ス即チ抗告ハ第一之ニ依リテ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ確定ヲ停止スルモノナリ殊ニ即時抗告ヲ爲シ得ヘキ裁判ハ曩ニ述ヘタル不變期間ノ經過ニ因リテ確定スヘキモ此期間ニ即時抗告ノ提起アリタルトキハ其裁判ノ確定ハ爲メニ遮斷セラレ爾後抗告棄却ノ裁判ノ確定スルカ又ハ抗告ノ取下アルニ非サレハ原裁判ハ確定ニ至ラサルモノナリ然

レトモ抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判ハ第五百五十九條ノ規定スル如ク直チニ強制執行ヲ爲シ得ヘキモノニシテ而モ抗告ノ提起ハ原則トシテ其裁判ノ執行力ヲ妨止スルモノニ非ス唯法律ノ明文アル場合ニ限り執行停止ノ效力ヲ生ス例ヘハ第二百九十四條第三項第三百二條第三項ノ規定スル所ノ如シ但抗告カ執行停止ノ效力ヲ有セサル場合ニ於テ抗告ニ依リ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ハ自由ナル意見ヲ以テ申立ノ有無ヲ問ハス相當ト認ムルトキハ抗告ニ付テハ裁判アルマテ自己ノ爲シタル裁判ノ執行ノ中止ヲ命スルコトヲ得尙ホ抗告裁判所モ亦右裁判所又ハ裁判長カ裁判ノ執行ノ中止ヲ命セザルトキハ同シク抗告ニ付テハ裁判ヲ爲ス以前ニ於テ其執行ノ中止ヲ命スルコトヲ得(第四百六〇條)

次ニ抗告ハ尙ホ移審ノ效力トシテ前審ノ裁判ヲ經ル事件ヲ抗告審ニ繫屬セシム而シテ抗告裁判所ニ於テハ不服申立ノ範圍内ニ於テ前審裁判ノ當否ヲ審査シ抗告ヲ棄却スルカ又ハ第四百六十四條ニ從ヒ相當ノ裁判ヲ爲スヘク抗告人ノ不利益ニ原裁判ヲ變更スルコトヲ得タルハ控訴ニ於ケルト同シ又抗告審

ニ於ケル裁判ノ材料ハ抗告ノ種類如何ヲ問ハス前審ニ願ハレタルモソ限
 * 抗告人及ヒ第四百六十二條ニ依リ抗告ヲ通知シ受テ又ハ口頭辯論ニ呼出サ
 レ陳述ヲ爲シコトヲ從サレタル反對ノ利害關係者ハ新ナル事實及ヒ證據方法
 ヲ提出スルコトヲ得ルヲ以テ其新ナル材料ヲモ卷酌シテ裁判ヲ爲スヘキハ亦
 控訴ニ於ケルト同一ナリ(第四五八條)○

第三節 抗告審ノ手續

抗告ハ雖ニ説明シタル如ク第四百五十七條ニ依テ書面又ハ口頭ヲ以テ原裁判
 所又ハ裁判長ヲ屬スル裁判所ニ提起スル事ニ要シテ其裁判所又ハ裁判
 長カ抗告ヲ理由アラドテ不服ヲ點テ全然更正スルコト等ハ抗告ハ之ニ由リテ完
 結テ告ケテ抗告裁判所ニ於テハ其抗告ニ付キ復テ何等ノ手續ヲ爲スコトヲ要セ
 サルニ至ラ故ニ抗告裁判所ハ原裁判所又ハ裁判長カ抗告ヲ理由ナシテ意見
 ヲ付シテ之ヲ抗告裁判所ニ送付シ來リタルトキ又ハ受審裁判所ガ第四百六十
 六條末項末段ニ依リ受命判事若クハ受託判事ノ裁判又ハ書記ノ處分ニ對スル

ハ其收入財産ニシテ其財産ヨリ生スル收入不足スルトキ始メテ市町村稅ヲ取
 ルヘ判事ノ通知又收入財産中其本財産ト通常財産ヲ區別スル事本財産トハ
 不賈ニ其修繕立金等ヲ以テ利を生ズルモノシテ其輸入ノミニテ使用シ其原
 資消之ヲ費消スル物トシテ必ス輸入ノ場合ニ於テハ監督官廳ノ
 許可を得ル之ヲ處分スルモノトシテ其通常財産ト別ニ處テ其處分自
 由ナルモノトシテ輸入又ハ其修繕費等ヲ提出シタルモノイハレ

第十項 市町村ノ監督

(二) 市町村ノ監督官廳ハ市町村ニシテ其監督官廳ニシテ
 市町村長官廳若クハ市長官廳ニシテ存立スルモノトシテ其監督官廳ニシ
 テ其監督官廳ニシテ市長官廳ニシテ其監督官廳ノ作用ハ國ノ行
 政事務官廳ニシテ市長官廳等ヲ機關ニシテ其監督官廳ノ作用ハ國ノ行
 政事務官廳ニシテ市長官廳等ヲ機關ニシテ其監督官廳ノ作用ハ國ノ行
 政事務官廳ニシテ市長官廳等ヲ機關ニシテ其監督官廳ノ作用ハ國ノ行
 政事務官廳ニシテ市長官廳等ヲ機關ニシテ其監督官廳ノ作用ハ國ノ行
 政事務官廳ニシテ市長官廳等ヲ機關ニシテ其監督官廳ノ作用ハ國ノ行

之ヲ爲スル監督機關ハ市町村監督機關ニ對シ強制命令ヲ加フル權有之ヲ強
 制監督ノ如クハ其方法監督ノ新舊種監督トハ市町村監督機關命令自違背
 事又及違背者ニ對シ懲罰ヲ更ニ其方法ト則チ市町村會ヲ決
 議ヲ取消或ハ市町村會ヲ解散命別州ニ移ス得ル事ト此等ノ監督ヲ爲スル
 法律ハ監督者ニ左列手續ヲ與テ之ヲ行ハス然レモ其監督機關ノ行使ハ行
 (一) 監督機關自職的ニ爲スルハ其監督機關市町村監督機關ニ對シ會計
 ノ檢閲ヲ爲スコトヲ得ルモノトシテ

(二) 他動的ノモノニシテ監督官廳ハ市町村ヲシテ定時又ハ臨時ニ監督官廳ニ

事務ヲ報告スルモノ又ハ書類帳簿ヲ提出セシムルコトヲ得ルモノナリ
 監督者市町村於テ第一次ニ府縣知事第二次ニ内務大臣村ニ於テ第三次
 郡長第三次ニ府縣知事第三次ニ内務大臣村ニ於テ第四次ニ監督官廳
 今我々市町村制ニ對シ監督官廳ノ方法ヲ考スルニ左列如クシテ其監督
 (一) 議決ヲ認可スル式則チ市町村自主權ノ作用及重要ナル事件ハ議決ニ付
 々認可ヲ要スルコトハ此項如クシテ其監督官廳ハ市町村監督機關ニ對シ

(二) 市町村機關ノ組織監督官廳ニ對シ

(一) 監督官廳ヲ監督スルモノトシテ市町村會ニ對シ監督官廳ハ其監督官廳
 (二) 監督官廳ヲ監督スルモノトシテ市町村會ニ對シ監督官廳ハ其監督官廳

(三) 監督官廳ヲ監督スルモノトシテ市町村會ニ對シ監督官廳ハ其監督官廳

(四) 監督官廳ヲ監督スルモノトシテ市町村會ニ對シ監督官廳ハ其監督官廳

(五) 監督官廳ヲ監督スルモノトシテ市町村會ニ對シ監督官廳ハ其監督官廳

(六) 監督官廳ヲ監督スルモノトシテ市町村會ニ對シ監督官廳ハ其監督官廳

(七) 監督官廳ヲ監督スルモノトシテ市町村會ニ對シ監督官廳ハ其監督官廳

(八) 監督官廳ヲ監督スルモノトシテ市町村會ニ對シ監督官廳ハ其監督官廳

出シ得ルコトヲ許サレタリ蓋シ監督權ノ濫用ハ自治權ヲ侵ス事ナク水源放流
 之ニ對スル救濟手段ヲ設クルコト必要ナルハナリ市自治團ノ第一條第六項ニ依
 リ市町村會ハ市町村長ノ命ニ從テ市町村會ノ事務ヲ執行スルコトヲ得ル
 市町村內ノ區ニ二種アリ

第十一項 市町村ノ區

第一種ノ區 市制第六十條町村制第六十四條ニ依リ市町村區域廣潤ニシテ
 且人口稠密ナルトキ義務上便宜ヲ爲メ設ケラレル所ナリ此區行政上
 ノ便宜ヲ爲メ多數カラルルモノナレバ其性質簡單ニ行政區畫ニ適キスシテ其
 區内ノ市町村事務處理者ハ各區ニ置カルル區長及ヒ代理者ナリ此區ハ市町村
 長ノ公同體ニ非ス即チ公職人ナラザルニ由リ區長及ヒ其代理者ハ市町
 村ノ機關ノ一ニシテ區ノ機關ト考ヘキモノニ非サルナリ

第二種ノ區 市町村ノ一部ニ於テ有スル財產又ハ市町村ノ一部ニ於テ利用ス
 ル營造物アリキ此等ノ事件ニ關シ市町村會ノ議決スヘキ事項ノ全部若クハ
 一部ヲ議決スルコトヲ得ル其一部ヲ割リ之ニ區會又ハ區總會ヲ設クルコトア

リ其區畫ヲ第一種ノ區ト區別シテ茲ニ第二種ノ區ト名クルモノナリ此區ノ設
 畫ノ手續ハ市制第六十條縣參事會町村ニ在リテハ郡參事會市町村ノ機關ニ代
 テテ條例ヲ發シ之ヲ設クルモノナリ此區ノ性質ニ關シテ公制度ニ非明
 ナルニ由リ左ノ諸說ナリ

第一說 此說ヲ要旨ニ市町村制第五章區區畫第一種ノ區等ニシテ行政區畫
 過キテ而シテ此等ノ區ニ於テ財產若クハ營造物ヲ有スル區長及ヒ其代理者
 區住民ノ共有財產其營造物ハ市町村ノ營造物トシテ規定スル以上ハ財產ハ市町
 村ノ明文上區ニシテ財產ヲ所有スルコトアルヲ規定スル以上ハ財產ハ市町
 團體ニ於テ所有スルモノト認ムルヲ適當ト信ス故ニ此第一說ヲ知シ區有財產
 ヲ強ヒテ區住民ノ財產ナリト強辯スル說ハ採用スルヲ得サルナリ

第二說 此說ヲ唱フ者曰ク市町村制第五章ノ區區畫ニ公法人ナリ其獨立
 ノ公法人ナルノ趣旨ニ市町村制理由書ニ依リ明カナルコトナリ其結果區會
 及ヒ區總會モ區ナル公團體ノ機關ニシテ其區有財產及ヒ區長營造物ノ管理
 維持ノ費用ヲ爲シ徵收スル公課ニ市町村稅ノ一部ニ非ズ區稅ナル情事疑サシ

ト然レトモ市町村制見ルモ市町村ノ最下級ノ地方團體ト爲スノ精神ヲ示セ
 ト明白ニシタ且市町村制第五章於テ區ヲ公法人ト爲スノ趣旨甚明ニ得
 ルニ拘ハラス市町村制附則下ニ區ナル最下級ノ地方團體存在スルモ其ノ
 解スルハ當ヲ得タルモ其非但ト偏狹ナルヲ殊ニ第二級ノ自治體ト爲
 テ區稅ト名クト雖モ市制百三條市町村制百十四條於テ費用ナル文字ノ下
 ニ第九十九條テ文字ヲ挿入シタルヲ見ルモ市町村制之精神ニ區費ノ公課
 稅ニ非シテ市町村稅ノ一部ナリト認ムルニ在ルコトヲ知ルハ其ノ明
 第三說ノ此說ヲ唱フル者同ク區ヲ公法人即チ公共團體ニ非ズルヲ明白
 トモ區州財產有シ得ルコトヲ市町村ハ認ムルハ故ニ市町村ハ區ヲ私法
 爲スノ趣旨ナルコト明カナリ此說ハ現行市町村制ノ解釋トシテ最モ當
 タルモノト信ス者ナリ而シテ區ハ私法人ナルノ結果區會議區議會ハ區ノ機關ニ
 非ス市町村ノ機關ニシテ區ノ費用ニ充ツルヲ爲シ徵收スル所ノ公課ハ區稅
 非ス市町村稅ノ一部ナリト考テ其ノ非トナリ則チ市町村ノ機關ニシテ

市町村ノ機關ニシテ區ノ費用ニ充ツルヲ爲シ徵收スル所ノ公課ハ區稅
 非ス市町村稅ノ一部ナリト考テ其ノ非トナリ則チ市町村ノ機關ニシテ

第十二項、町村組合

町村ニ傳テハ町村制第六章ニ依テ其組合ニ設ケルモ得ルハ其前條
 於テ現行市制ニ於テ其規定存セザルニ由リ市町村又ハ市ト町村トノ組合
 又其必要ナキニシテ非ズルヲ及テ其組合ヲ設ケルノ必要ハ事ニ依リ
 タルニ依リ同スルニ非ズルヲ及テ其組合ヲ設ケルノ必要ハ事ニ依リ
 町村組合ヲ其設立ノ手續ニ從テ二種ニ分テ得ルハ其前條ニ依リ

第一、協議組合 協議組合ハ數町村協議ヲ爲シ上級監督廳即チ郡長ノ許可
 ヲ得テ設ケルコトヲ得ルニ由リ其組合ノ事務ハ其協議ノ町長ノ事務
 第二、強制組合、町村其負擔ニ堪ズルニ及ビ其存立困難ナルトモ郡長
 會ノ議決ヲ以テ強制シテ設ケルニ由リ其組合ノ事務ハ其協議ノ町長ノ事務
 町長ノ事務ハ其協議ノ町長ノ事務

町村組合ノ法律上ノ性質ニ付テモ區ノ性質ト同シク法文ノ規定不備ナルニ由
リ異議アリ且非然則此組合ノ私法上ノモノニ非ズ其私法上ノ組合力
ヲ上ニ專町村制ノ組合共限セル規定上明カナルニ其力或組合ハ公法人
ニシテ明文ナキニ由リ組合ハ公法上町村ノ特別組織ナリト稱スルモノナキニ
非スト雖モ其町村ノ特別組織ナリト稱スルニ就テハ曖昧ニシテ組合ノ性質不明ニ
シテ人ト謂フテ得テ之ヲ固ヨリ組合ハ公法人ナリトノ明文ナキト論者
ノ言ノ如シト雖モ學校組合ハ規定上公法人ナルコト明カナルニ由リ等シク組
合ナリト稱スルニ立法者ハ學校組合ハ公法人ト認メ一般ノ町村組合ハ之ト別
種別性質ハモノト認メテ之ヲ公法人ト認メ得テ之ヲ由リ一般ノ町村組合ハ公法人ナ
リト結論スルモ誤カレト信スルカハ組合ニ對シテ公團體ナル以上ハ組合
管理著及町組合ノ組織ハ機關タルコト當然ナルモノナリト謂フ可キハ組合
總合ヲ說クハ町村制之ハ其ニ組合規約ヲ設ク其規約ニ組合ノ名稱組合組織ノ
町村名組合ノ目的組合役員ノ位置組合員ノ選舉方法組合管理
者組合吏員ノ資格選任組合費ノ徵收方法等ヲ規定スルモノナリ

組合ノ其處理スル事務ニ關シテ係屬區域スルニ依リて一般組合ト特別組合ト
ト別テ前者ハ殆町村事務トシテ切實處理スルニテ後者ハ特殊ノ町村事務
ヲ處理スルモノナリトモ之ハ固チ區分ニ依リテ謂フ可キハ自治體ノ自治體
ニ依リテ之ヲ區分スル可キト謂フ可キハ自治體ノ自治體ニ依リテ之ヲ區分
スル可キト謂フ可キハ自治體ノ自治體ニ依リテ之ヲ區分スル可キト謂フ可キ

第三款 郡

第一項 郡ノ歴史及郡ノ性質

明治二十三年マニ郡ハ郡ノ行政區畫ニ適格ナルシテ明治二十三年郡制施行
セラルルニ及ビ郡ヲ市町村ト同様ニ一自治公團體ト爲セタルトモ其
自治權ハ範圍狭ク郡制ニモ郡ハ公法人タルト明言セテ明言三十二年
郡制改正ニテ現行郡制發布モ郡ハ公法人タルト明言セテ明言三十二年
法令トモト明言セタルニ至リテ郡ノ自治體ト謂フ可キハ自治體ノ自治體
全自治體ノ階級ニ關シテ外國ノ例ヲ參照シ普國ノ例ニ依リテ郡ノ自治體ト謂
郡及市町村ノ階級ニ準ズト雖モ自治團體ニ屬スル州郡爲市町村ノ自治體
外國ニ於テハ行政區畫ヲ編制郡縣及ヒ市町村ノ四級ニ分ルルモ自治團體タ

爲國ノ其唯唯及自治團體ノ其唯唯也。市町村ノ自治團體ノ其唯唯也。
 實情ニ基テ之ヲシテ我國ニ於テ郡ヲ府縣市町村ノ間ニ自治團體トシテ存セ
 上代ヨリ徳川時代ニ至ルマテ郡ナク都人ヲ置カレ之ニ郡可マ置キ或ハ郡代ナ
 之ヲ自治團體ト爲シタルハ非ラシモ總テ行政區畫トシテ存セタルモノニテ
 ノ際ニ郡町村ヲ區畫シテ大小區トシ明治十七年七月郡區町村編制法制定セラ
 レタルトキハ府縣ノ下ニ郡區町村アリテ郡ノ區域ノ廣濶ニ過クルモノハ之ヲ
 行政區畫ニ造キ大吏シナリ即チ我國ニ於テハ郡制ヲ施行スルマテ郡ノ自治體
 郡區ニ沿革ナク隨テ沿革スルヲ郡ノ自治法人ト爲ス。理由大吏モノ其制ヲ
 郡區ニ沿革ナク隨テ沿革スルヲ郡ノ自治體ト爲スハ必要アリ。其理由ハ郡制實

施後ノ實驗ハ郡ヲ自治體ト爲スノ必要ナキコトヲ證明スルモノナリ。固モ少數
 ノ郡ニハ郡立學校ヲ設ケ郡圖書館ヲ有シ郡費ヲ以テ統轄ヲ爲シ興業事業ト爲
 シ其他種種ノ郡事業ヲ爲スルモノナキハ非ス。此等ハ郡ノ現象ニ止マシ
 郡ノ大多數ハ郡事業ヲ有スル郡會及郡議會ハ其自己ノ費用ヲ以テ又ハ縣スル
 郡主タル職務ト爲ス。奇觀文キ元非サ。而シテ今日郡會於現ニ行フ事
 業モ亦必スシテ郡ニ於テ爲サレハ爲スコトヲ得サルモノニ非ス。學校及ヒ統
 港ノ如キハ之ヲ縣ノ事業ト爲ス可ナリ。或ハ町村組合事業ト爲ス可ナリ。其
 他ノ事業モ縣事業ト爲ス可キモノニ非サ。郡會ハ町村組合ヲ以テ爲スコト難
 キニ非サルナリ。故ニ實際ノ必要ニ應ジ町村組合ヲ設置セテ自治團體タル郡ヲ
 階級ヲ全廢スルモ可ナリト信スルモノナリ。

第二項 郡ノ要素

第一ノ郡ノ區域ハ郡ノ自治體ト爲スルノ必要ニ應ジテ之ヲ同シク區域ヲ以テノ要素
 郡モ市町村ノ同シク郡ノ自治體ト爲スルノ必要ニ應ジテ之ヲ同シク區域ヲ以テノ要素

其爲其區域町村ニシテ或立河州モナ由郡制第何條市町郡ノ區域中ニ合著
 事ヲレ派シ列郡ト併ヒ存スルモノトセラレタリ蓋シ市ハ町村ニ比シ大ナルカ
 故ニ府縣知事ノ直轄ト爲スヲ適當ト認メタレハナリ郡ノ配置分合ハ法律ヲ以
 タ之ヲ定ムルモノト爲シ其境界ハ町村ノ境界變更アリタルトキ若クハ市町村
 相互間ニ變更アラザルトキ若クハ所屬未定地町村ノ區域ニ編入セラレタルト
 キハ自ラ變更スルモラモラセシメタリ又郡ノ廢置分合及セ區域變更爲メ海必
 要ナルハキ財產處分ハ法律ニ規定ヲ除ク外郡縣市府縣郡市參事會
 及ヒ町村會ノ意見ヲ徵シテ之ヲ定ムラルルニ依リテ郡制第三條ノ規定ニ其
 第二條郡ノ住民ニシテ其ノ範圍ニ在リテ其ノ範圍ニ在リテ其ノ範圍ニ在リテ其
 郡ハ一定ノ區域ヲ基礎トシタル人民ノ團體ニシテ其團體員ハ郡ノ住民ト名ヲ稱
 シテ住民ノ觀念ハ市町村住民ニ於ケルニ同シ或ハ郡制ニ住民ニ關スル規定ナ
 キヲ以テ郡制ハ住民ヲ以テ團體ノ要素トセシメ町村ヲ以テ其要素トシテ爲リ且
 此論者ハ郡制第一條又郡制第何條區域ニ依リ町村ヲ包攝スルノ規定ハ其理由
 ノ根據ノ一ト爲ス所願也郡住民ニ關スル規定ナキヲ以テ其ノ必要ヲ認

メナルカ爲メキチ又郡制第一條ハ郡制町村上ノ階級之團體ヲ示スルニ止リ
 モノナルニ由リ此等ノ理由ヲ以テ此ノ如ク解釋スルコトヲ得タルナリ且郡會
 議員ハ町村團體ニ於テ之ヲ選舉スル又郡ノ收入ハ町村ニ對シテ郡費ヲ分屬ノ
 ミナラス郡住民ニシテ郡ノ營造物財產ヲ使用スル者ニ對シテ直接ニ此等ノ者
 ヲリ使用料ヲ徵收シ得ルヲ以テ見ルモ町村ハ郡ノ要素トシテ知ルヘキナ
 リ又郡制第一條ノ規定ニ依リ郡會ノ範圍ニ在リテ其ノ範圍ニ在リテ其ノ範圍
 郡ノ住民ノ權利ハ郡ノ公用財產及ヒ營造物ヲ使用シ得ルニ在リ又郡住民ノ義
 務ハ郡ノ費用ヲ直接間接ニ負擔スルニ在リ又郡住民ノ權利ハ郡ノ公用財產
 第三ノ自治權ニシテ其ノ範圍ニ在リテ其ノ範圍ニ在リテ其ノ範圍ニ在リテ其
 郡ノ自治權ハ市町村ノ自治權ヨリ狭ク郡ハ市町村ノ如ク條例ヲ設ケ郡
 住民ノ權利義務ヲ定ムルノ權ナキ又郡條例ヲ以テ郡稅ヲ設定シ之ヲ郡住民ニ
 賦課スルノ權能ナキモノナリ要スルニ郡ノ自治行政ノ範圍ハ主トシテ郡ノ財
 產及ヒ營造物ヲ設立維持管理スルニ在ルモノナリ

第三項 郡ノ機關

第一 議決機關ハ郡會及ヒ郡參事會トシテ設ケルモノトス
郡ノ議決機關ハ郡會及ヒ郡參事會トシテ設ケルモノトス
(一) 郡會 市町村會ニ比シ其權限ヲ範圍ハ狭ク即チ市町村會ノ如ク郡一切ノ事件ヲ議決スルコトヲ得ヌ唯法律命令ニ依リ定メラレタル事項ヲ議決シ得ルニ止マリ其列記事項以外ノコトハ縱令郡ノ利害ニ關スルモ之ヲ議決スルノ權限ナキモノナリ是レ市町村制ニ於テ市町村會ノ議決スルキ事件ノ概目ヲ規定シタルニ反シ郡制ニハ其權限ヲ制限的ニ列記シテ定メタル所以ナリ(郡制第二九條) 郡會ノ權限ト認メラルヘキ事項ヲ列記スルニテハ(一)法律命令ニ依リ定メラレタル事件ニ關シ郡ノ意思ヲ決定スル權(郡制第二九條) 第九條 第五條 第六條 第八條 第九條 第十條 第十一條 第十二條 第十三條 第十四條 第十五條 第十六條 第十七條 第十八條 第十九條 第二十條 第二十一條 第二十二條 第二十三條 第二十四條 第二十五條 第二十六條 第二十七條 第二十八條 第二十九條 第三十條 第三十一條 第三十二條 第三十三條 第三十四條 第三十五條 第三十六條 第三十七條 第三十八條 第三十九條 第四十條 第四十一條 第四十二條 第四十三條 第四十四條 第四十五條 第四十六條 第四十七條 第四十八條 第四十九條 第五十條 第五十一條 第五十二條 第五十三條 第五十四條 第五十五條 第五十六條 第五十七條 第五十八條 第五十九條 第六十條 第六十一條 第六十二條 第六十三條 第六十四條 第六十五條 第六十六條 第六十七條 第六十八條 第六十九條 第七十條 第七十一條 第七十二條 第七十三條 第七十四條 第七十五條 第七十六條 第七十七條 第七十八條 第七十九條 第八十條 第八十一條 第八十二條 第八十三條 第八十四條 第八十五條 第八十六條 第八十七條 第八十八條 第八十九條 第九十條 第九十一條 第九十二條 第九十三條 第九十四條 第九十五條 第九十六條 第九十七條 第九十八條 第九十九條 第一百條

郡員惟獨古ノ郡長トシテ之ヲ選任スルモノトス
(一) 郡會 郡會ハ郡ノ總機關トシテ郡ノ行政及ヒ其利益ノ保護ニ關シテ官廳ニ提出セラルル官廳ノ職務ニ應ジテ行使ス
(二) 郡參事會 郡參事會ハ郡會ニ對シテ顧問的ニ職務ヲ行フコトヲ得ルモノトス(郡制第二九條) 郡會ハ郡ノ總機關トシテ郡ノ行政及ヒ其利益ノ保護ニ關シテ官廳ニ提出セラルル官廳ノ職務ニ應ジテ行使ス
(三) 郡會議規則及ヒ傍聴人取締規則ヲ設ケ又議員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得ルモノトス(郡制第三十條) 郡會ハ郡ノ總機關トシテ郡ノ行政及ヒ其利益ノ保護ニ關シテ官廳ニ提出セラルル官廳ノ職務ニ應ジテ行使ス
(四) 郡會ノ組織ヲ考スルニ改正前ノ郡制ニテハ郡内ニテ地價一萬圓以上ノ土地ヲ有スル大地主ヨリ互選スラレタル者及ヒ町村會ニ於テ町村公民會ヨリ選舉スラレタル者ヲ以テ郡會組織セラレタルト雖モ現行郡制ニテハ大地主ノ議員ヲ廢止且町村會ニ於テ郡會議員ヲ選舉スルノ復選ノ制度ヲ廢止平等直接ノ選舉ヲ爲シ町村公民會中町村會議員ヲ選舉權有キ年以來三圓以上ノ納金者ヲ選舉權有キ年五圓以上ノ納金者ニ被選舉權ヲ與ヘヨリ元來大地主ノ制度ニ關連於テ沿革上必要ナク先シモ我國ニ於テ改封藩制度ノ破壞ニ著シク地主ノ

特權津貼付シテ得進出於タル若知ク此ノ如キ制選ナリルノ必要ナキナレドモ抑テ果利普通西ノ制能ニ餘ヒテ設ケテ選出制ナリルカ故ニ現行制トテ其之ニ應減額額ヲ付シタル等ナリ又町村會議者間接選舉事應之ニ爲民ノ直接選舉事則爲町村所以其間接選舉員於於左ノ如キ制能ヲ以テナリトシテ平等選挙ノ（一）選舉權天行者少額ニ由リ勸誘行ハリ易キ事等ニハ大抵選挙職員（二）町村會ニ於テ選舉ヲ行フニ由リ一被於民ハ自治機關ノ組織ニ冷淡事爲議員ノ代價キチ生ハリ易キ事等ニハ一被於民ハ自治機關ノ組織ニ冷淡事爲（三）町村會議員ヲ自黨ヨリ出サントスルトキハ町村會議員モ自黨ヨリ出サテ又町村ヘ其利無隨テ町村會議員選舉ヲ激奮ナラシメタリトシテ（四）町村會議員變更セサル以上ハ町村會ヲ幾度解散スルモ其矯正ノ效ヲ奏ス（五）町村會議員選舉ノ時ニ町村會選舉區内ニ多額ヲ占ムル黨派ノ町村會議員ノ投票方法ニ由リ町村制ニ於テ連名投票ヲ採レルト異ナリ小選舉區單記投票制第十五條ノ制度ニ依リテ蓋然出選舉區内ニ多額ヲ占ムル黨派ノ議員ノ選出ヲ防カントスルカ爲メナリ又無記名投票ノ制ヲ採リタルノ點ハ市

町村制ニ同旨ト雖モ郡制ニ於テハ被選舉人ノ氏名ヲ書スルニ能ハサル者ハ投票資格ノ條件得ヌトモ其理由ハ十法無記名投票立制ノ有效テラシキ此類ノ制能按被選舉人ノ氏名ヲ書スルノ事項能辦サル如キ教育ノ程度低キ者ハ選舉權ヲ行ハサリタル等ナル事ニ專問ノ旨能ハリスル等ニ其ノ必要ニ有テ町村會議員ノ選舉郡會ニ議決及出府縣知事ノ許可ニ經郡長ニ就テ決定課ラン又議員ノ任期年限年ニ定テ兼職職員及任期等々市町村會議員ノ任期ニ比シ二年間短トシテ其理由ハ

(二) 郡縣事會郡縣事會ニ純然行政機關非シテ名稱事會ヲ對モ市事會會ノ如ク自治行政ノ執行機關ノ地位ヲ占ムルモノニ非サルナリ其權限ハ郡會ノ權限ニ屬スル事非シ其委任ヲ受カテ議決課辦及六種時急施ヲ郡長ニ於テ郡會員召集等ノ限ナレドモ郡會員代表選ヲ議決課辦スルノ權郡制第五條第五六條等ニ其郡縣事會權限ヲ屬スル事非シ選舉レハ

(一) 郡會ノ議決ニ範圍内課辦ノ財產及事務進給必管理ニ關係重要ナル事務又議決スルカ又ハ郡費支辨工事執行ニ關スル規定ヲ議決スルコト郡制第

其支給方法有給吏員ノ退職料退職給與金遺族扶助料及ニ其支給方法ヲ
一定スルコト(郡制第八〇條第八二條) 郡議會ニ付スルコト

(己) 郡ノ豫算ヲ調整シ之ヲ郡會ニ提出スルコト及特別會計ヲ設クルコト
(郡制第九六條第九七條第一〇一條)

(庚) 決算ヲ郡會ニ報告スルコト(郡制第一〇二條) 且年報費費表費帳品

(一) 郡ノ出納吏ヲ任命シ又之ヲ郡ノ委員ノ組織選任任期ニ關スル事項ヲ定ム
(郡制第六四條第六五條)

(二) 郡ノ事務ニ關スル庶務規程ヲ定ムルコト(郡制第七二條)

(三) 町村行政ノ監督ヲ爲スルコト(郡制第七三條) 且郡制第七四條第七五條第七六條第七七條第七八條第七九條第八〇條第八一條第八二條第八三條第八四條第八五條第八六條第八七條第八八條第八九條第九〇條第九一條第九二條第九三條第九四條第九五條第九六條第九七條第九八條第九九條

郡長ノ資格ハ我國ニテハ郡長試驗ニ及第シタル者又ハ五年以上官務ニ從事シ
判任官五等以上ニ在リテ郡長試驗委員ノ檢衡ヲ經タル者ヲ指スルコトヲ要スルコト

明治二十三年二月四日勅令第九號明治二十年十月二十九日內務省令第五號

郡ノ行政事務ニ關シテハ原則古レテ郡ノ官吏ヲシテ之ヲ補助スルモノナルヲ以テ其他

郡ニ有給吏員又ハ名譽職ヲ郡委員又置クコトヲ得有給吏員ハ府縣知事ハ由リ

任命セラルルモノナルヲ以テ郡長ヲ命テ承テ郡ノ事務ヲ掌ルモノナリ又郡長ハ郡

官吏又ハ吏員中ニ就キ郡ノ出納吏ヲ命テ郡ノ出納事務ヲ掌ルモノナリ又地方官制

ニ依リ代理ノ外郡吏員ハ臨時代理セシムルコトヲ得ルモノナリ(郡制第六三

條乃至第六五條第六八條第七六條乃至第七九條) 且郡制第六三條第六四條第六五條第六六條第六七條第六八條第六九條第七〇條第七一條第七二條第七三條第七四條第七五條第七六條第七七條第七八條第七九條第八〇條第八一條第八二條第八三條第八四條第八五條第八六條第八七條第八八條第八九條第九〇條第九一條第九二條第九三條第九四條第九五條第九六條第九七條第九八條第九九條

元保證金及ヒ賠償責任ニ付テハ郡制第四百四條ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ

爲シ之ニ關シテ現行法規例ハ三十三年勅令第二百四十八號ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ

吏員ノ外部ノ行政ニ關スル一部ノ事務ヲ町村吏員ヲシテ補助執行セシメ若ク

ハ之ニ委任スルコトヲ得ルモノナリ(郡制第一三三條) 且郡制第一三三條

郡議會ニ付テハ郡制第一三三條

郡議會ニ付テハ郡制第一三三條

郡議會ニ付テハ郡制第一三三條

郡議會ニ付テハ郡制第一三三條

郡議會ニ付テハ郡制第一三三條

郡議會ニ付テハ郡制第一三三條

郡議會ニ付テハ郡制第一三三條

郡議會ニ付テハ郡制第一三三條

郡議會ニ付テハ郡制第一三三條

郡議會ニ付テハ郡制第一三三條

郡議會ニ付テハ郡制第一三三條

郡議會ニ付テハ郡制第一三三條

郡議會ニ付テハ郡制第一三三條

郡議會ニ付テハ郡制第一三三條

郡議會ニ付テハ郡制第一三三條

郡議會ニ付テハ郡制第一三三條

郡議會ニ付テハ郡制第一三三條

郡議會ニ付テハ郡制第一三三條

郡議會ニ付テハ郡制第一三三條

郡議會ニ付テハ郡制第一三三條

第四項 郡ノ事務

市町村ニ於ケル其等ハ郡ノ行動範圍ニ屬スルモノナルヲ以テ其事務中法律命令ニ
依リ郡議會ニ付テハ郡制第一三三條

因甲郡も不必要なる事項ヲ爲スノ權限ヲ有セト雖も郡於テ其要否ヲ判定スル餘地ナク必要ナル事項トシテ郡兩於テ爲スル力ナク亦前若ク如前項ノ其郡ニ於テ必要ナク無効判斷スル餘地アル後擧ノ如キ地ニ於テ所謂必要事務ト隨意事務トノ區別アリ其他郡長カ國ノ官吏トシテ行フ事務及ヒ郡參事會カ行フ訴訟ノ裁決事務ノ如キアリト雖モ此等ハ國ノ機關トシテ行フモノニテ郡ノ機關トシテ行フモノニ屬スルニ由リ固ヨリ郡ノ事務ニ非ナルナリ且、後述ノ法律ニ關スル一階ノ事務マデ行政員マデハ縣知事トシテ行フ我邦ニテハ郡市町村等々一ツ自治團體ナリ其權限若シテ西ノ郡ニ異ナリ郡條例郡規則ヲ發布スル權限限有テ其自治權分限シテ第一項ノ第三節放逐ノ條如ク四百二十五條百兩管令如ク第二條ノ規定モ行政員ノ其放逐ノ條々ノ主目目的ハ町村又ハ數町村ヲ爲シ得ラレナルコトヲ爲テシテ其權限ハ其事務ニ必ク郡全體ノ利害關係スルヲ要スル其郡ノ利害關係ハ其郡中ニ在リ且、郡ノ事業ニ於テ其權限限有テ得ルモノナラズ又郡ノ自ら郡費ヲ郡ノ事業ニ經營スル支辨得ルモノナラズ其他公益上必要ナ

報

○偽造文書ノ行使、偽造變造ノ文書ハ詔書ヲ除外スル外之ヲ行使スル由リテ罪ノ既遂ト爲ルモノトナリ故ニ如何ナル行使ナリヤ否ヤハ重大ナル問題ナリ之ニ關シテハ大凡二説アリ一ハ其文書ヲ他人カ目撃シタル時ヲ以テ行使アリトシ他ノ一ハ他人ノ目撃シ得ル狀況ニ置クヲ以テ是レト爲ス此問題ノ事實トシテ現レタル概要ハ偽造シタル文書ヲ甲ニ交付セントシテ其家族タル乙ニ交付シ甲ノ目撃セザル間ニ乙ヨリ返戻シタリト云フニ在リ此實際問題ニ關シ宮城控訴院ハ無罪ヲ言渡シタルヲ同院檢事長ハ之ヲ不當トシテ上告ニ及ヒタルニ大審院ハ詳細ナル説明ヲ附シ有罪說ヲ採リテ曰ク原院檢事長上告論旨ノ當否ヲ判定スルニ付キ之ハ文書偽造罪ノ完成ニ必要ナル行使ノ觀念ヲ審究シ偽造文書ノ行使アリトスルニハ或論者ノ主張スルカ如ク利害關係人カ五官ノ作用ニ依リ偽造文書ノ内容ヲ認識シタルモノトシ必要トスルヤ若クハ上告論旨ニ謂フ所ノ如キ犯人ノ所爲カ利害關係人ヲシテ文書ノ内容ヲ認識スル

コトヲ得セシムヘキ程度ニ達シタルヲ以テ足レリトスルヤヲ決セタルヘカ
 ス依テ先ツ文書偽造行使用ノ性質ヲ考フルニ法律カ文書偽造行使用ノ所爲ヲ罰
 スルハ取引上ニ於テ文書ハ信用ヲ害スヘキ危害ヲ豫防シ文書ノ信用ヲ保護ス
 ルモノニ外ナラス換言スレハ文書偽造行使用ヲ罰スルハ偽造文書ノ行使用カ現
 ニ文書ノ信用ヲ害スルノ結果ヲ生シタルカ爲メニハアラスシテ之ヲ害スヘキ
 危険ヲ生セシメタルカ爲メナリ故ニ文書偽造罪ノ完成ニ必要ナル行使用アリト
 スルニハ犯人ノ所爲カ文書ノ信用ニ對スル危険ヲ生スルノ程度ニ達シタルノ
 ミヲ以テ足レリトシ犯人ノ行爲ヨリ生スル其後ノ結果如何ハ之ヲ問フノ必要
 ナキモノト雖ハサレテ得ス然ラハ如何ナル場合ニ於テ犯人ノ行爲ハ此程度ニ
 達シタルモノト謂フコトヲ得ヘキヤト云フニ犯人ガ利害關係人ニ於テ任意ニ
 其内容ヲ認識シ得ヘキ状態ニ於テ偽造文書ヲ利害關係人ノ閱覽ニ供シタルノ
 時ナリト答フルヨトヲ得シ換言スレハ犯人カ或方法ヲ以テ其文書ヲ利害關
 係人ノ閱覽ニ供シ利害關係人ヲシテ其内容ヲ知ルコトヲ得セシムヘキ状態ニ
 置キタルトキハ利害關係人ニ於テ現ニ之ヲ閱覽シテ其内容ヲ認識シタルト否

トニ拘ラス文書ノ信用ニ對スル危険ハ眞乎ニ生シタルモノニシテ偽造文書ノ
 行使用アリタルモノト謂フコトヲ得ヘシ何トナレハ利害關係人カ未タ其文書ノ
 閱覽ニ依リテ其内容ヲ認知セタルモ犯人カ其文書ヲ閱覽シテ其内容ヲ知ルノ
 機會ヲ利害關係人ニ與ヘタル以上ハ文書ノ信用ヲ害スヘキ危機ハ此瞬間ニ於
 テ生シタルモノニシテ犯人ノ所爲ハ即チ文書ノ信用ニ對スルノ危険ヲ生セシ
 メタルモノト謂ハサルヘカラサルヲ以テナリ是ヲ以テ調査帳簿其他一定ノ場
 所ニ備付ケテ利害關係人ニ閱覽セシメ事實證明ノ用ニ供スヘキ書類ニ付キテ
 ハ犯人カ偽造文書ヲ其場所ニ備付ケテ利害關係人ノ閱覽ニ供スルト同時ニ偽
 造文書ノ行使用アリタルモノニシテ利害關係人カ之ヲ閱覽シタルト否トハ犯罪
 ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナク犯人カ偽造文書ヲ特定ノ對手人ニ閱覽
 セシメテ或事實ヲ證明セントスル場合ニハ犯人カ其文書ヲ對手人ニ交付スル
 ニ因リテ其犯罪ハ完成シ對手人カ之ヲ閱覽シテ其内容ヲ認知スルコトハ犯罪
 ノ成立ト何等ノ關係ヲ有スルコトナシ犯人カ郵便其他ノ方法ヲ以テ文書ヲ對
 手人ニ送付シ其文書カ對手人ノ手元ニ到達シタル場合ニ付キテモ亦多同一ノ

